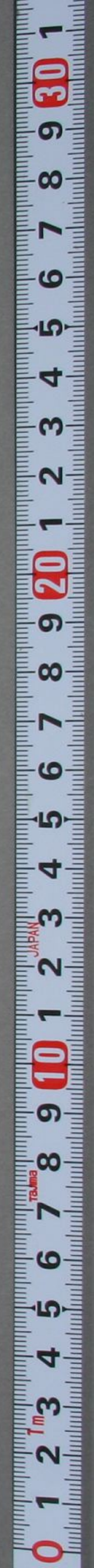


本朝軍益考六

ケ 5  
58  
2

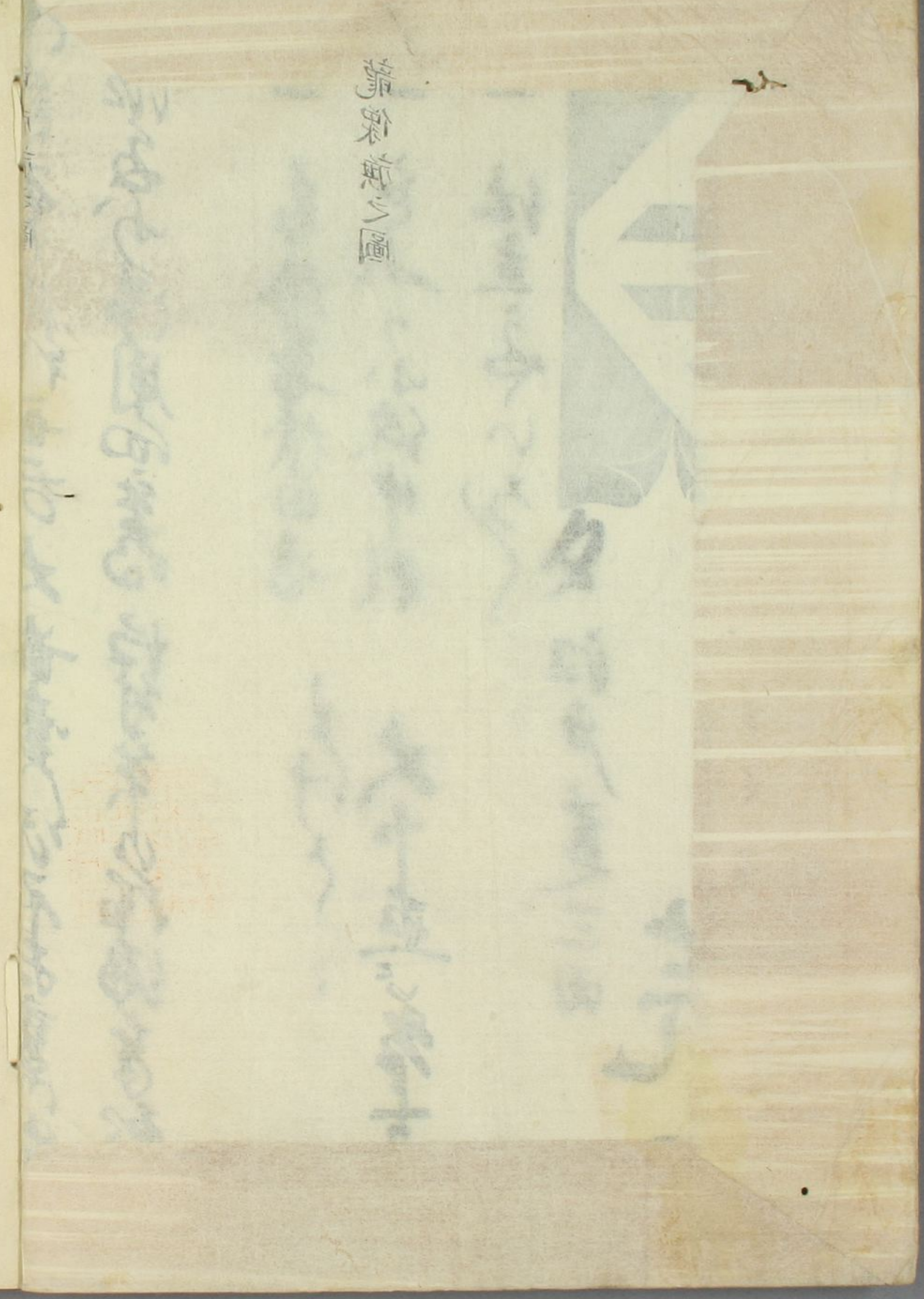


鏡錄無八圖

本朝軍器考圖式卷之五

目錄

- 一 石弓之辨
- 一 火砲之辨
- 一 佛郎機之圖
- 一 火箭之辨
- 一 火箭之圖
- 一 石火矢之圖
- 一 弩弓之辨



- 一 弩弓之圖
- 一 烏銃之辨
- 一 烏嘴銃之圖
- 一 鐵炮今制
- 一 矛鎗之辨
- 一 矛戟之圖式
- 一 槍之辨
- 一 長刀之辨
- 一 短刀之辨



- 一 丙毛槐林劍之圖
- 一 七星劍之圖
- 一 飾大刀名所之圖 柄頭 鞘 目 貫 鴨 目 鐸 折
- 一 武大刀野大刀之辨
- 一 屍鞘之辨
- 一 鞘卷之辨
- 一 打刀之辨
- 一 脇差之辨
- 一 筭之辨

本朝軍器考圖式卷之五目錄終

本朝軍器考圖式卷之五

石弓之辨

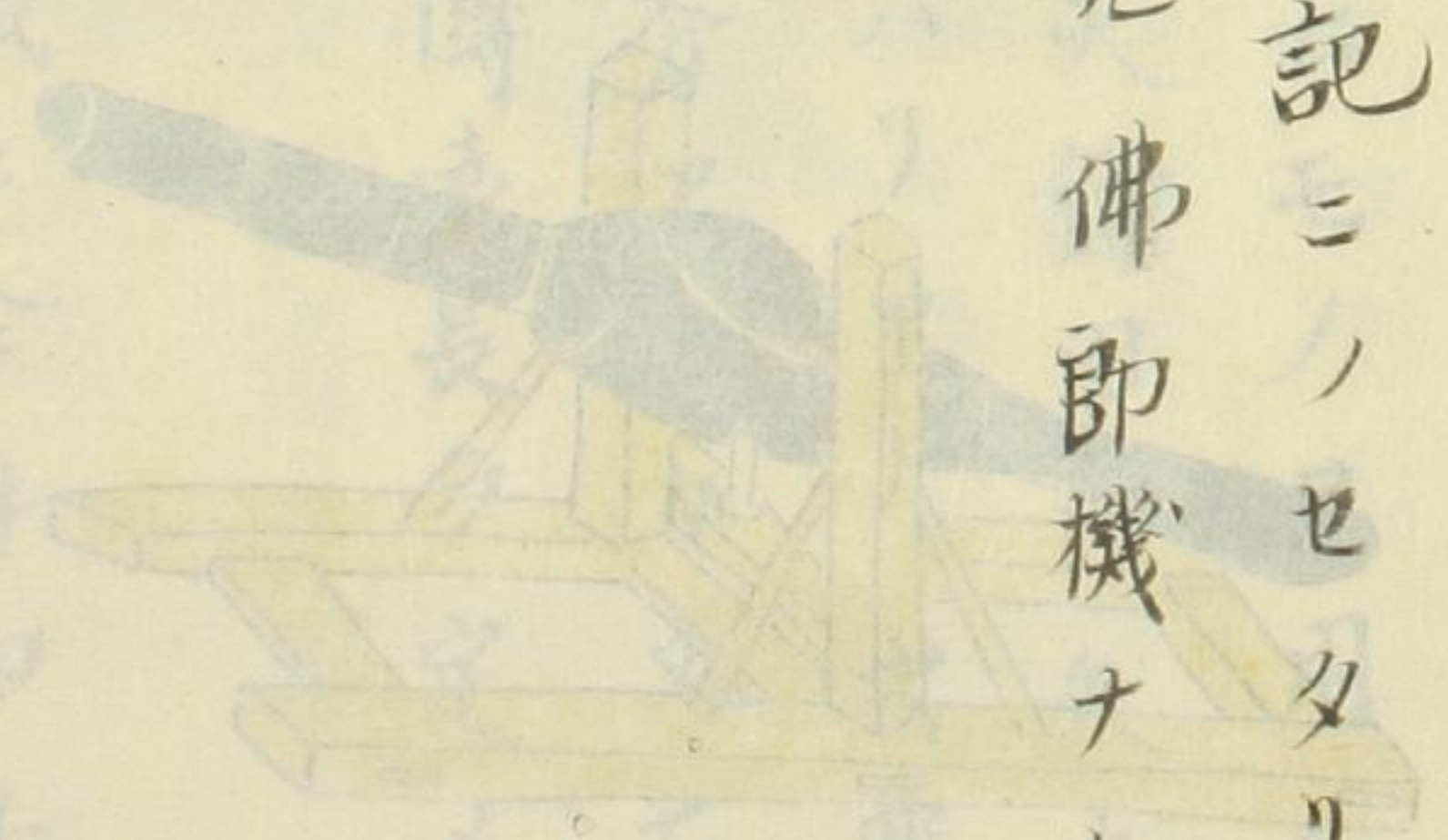
夫吾邦石弓ノ起レルヤ推古帝ノ二十六  
隋ノ煬帝三十萬ノ兵ヲ率シテ高麗ヲ征シ  
給フニ高麗ノ軍ヨク防キテ隋軍敗走セシ  
カハ今年秋高麗ノ王彼ノ虜ヲ吾朝ニ獻ラ  
又俘虜二人鼓吹弩抛石等ノ物ヲ獻ラセタ  
ルソ此器ノ因史ニ見エタル初トヤイハニ

源將軍義家ノ陸奥前後十二年ノ征戦ニモ  
此物專ラ用ヒラレシト見ユ又サレト近代  
ニ至テ其機械ノ制廢レテ知ル人モナク其  
名モ傳ユサリキ

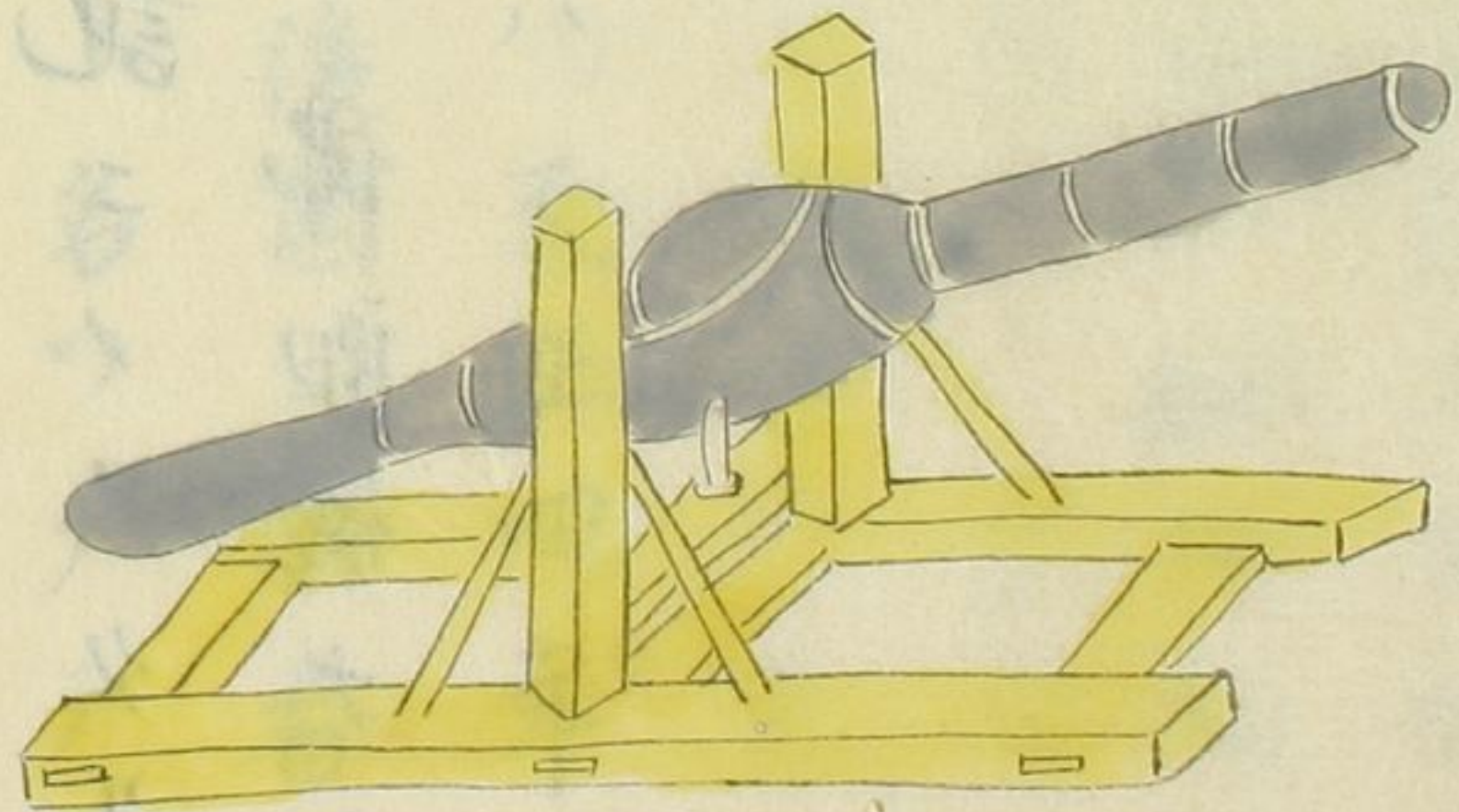
火砲之辨

今世ニ火砲ト云モノハ天正四年ノ夏大友  
宗麟入道カ領セル肥後國ニ南番ヨリ大ノ  
石火矢來レルヲ國崩ト名ツケテ秘藏セシ  
トゾ見ユキ又天文七年南番ノ商舶來リテ

石火矢トイユル鉄炮ノ大ナル物ニツヲ宗  
麟ニ進ラセシト九州記ニノセタリ思フニ  
此器ハ異朝ニイハユル佛即機ナトノ制作  
ナルベキカハ



佛郎機之圖



火箭之辨

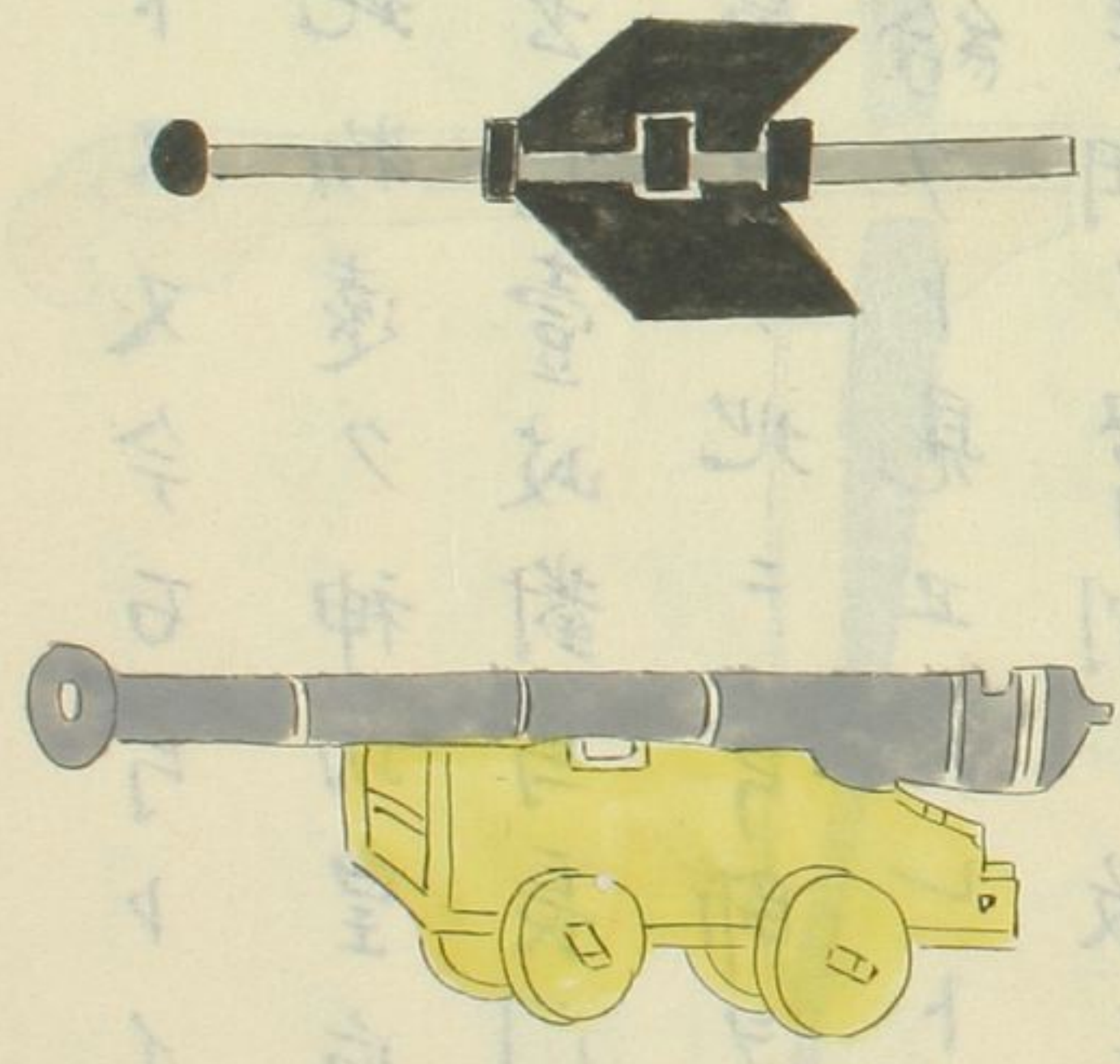
近代石火矢ニ火箭ト云モノヲ用ユ古シハ  
ハ矢カシ今ハ内海大矢鎌田大矢ナリ品  
アリテ鉄羽ノ仕懸カハリアリ大薬号ノ調  
合ニヨリテ流クノ勝劣アルカ又石火矢臺  
ニモ調鍛又ハ町見ノ傳遠長ラ定メ具ヲ設  
テ其利用多シ

壽永二年法住寺殿合戦ニ今井四郎兼平カ  
射タリシ火箭御所ノ棟ニ夕チテ火モ上

棟カ  
六十キ

リ官兵忽チ敗北セシト見エシハ鳴鑼ノ中  
 ニ火ヲ入テ射タリシ也凡火術ハ其品多ク  
 或ハ弓ヲ以射發アリ又ハ藥ヲ用ニ飛スア  
 リ  
 今下ニ圖スルハ近代ノ制作ニテアル也サ  
 レド文章ノミニテ其圖ヲ辨カタキユ也ニ  
 是ヲ画又其矢ハ檜木ヲモテ作り羽ハ皆鉄  
 也是ニ燒藥ヲ付テ筒ヲモテ飛ストイヱリ

火箭 石火矢

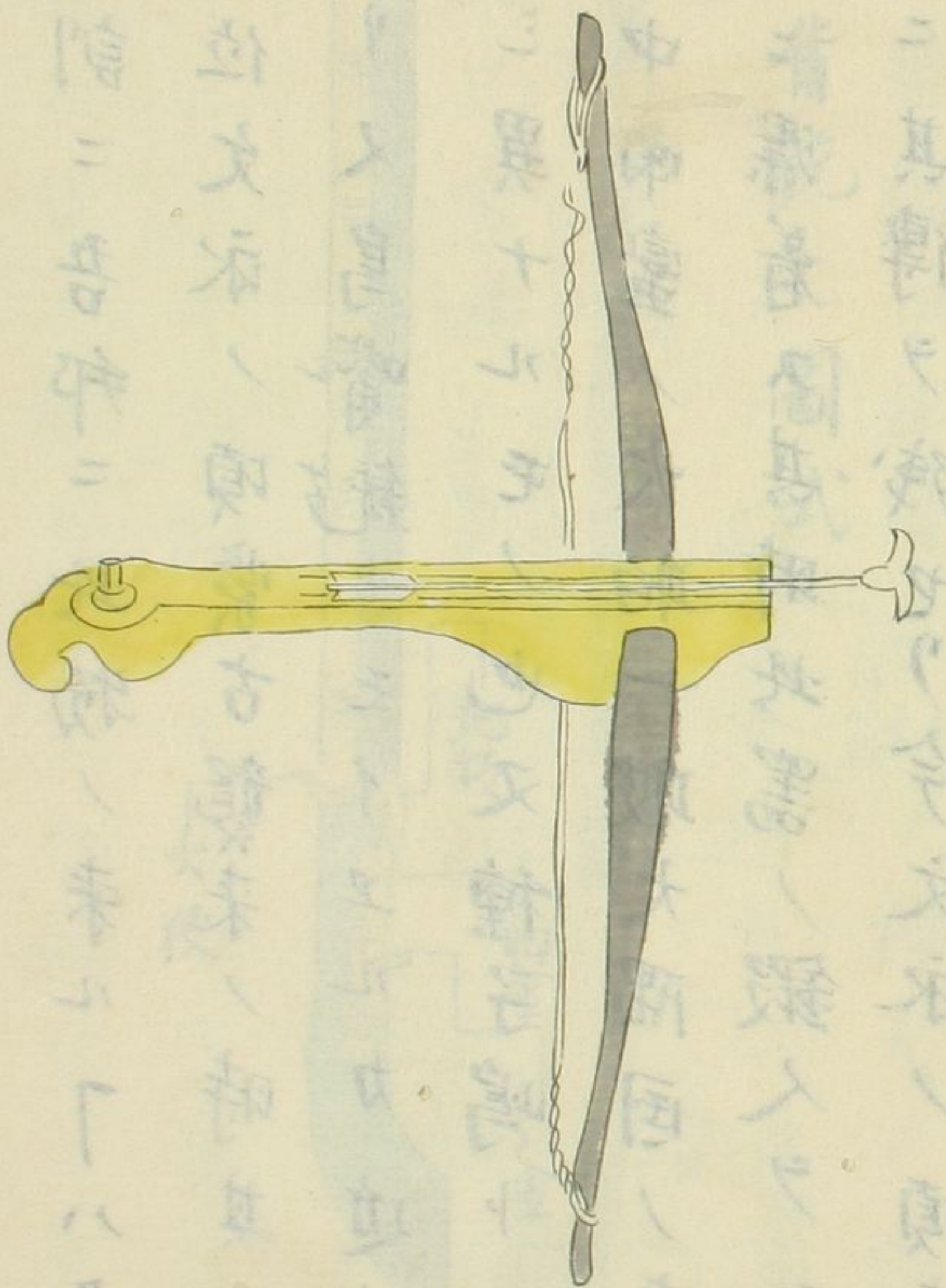


其圖ヲ辨カタキユ也ニ  
 是ヲ画又其矢ハ檜木ヲモテ作り羽ハ皆鉄  
 也是ニ燒藥ヲ付テ筒ヲモテ飛ストイヱリ  
 今下ニ圖スルハ近代ノ制作ニテアル也サ  
 レド文章ノミニテ其圖ヲ辨カタキユ也ニ  
 是ヲ画又其矢ハ檜木ヲモテ作り羽ハ皆鉄  
 也是ニ燒藥ヲ付テ筒ヲモテ飛ストイヱリ

弩弓之辨

弩ハ訓テ於保由美トス又今石弓トイヰル  
ハ誤レルナルト此物遠ク神功皇后ノ制  
作ニ出テ中古陸奥也羽壹岐對馬長門因幡  
伯耆出雲石見等ノ邊要ノ地ニ弩師ヲ置レ  
テ常ニ教習ハシメ給フト見ユタレト後代  
其制ヲ失フトテ今ハ異朝ノ弩制ニ倣ヒテ作  
レリトゾ見ユト

弩弓之圖



弩弓之圖ノ儀其儀簡明ノ儀ト並國ニ  
ニ對テ並ニ其制ヲ失フテ今ハ異朝ノ弩制ニ倣ヒテ作  
レリトゾ見ユト  
ハ天文年中神皇正統記ノ卷ノ末ノ條ニ  
陸ニハ女ノ異ナリト云フ  
テ同ノ事ト入信實ノ條ニ  
第一ノ條ニ古ノ文ノ如クノ  
ハ昔皇祖ノ古ノ事ト云フ

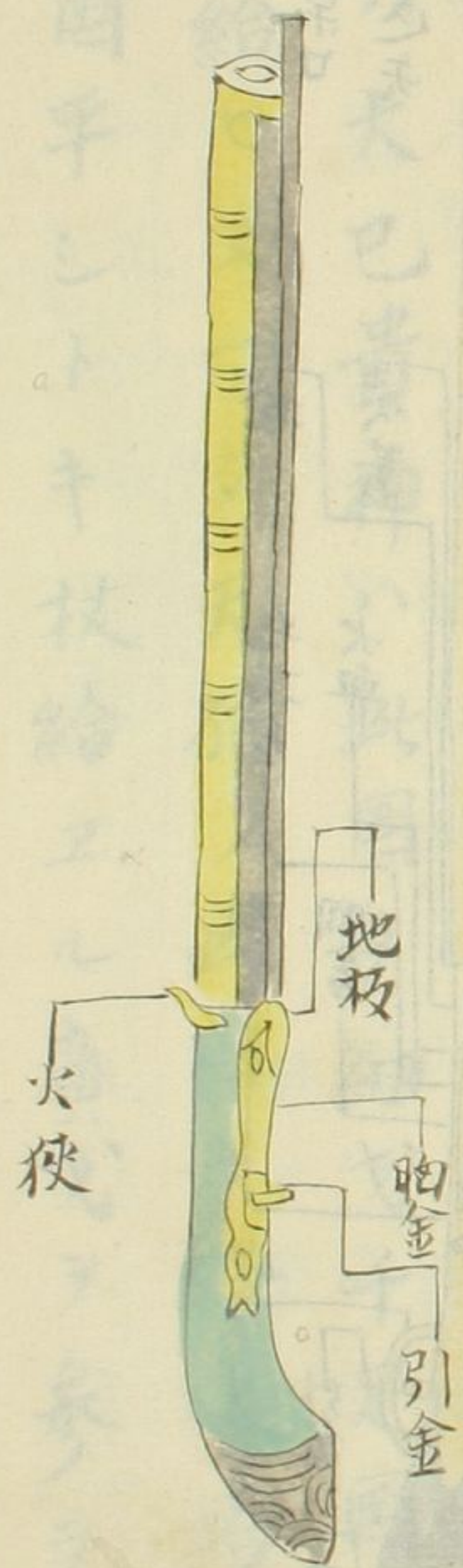


鳥銃之辨 附同圖式

八幡愚童訓ニ吾邦ニ此物ノ来ルヲハ龜山  
院ノ御在位文永ノ頃蒙古襲来ノ時其名始  
テ聞エタリ又鳥嘴銃トモイヱルカ近代ノ  
制ニハ少シ異ナルモノ也又種子嶋ト云物  
ハ天文年中南蠻ノ火船一艘大隅國ノ南十  
ル種子嶋ニ漂着ス其時此器ノ鍛人ヲ吾朝  
ニ得テ遂ニ其傳ヲ残セリ今文永ノ頃来リ  
シト云鉄炮ノ制ト其鳥嘴銃ノ制ト並圖ニ

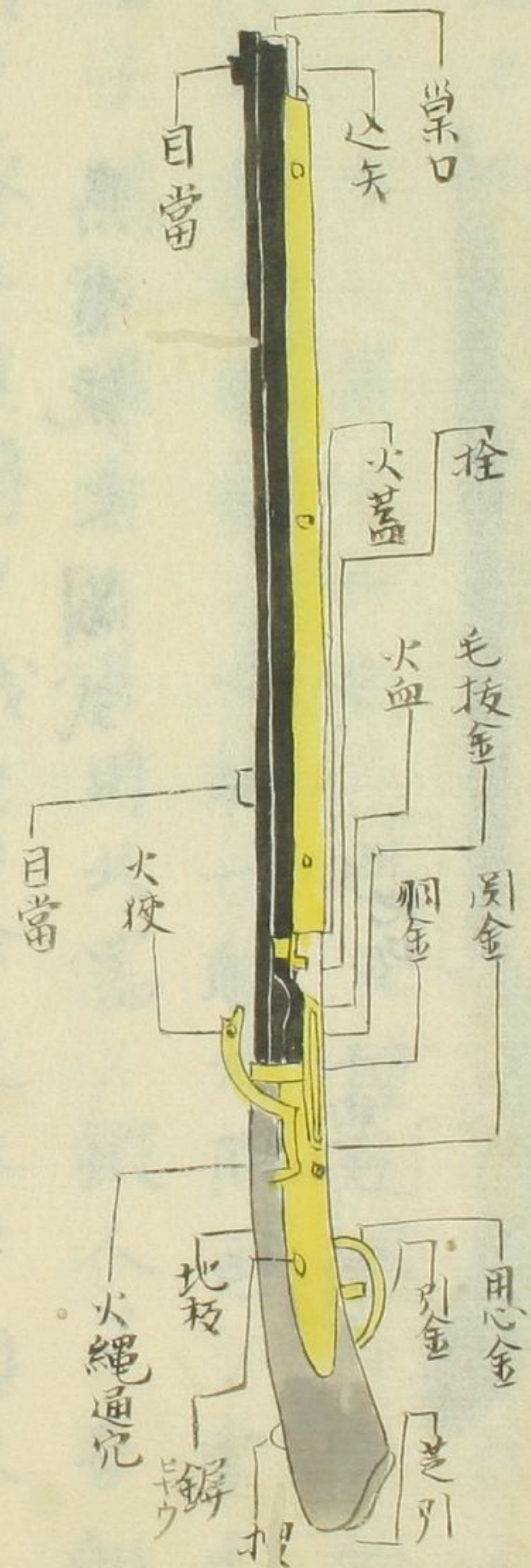
又能考エミツヘギキカ

鳥嘴銃之圖式



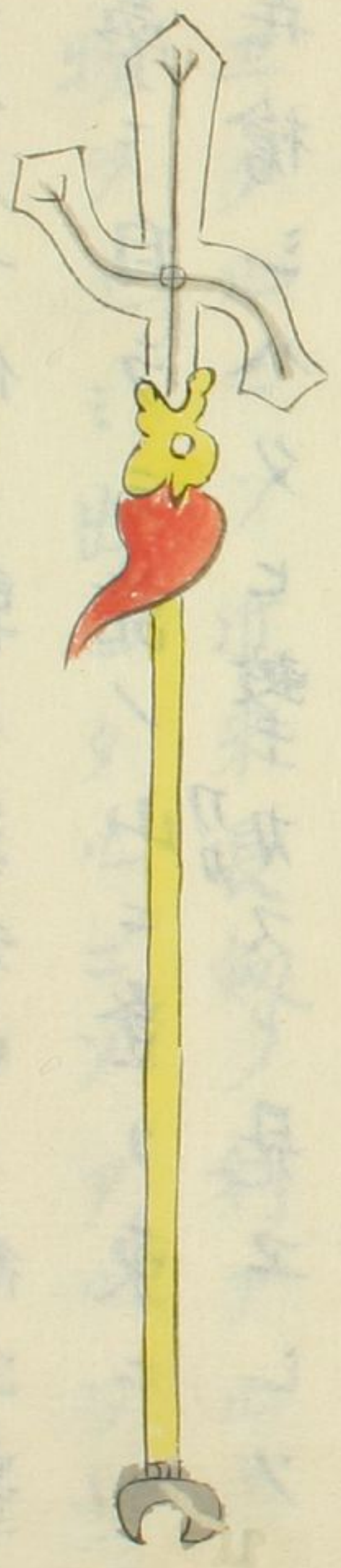
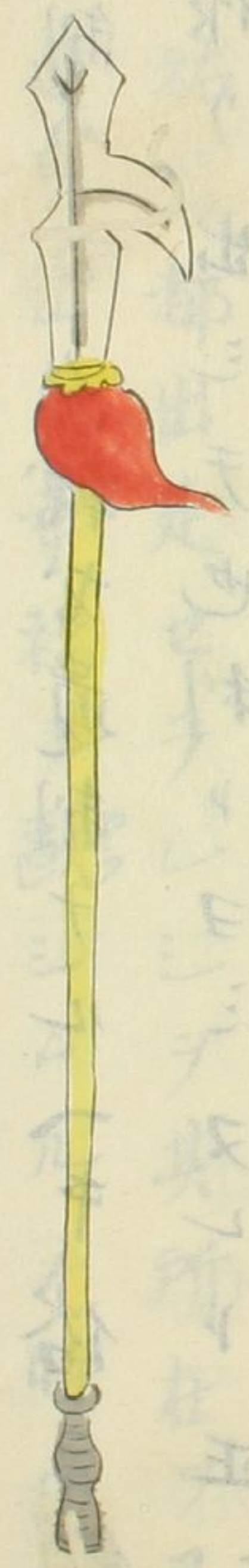
矛鎗之辨

神代ニ伊弉諾伊弉册ニ柱ノ神天ノ浮橋ノ  
 上ニ立テ給ヒ天ノ瓊矛ヲ指下ニ滄溟ヲ探  
 リ給ヒシニ其滴リ凝リテ國トナレリトノ  
 サレハ大己貴神ハ此國ヲ細戈千足國トナ  
 ツケ給ヒ又ニ夕天孫ノ此國ニ降り給ヒシ  
 時昔國平シトキ杖給ヒル廣戈ヲ參ラセラ  
 レシヒ聞ヒ日ノ神天窟ニ入給フトキ諸神  
 集給ヒ天ノ金山ヲ銅ヲトリテ日矛鑄造給



ヒシヒ見エ或ハ日本武尊東征ノ時比比良  
 木乃八尋矛ヲ賜リ給フ事聞卫侍リ又レト  
 其カタチ知ルベクモナシ上代ハ矛戟ノ二  
 ツヲ專ラ用ヒラレシニヤ或ハ平頭ニシテ  
ラ下ニ嚮テ釣ヲツクル也或ハ両邊横又頭  
リ長サ六寸許リ横又柄ニ接ル所四寸ナリ

此ノ矛ハ日本武尊ノ御用ニシテ  
其ノ柄ハ黄銅ニシテ  
其ノ頭ハ金ニシテ  
其ノ長サ六寸ナリ  
其ノ形ハ



此ノ矛ハ日本武尊ノ御用ニシテ  
其ノ柄ハ黄銅ニシテ  
其ノ頭ハ金ニシテ  
其ノ長サ六寸ナリ  
其ノ形ハ  
其ノ柄ハ黄銅ニシテ  
其ノ頭ハ金ニシテ  
其ノ長サ六寸ナリ  
其ノ形ハ

槍之辨

曰事記ニ第十代ノ朝廷崇神帝ノ御宇豊城  
命ノ御夢ニ自ラ三諸ノ山ニ登リ東ニ向テ  
八夕ヒ弄槍シ八夕ヒ撃刀カカスル見エシソ此  
物ノ史ニ出ル始ナルカ近代ニアル也利ト  
云物ノ制ハ古ノ戟戈遺制ナルヘキ俗ニ鎧  
ノ字ヲ作り出シテ也利トヨミヌレト正シ  
キ文ニ見エズ源平ノ軍以後建武至徳ノ間  
ニ鎧ヲ用ユル事見エズ應仁文明ノ頃ヨリ

其汝汰アリテ鎌鎧片鎧十文字直鎧スヤリ鍵鎖カキ号  
ノ制去タル也旧遺考録ニハ嘉吉ノ頃赤松  
満祐教祐京都出走セラレシヲ其所在ヲ尋  
ニトテ近里在ク寺社ヲ歐カシムルノ時利劍  
ヲ竹ノ先ニサシテアヤシキ所ニヲ夕子  
ニト見エタルニソ近来長劍ノ利アル事ヲ  
知テ此物ヲエタミ出シタルニソアルヲニ

長力之辨

此器其始メサタカナラズ節用集ニ薙カト  
書リ其頃世ニ長キ折刀出来タレハ薙ト云  
字ニテ其物ヲ分テルト見ユキ元弘建武ノ  
頃ハ三尺余リナルヲモ小長カト云テ大長  
カトイヒシハ五尺六尺ニ余レリ又身モ柄  
モ五尺余ツノモノモアリケリ近代ニ見ユ  
シ中巻ト云シハ又モ柄モヒトシク作レル  
モノニテ彼大長カノ遺制ニモアラニカ

武備志日本考ニカノアリ

劔刀之辨

凡カニ似テ兩刀ナルヲ劔ト云ヒ劔ニ似テ  
一カナルヲ刀ト云旨ニ聞ユシ十握ノ御劔  
ニタハ日月護身劔三公圖戰劔ナト其カタ  
チミルベクモナシ又玉纏横刀須我流横刀  
新作横刀柄劔太刀頭槌太刀畫飾大刀如法  
飾太刀等ノ式ニ見ユタレト其圖形詳ニ画  
ベクモアラズ今天王寺ニ内毛槐林劔七星  
劔ト名ツケシモノアリ其内毛槐林劔ハ又

ノ長サニ尺一寸五分濶サ八分計莖長サ四寸五分其志乃岐ノ所ニ金銀ニテ丙毛槐林ノ銘四字アリ又七星劍ハ双ノ長サニ尺三寸濶サ九分余血漕ニ糸アリ金ヲ以テ七星并ニ竜ト雲トヲ歎タリ

丙毛槐林劍圖

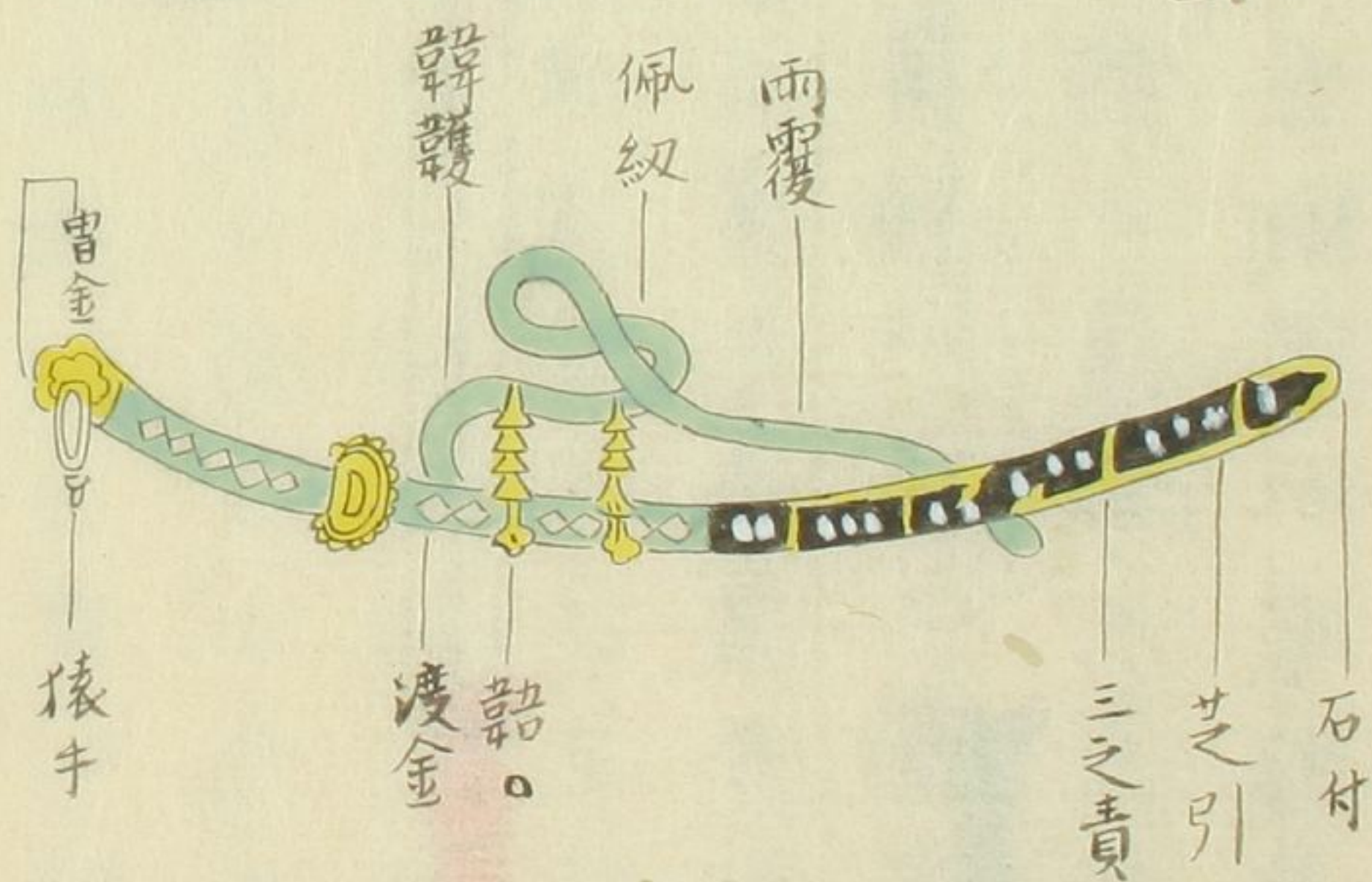


七星劍之圖



飾大刀名所之圖

鞆ハ必孔切刀飾



櫛ツギ大知乃鞆サ佐夜力較皮刀佐女乃如波鐔ツギ都美  
也鼻ノ鞆ツギ護トリ度ト於レ比レ式ニ見ユ二レ外レ銀ノ勾ノ金ノ勾ノ皮ノ押ノ鏡ノ  
 形ノ乳ノ形ノ斬ノ形ノ阿ノ志ノ須ノ惠ノ担ノナレ云レ名ノ所ノハレサレ夕ノ  
 カノ十ノラノスノヲノホノ正ノ也  
 柄頭ノ古ノハノ柄ノ口ノトノイノヒノ也  
 目貫ノ古ノハノ麻ノ布ノ多ノ岐ノトノイノヒノ此ノモノハノ目ノ貫ノ穴ノヲノ  
 貫ノキノテノ其ノ柄ノノノ又ノケノサノラノンノ料ノニノ用ノユノルノ也

スヘテ我國ノ俗ニテ孔竅ヲ目ト唱フル  
事猶蟄目猪目ナト云カ如シ今ハ目釘穴  
ト云ヒヌルカ

銹

古上ニ葵銹凍銹梁銹ナト云物フルキ物  
ニラアレト其制ハワニヒラカナラス

折金

負金ト云ヘシカノ鞆ナカラヌケタラム  
ニハウニ口サニ負テ我髻ニ此物ヲ懸

テヌクヘキ料也ナト聞ユヌレト普廣院  
殿富士御覽ノ時ノ御牌物ノ飾ニ柄頭コ  
ジリ栗形折金イツレモ獅子ヲスウラレ  
シト見エタリ

鞆梢

昔ハ鞆尻トゾシルセル近代ニ古<sup>コ</sup>之<sup>シ</sup>里<sup>リ</sup>ト  
ハイフナルヘシ

鴉目

其形鴉ト云鳥ノ眼ニ似タレハ角ハ名ツ



鋒キツガキ

ケニナリ波々幾モ古ハ脛巾金ト調謂カシ也

幾都左伎ト訓ム中心ヲハ祭可古ト註セ  
リ其形ヤスリメナトノ制ニテ其名多ク  
ハ異也

鐔

志乃シノ岐也キ刀劔ノ文理ニテ也ヤ幾トモ云リ

漫理

漫理シシ龜文等ノ字アリ淮南子ニ魚鴈ト書

テ文繞リ屈テ魚鴈ノ如シト注又是漫理

武大刀 附野太刀

近代ノ武太刀ハ古ノ野劔ノ事ニヤ足利殿  
ノ時ハ白太刀ヲ佩テ從者ニ持セシ太  
刀ハ黒作ナル由見丑ニ物アリ

伊勢下總入道宗五カ記ニ白太刀ハ柄鞘

ニ白シ黒太刀ハ鞘スリトラシ柄數ヲ

カケテ黒ク又リカナグ赤銅ニテウケホ

リ十ノコタルベシ此ナノコト云ハ魚子

魚ヲハ奈ト云又目貫ハ家ノ紋ヲヤキツ  
奈乃古ト云也

ケニスヘニ鞞ツギハ草蒲草ヲ用ユ尾同モ  
柄モ一カズト注セリ

又野太刀ノ制倭名扱ニ短刀ハ刺刀也能大  
知也ト注セリ古ノ組小刀ハ首後代ノ打刀  
腰刀ノ類ナルヘニ近代ニ至テ野太刀ト云  
モノハ長サニ尺七寸計リ柄ハ用ユル人ノ  
耳ノ下ヨリ寸尺ヲ定ムヘニト見エタレハ  
其又其柄モ長キ物ニテアルナリ

八部ニ尻鞞之辨

劍後鞞ト書テ太知乃志利左也トヨニス  
サレハ此物遠ク聞エシモノ也飾扱ニ布衣  
騎馬殊ニ刷ノ時ハ布皮細尻鞞ヲ用ヒ又諒  
周ノ時ハ水豹尻鞞魚文青草裝束ナトシ用  
ユトナリ古画ニ兵士ノ佩ヒシ大刀尾鞞ニ  
魚形ノ如クニ鬣尾アル才黒ク画キニアリ  
此物古代ハ行旅又ハ征戦ノ時ニ用ユト見  
エシ今ハ專ラ軍事ノ具トソナリ又ル中古

ヨリ將軍ノ尻鞆ハ虎皮ヲ用ヒ平士ハ熊皮  
ヲ用ユトソ聞エシ

鞆卷之辨

今ハ卷太カヲ鞆卷トハイエルカ古ニハ刀  
ノ事ニテアリシ也或記ニ鞆卷ト云ハ鞆ヲ  
糸ニテ卷ユエニ角名ツケタトモエシ又是  
ハ其大刀ノ鞆ナカラヌケザラム料ニ其緒  
ヲ帶ノ上ニ引フシテサヤニ卷キ其余ヲ  
ハ鞆ニ挿ム物トソエシ

歩刀之辨

三義一統ニ歩刀ハ鎧ノ上ニサス知以左加  
太奈ノ由記ニ又レト鎧ノ上ニサスハ知以  
左加太奈ノ三ニ限ルヘカラス腰刀ヲモサ  
ス也上総五郎兵衛尉カサ刀ハ一尺余源斎  
頼ノ腰刀ハ九寸計巴カ腰刀ハ七寸五  
分エト

脇差之辨附筭之辨

脇差ハ古ノ腰カナルヘシ貞治ノ頃南都北  
嶺ノ大衆劇争ノトキ南都ノ衆徒ハ面々ニ

脇差ノ太刀用意セシトミエタ山名氏清将  
軍ニ背ニ時御所ニハ菜研徹ト云御脇差ヲ  
サシ給ヒ又トソ其腰刀ト云モノ長ケ短カ  
クシテ敵ト組アフテ鎧ノ透間サシ通スノ  
器ナルユエ鎧通トモ云馬手差トモ又脇差  
トモ脇刀トモ懐刀トモ云エリ近代寸ノヒタ  
ル物ヲ制シテ大脇差トナツケシヨリツ子  
ノ脇差ヲハ中ツキサシト名ツケシ也カノ  
小脇差ト云物ノ柄ニ藪皮カケテ糸一カ又

ハナシ目貫ナト云ニヤ又今ノ世ニ小刀ヲ  
挿ム所ニ金ノ筭ヲサシ又是古ノ折刀ノ遺  
制ニヤ

鶺鴒片  
栗形凡

筭ハ古エ大小ノ鶺鴒ナト云シモノ、類ニテ  
刀ニ挿ム事ヲフルキ俗ニテアル也筭古ハ  
ニハ髪捲トイ、シカ彼ノ行成卿實方中將  
ニ冠ウチ落サレシニイトサワガス冠トリ  
テカウフリ守リ刀ヨリカウガイ又キテ鬢  
ツクロヒシ給ヌト寢覺記ニモ見エ侍リ又

本朝軍器考圖式卷之六

目錄

一 甲冑之辨

一 古鎧之辨

一 鎧古制名所之圖

一 鎧今制名所之圖

草摺 逆板 太刀懸

一 總角之辨

本朝軍器考圖式卷之六目錄終

真 附 障子板 高 綿 嗚 橫 板 弦 走

本朝軍器考圖式卷之六

甲冑之辨

曹說文堯教垂之

日本書紀ニ據テ考ルニ人皇十代ノ朝廷崇  
神帝ノ十年武垣安彦カ叛キ參ラセシヲ大  
彥命因葺命等那羅山ニ軍シタマフ取安彦  
因彦ノ矢ニ中リ給ヒシカハ彼兵脅退ルヲ  
追テ河北ニシテ首ヲ斬ル事半ニスグ討モ  
ラサレシ兵皆甲ヲ脱テマカシコニノカ

ルトリミエニソ甲冑ノ名アル始ナルヘキ  
カサレト其代ニハ甲ヲハ伽和羅トコソイ  
、ニ昔ハ草ニテ作レルヲ鐵ヲモテ是ニカ  
エニ事ハ延暦九年三月太宰府ニ仰セテ鉄  
冑二十餘枚ヲ造レシゾ其物ノ正ニク見エ  
ニ據ナルヘキサレト古ノ甲冑ノ作用サダ  
カナラス式ニ見エニハ朝ニ大儀行ル、  
近衛ヨリ四将ニ至テ帶セシ甲冑ト云モ皆  
金銀ヲ以テ画シ縮ノ甲形布ノ冑形ナト云

古ノ鎧今テモノコレリト聞及ヒニ物ハ法隆  
寺ニ聖徳太子ノ幼キ取翫ヒ給ヒシ甲冑尸  
ルヨニ其威毛作用モタ、ニク見侍ヘラス  
又藤森社ニ崇道天皇ノ御鎧トテ紫系威ノ  
強走ノ破レシアリ石清水ニ義家奉納ノ緋  
系威ノ鎧同毛ノ大星ノ冑ニ二引鞆ノ旗ア  
リ鞍馬寺ニ義経ノ物ナリトテ障子板強走  
脇楯等ハ矢タルカ紅系威ノ鎧アリ其冑ハ  
大星ノ五枚冑ニ鍬形ノ長サ一尺六寸三分

余ナルニ天邊ニモ左右ノ吹邊ニシヲモ黄金  
物ノ獅子ヲ打ラツク鞍馬法師ガモトニ星  
曹ノ鉢三ツ竜ノ金物ハツ吹返目庇ナトノ  
破レ残りニアリス一テ是等古代ノ物トゾ  
見ユニサレト其圖ヲ悉ク画ニハイトワツ  
ラハシケレハ其式ヲモラシヌヨク下ノ古  
鎧ノ條ト考エアハセハ可ナリ

物ナレハ是實用ノ物ニハ非ス其後代ニ至  
テ鎧腹卷腹當箇凡ナト云制出テ其兵家ニ  
傳ユニ鎧ノ名多シ先ツ藤原秀御ノ室凡平  
石源義家朝臣ノ月数日数源太産衣ハ龍沢  
河薄鉄楯岳<sup>ヒナ</sup>平貞盛ノ唐皮源三位頼政  
ノ産衣木曾義仲ノ薄鉄源義貞ノ薄鉄足利  
尊氏ノ小袖ナトノ名聞ユニ

或ハ云其月数ノ威毛ハ朽葉色ノ唐綾威  
ナリ源太が産衣ハ胸板ニ天照大神ハ幡



大菩薩トツケテイラセ左右ノ袖ニ藤ノ  
華ノ咲カ、リタル様ヲ威セル也。膝丸ハ  
牛千頭カ膝ノ皮ヲトリテ威シ又又八竜  
ト云ハ黒糸ニテ威セシ也。日数ハ其制サ  
タカナラス諸説一定ノ事ナシ薄鉄ハ火  
威也。袖毎ハ黒糸ニテ威シ獅子ノ丸ノ裾  
金物ヲウツタリト貞盛ノ唐皮ハ黄櫨<sup>白</sup>  
ヒハ白ク黄ナルフタツノ蝶ノ裾金物ヲ  
ウツ糸威ニハアラヌ皮威也

古鎧之辨  
附今制名所之辨

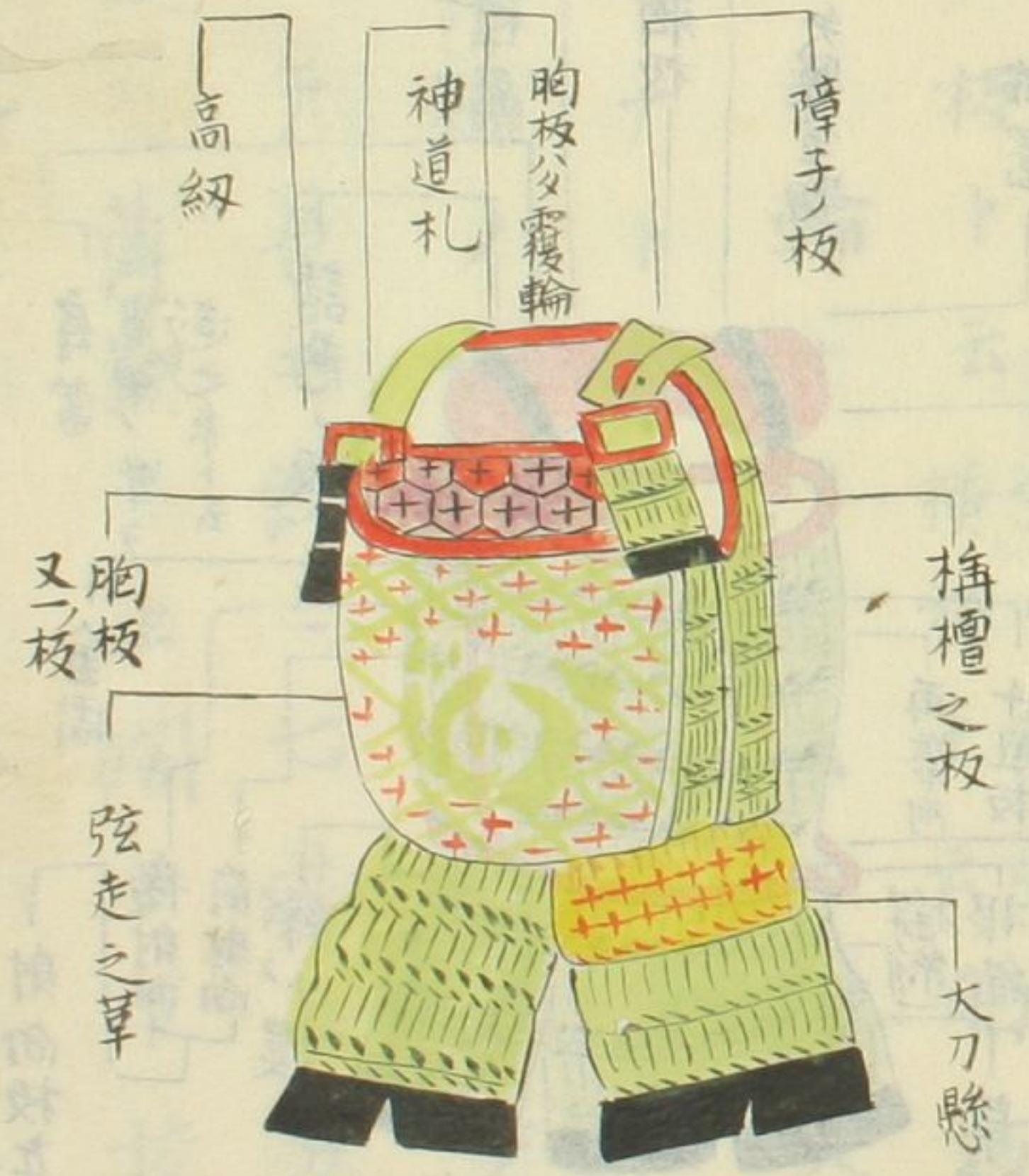
古ノ鎧腹巻腹當筒丸ナリト云古制ノ廢レテ  
用ラレサリシハ應仁ノ後ニ至テ筒丸ノ制  
ニヨツテ具足ト云モノヲ制シ然<sup>シカ</sup>モ今ノ物  
具ニ古ノ鎧ノ名所ヲ附合セシホトニ其誤  
ル事モ多シ古ハニ胸金物ト云シヲ今ハ矢  
トニリノ金物ト云胸板ノハ夕覆輪ト云シ  
ヲ今矢トニリノ<sup>カ</sup>捻返シト云一ノ板ヲ弦走

二ノ板ヲ檀梅板ト誤リ唱へ古ニ高紐ト云  
ヲ相引ノ緒トイヒ引合ノ緒ヲ今ハ高紐ト  
名ツク<sup>イデ</sup>又ヲミツケノ板トハスニテ後ヲモ  
云ヒ又綿嚙ノ横板ノワキノ板ヲモイヒ又  
其次ノ板ヲ逆板ト云モアヤニリ也古ハニ  
逆板ト云ハ其制ノ異ナルモノナレハ角ハ  
名付ニ也今ハ前ノカタヲ保天左幾ト云後  
ノカタヲ胴尻ト云草摺モ古ノ制ニカハリ  
テ其数モ多クナシテ計佐年ト名ツケ其前

板ヲ幾年加久之ナト名ツケニハ毎下ニア  
サマニキ事也今様ハ左右ノ袖モ其形小ニ  
クシテ中袖ナト云ニヨリ昔ヤウヲハ大袖  
ト名付ニ也又後領ハ上ヨリ左右ノ肩上ニ  
至ルニテ織物ノ類ヲモテ襟廻肩當小簪ナ  
ト云モハ作り前ノカタニ再拜付ノ環ヲツ  
ケ後ニ睨サニサニ物ナトサハ料ニカツ  
タリウケツ、ナト云モノアルハ古ニハ聞  
モヲヨバ又事ナリ礼節ニ衝明ト書テ加布

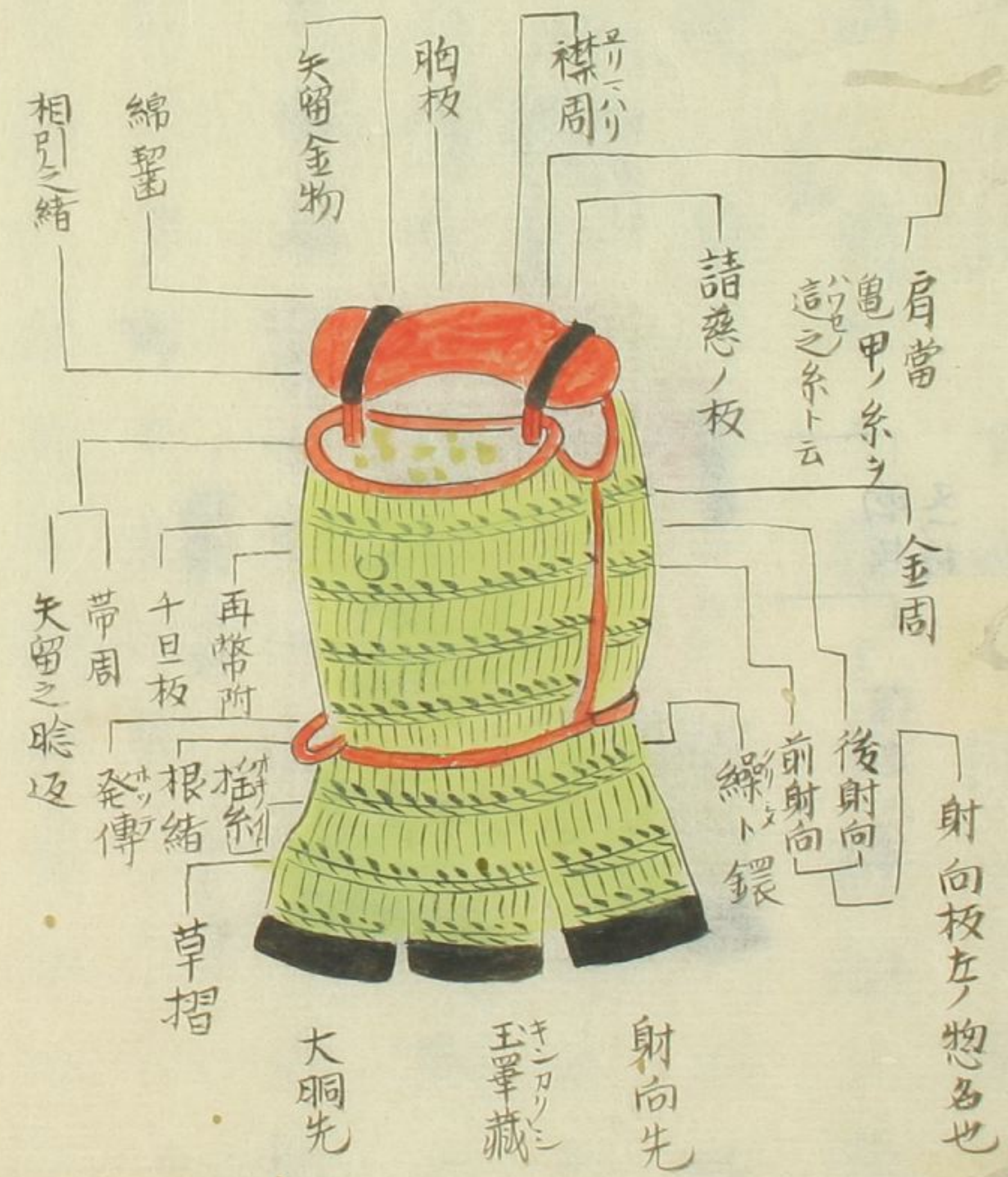
幾銅トヨミ左右ノ乳ノ下也ト注セリ其後  
 明ヨリ上ヲハ前モ後モ立舉ト云射向ノ方  
 ハ胸板ト云也鏡ノ前ノ第一ノ板ヲ一ノ板  
 氏胸板トイフ礼節ニ於<sup>ヲ</sup>尔<sup>ニ</sup>他<sup>ニ</sup>麻<sup>ニ</sup>里<sup>ニ</sup>トミ丑<sup>ニ</sup>夕<sup>ニ</sup>  
 リ胸板ノ次ヲハ弦走ノ板ト云是ヨリ下ノ  
 板トモ皆弦走ヲモテ覆ヒタル物也ヨク前  
 條ト圖トテラシミテ可ナラシカ

鎧台制名所之圖式



梅檀板

梅檀板ト云ハ高紐ノ上ヲ覆ヘル物也古  
 ハオシツケノ板ト云今ハ綿嚙  
 右ニアリ又小半輪ナトモ云ニヤ又右ヲ  
 梅檀左ヲ鳩尾ナトモイフ由ニ又此板  
 ハ其形左右ノ袖ノ如クニテ特ニ少ニ板  
 ノ数モ三枚ニテ長モ純ニ七寸五分許  
 リ又鳩尾ト云ハ薄鉄ノ上濶ク下狭キガ  
 長七寸許ナル深皮ニテツノルニ金



覆輪有也此ニノノ板ヲ左右綿嚙ノ相引ノ  
緒ノ上ニ掩フヤウニカケテ又ニツノ板  
中ニアル紐ヲ前ニ結テヒラカセヌヤウ  
ニセシ也此ニツノ板ヲスベテ梅檀板ト  
イ、ニナリ

綿嚙横板

礼節ニ月被ト書テ都幾加都幾ト云背ノ  
領也ト注シタリ此板ヨリ左右ニワカレ  
テ兩肩ヲ覆ヒテ前ノ方ニ至テ高紐ヲ懸

一キ板ノノ彼礼節ニ見止ニ神道札也今謂

障子板

其形薄鉄ヲ下弦ノ月ノ如クニ削ニ漆皮  
ニテツ、ミテ左右ノ綿嚙ノ上ノ前ニヨ  
リテ其圓ナルカタヲ上ニナシテ側立ツ  
タトハ屋ノ内外ヲ障子ヲモテ隔タラ  
ニヤウナレハ角ハ名付ニナリ

高紐

礼節ニ神道札ノ下ニ寸ノ定也ト注シテ  
慈年動乃佐祢ト訓又兩肩ノアタル所也  
ト云太平記ニ高紐ニ弦セカレモ又弓ツ  
ヨク引ニトテ甲又キ高紐ハツセニナト  
モ見丑タリ今馬牛ノ引合ニアル緒

弦走

深皮ノ形凸ノ字ノ如クナルヲ上ハ假粧  
ノ板ノ下ヨリ下ハユルギノ糸ノ下ニ生  
リ射向ノ半馬牛ノハツレ迄ニカ、シ様

ニシテ鎧ノ前ヲ掩ヒタル也其深皮ノ上  
ト左右トノ周リヲハ或ハ錦皮又ハ織物  
ノ類ヲモテ縁トナシ皮ト縁トノ縫メキ  
ハニハ組ヲモラフセ又ヒニシタルヲ上  
ノ方ヲハ小櫻ト云釘ニテウチ下ハ其皮  
ヲ穿テ揺糸ヲ引出セルモノ也

草摺

又左津里氏書也凡草摺ハ前ト後ト射向  
トニ合セテ三枚アルヘシ前ヲハ前板ト

イヒ後ヲハ引敷ノ板ト云射向ノ方ヲ  
弓手ノ草摺トソ云こ又草摺ノ横縫ト云  
こヲ今ハ揺<sup>ツ</sup>糸ト云前後射向トモこ其草  
摺ノ終ノ板ヲ菱縫ノ板ト云

### 太刀懸

弓手ノ草摺ニ太刀懸ト云物アリ脇楯ニ  
ツキタルヲ<sup>壺</sup>板ト云其前後引敷ノ板ヲ  
ハユルキノ糸ニテ綴レト弓手ノハシカ  
ハ尸ヲヌ其長ハ揺系ノ長サノ如ク其幅

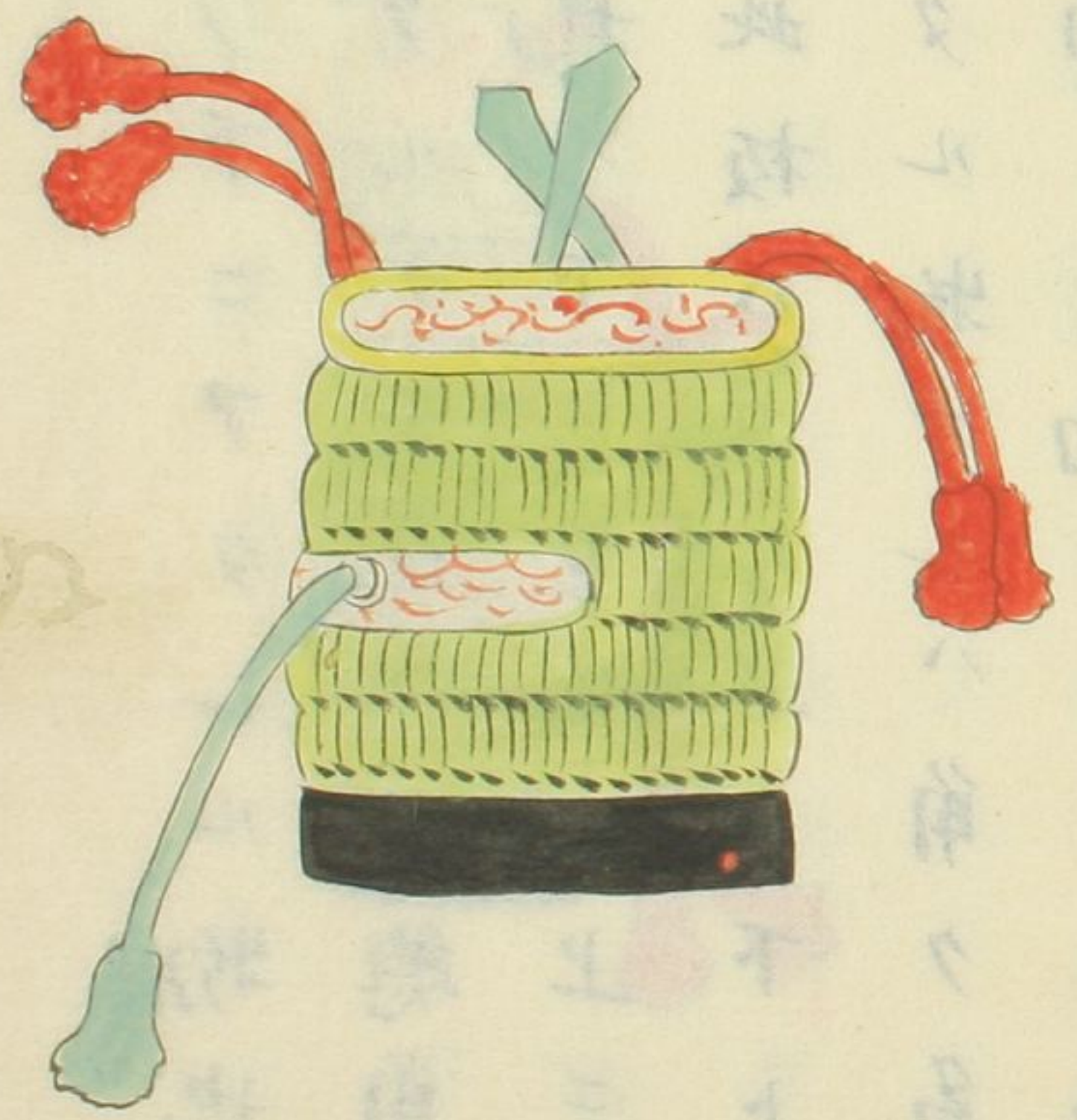
ハ草摺ノ板ノ廣サノ如クナル漆皮ヲ左  
右ニ異皮ヲ縁トナシテ縁ト皮トノ縫メ  
ギハニ組ノフセ縫ニ織物ノ裏打タルヲ  
用ユコノ草摺ノ一ノ板ニ金物ヲ打コト  
ニ所是ハ彼皮ヲトツヘキ料也又此板ニ  
糸ヲ用サル事太刀ノ鉸具ニフレテ其糸  
ノ絶ナニ事ヲ思フ故ナリ前板モ引敷モ  
弓手ノ草摺モ又脇楯ノ壺板モ皆五枚ツ  
ハニシテ菱縫ノ板ヲハ中ヨリワリテニ

袖

ツニナルヤウニ作レルナリ

左ノ袖ヲハ古ヨリ射向ノ袖ト云ニカモ  
右ノ袖ヲ名ハ聞カクハ袖ノ上ノ板ヲ冠ノ  
板ト言事モ古ニハ聞ハス其板ノ前ノ方  
ヲ世ニ梯形ト云其次ヨリ一ノ板二ノ板  
ナド数カクルカ袖ニ緒付ル事四所綿咄結フ  
一キラニツカノ緒トイヒ袖付ノ管ニ懸  
又ルヲ後ヲ懸緒前ヲハツケ緒トイヒ總

卷ニ懸ヘキラ水吞ノ緒ト云是等ノ名古  
ニサタカナラ子氏爰ニ圖ニ又木ノ懸

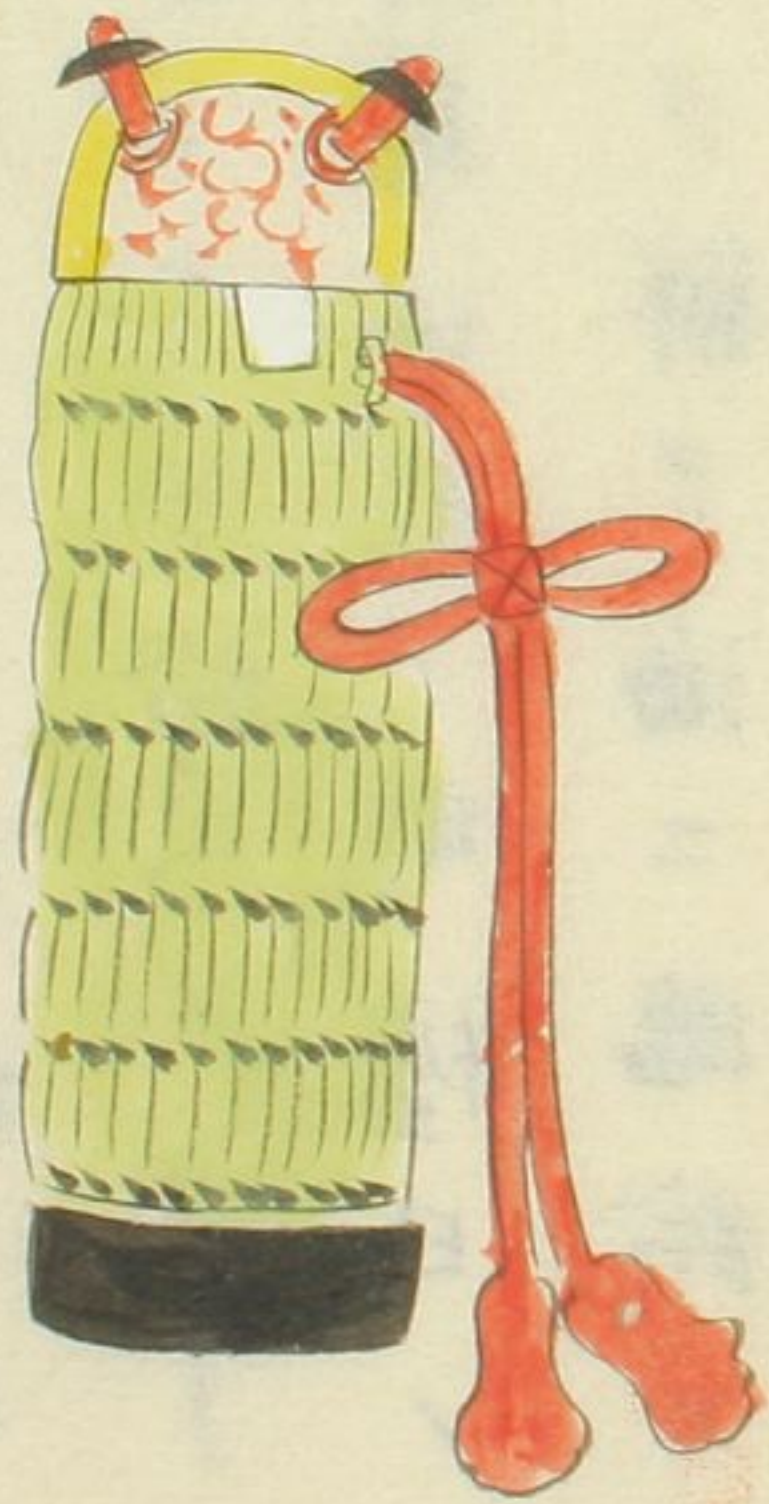




逆板

ワタカミノ横板ノ下ニアタレル物也此  
逆板ニ總卷ヲツクルナリ古ヘニ總角付  
板トイヒニ允鑑札ハ下ノカタノ上ニナ  
ルヤウニスルニ此板ハカリ上ト下トノ  
上ニナル様ニシタル物ナレハ角ク名付  
也其圖ハ上ハ札頭ト云物ニシテ下ハ一  
文字ニシタルヲ上ノ方ニハ啄木ノ組ヲ  
モテウナヌト云物ニシテヲツケノ板

ニ綴リ下ノ方ハ菱縫ニ通シテ其下板ニ  
ツ、ル此真中ニ總角付ノ金物アリ



總角之辨

總角ハ神代素盞烏尊ノ天ニ尋給ヒ時日神  
ミクシヲカケテ髻トナシ給ヘルヨリ事起  
レリ又神功皇后新羅征伐ノ時櫛日ノ浦ニ  
至リマシテミクシヲ解テ海ニ臨給ヒ吾神  
祇ノ教ヲウケ皇祖ノミタマノスエヲ蒙リ  
滄海ヲ涉リテミツカラ西ヲ征サント思フ  
モシ驗アラニニハ髮自分レテ兩ニナレト  
ソ給ヒテ海ニ入レテ洗給ヒシニ髮自分<sup>ツツカ</sup>分

レ又皇后則チ自ラニアケ給ヒ男形ヲ假リ  
テ彼國ヲ遠ニシタカヘ給ヒシヨリ彼髮ノ  
形ニ倣ヒテ武士ノ鎧ノ飾トハナシタル十  
リ

本朝軍器考圖式卷之七

目錄

- 一 賜楯之辨
- 一 賜楯之圖
- 一 腹卷之辨
- 一 義經朝臣腹卷之圖
- 一 腹當之辨
- 一 手蓋小手之辨
- 一 義經朝臣小手之圖

- 一 脛楯之辨
- 一 脛楯之圖
- 一 踏籠之圖
- 一 臙當之辨
- 一 大立舉臙當之圖
- 一 毛沓之辨
- 一 毛沓之圖
- 一 半首之辨
- 一 筒凡之辨

- 一 楠正成筒凡之圖
- 一 古曹之辨
- 一 古曹之圖
- 一 鉢卷之辨
- 一 陣笠之辨
- 一 鎧直垂之辨
- 一 光源院殿直垂之圖
- 一 保呂之辨
- 一 保呂古制之圖

- 一 保呂令制之圖
- 一 保呂袋之辨

本朝軍器考圖式卷之七目錄終

本朝軍器考圖式卷之七

脇楯之辨

思フニ脇楯ノハジマレル事皇后新羅討セ  
 タマフ時應神帝イマダ昭中ニマシマシ  
 カバ御腹ノ大キクマシマシテ御鎧ノ服  
 ハザリシオ武内大臣鑑ノ草摺切テ御服ニ  
 アテ参ラセシズ其始メナルニキ其ツクラ  
 ニヤウハ眼板ノ象ノ如クナルヲ悉ク深草

ニテツ、ミ織物ノ裏打タルニ壺板ヲツケ  
 タリ脇楯ノ板ノ中ニ啄木ノ組緒引出スベ  
 キ穴一ツニツアリ前後下ノハツレニ緑ト  
 ヲモチユト見ユ

脇楯ノ板

脇楯之圖

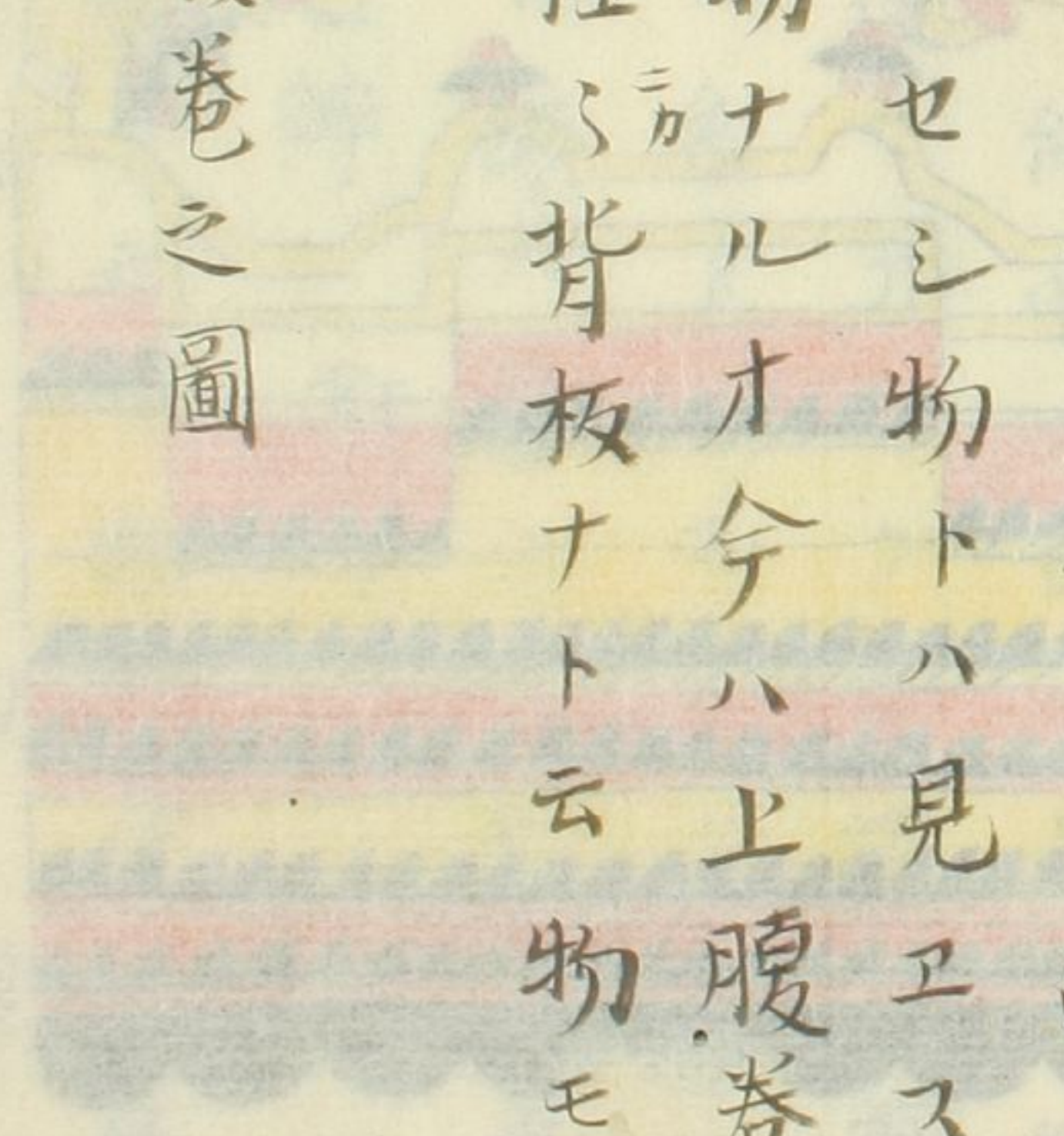


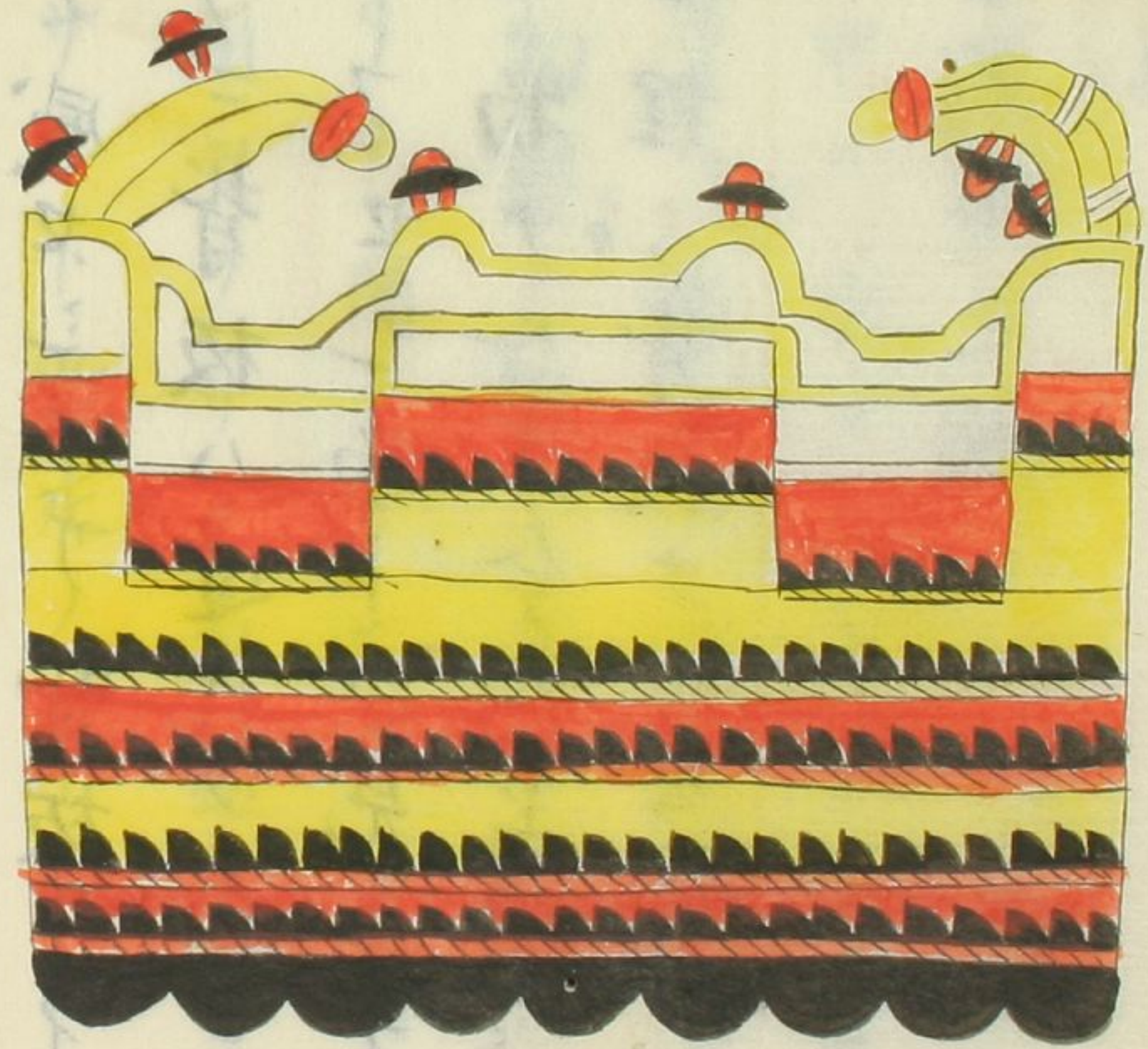
暖卷之辨

其始リサダカナラズ允恭ノ朝廷ニ玉田宿  
称カ甲ヲ襖ノ中ニ服タリト日本書紀ニ見  
エシサレハ是等ハ後代ニ云下暖卷ナト云  
制ナラニカ此物鑑ノ制ニカハラ子ト前ニ  
リ左右ヲメリテ後ニテヒキ合背板ト云  
ヲモテ後ノ透間ヲフサク事鑑ニ服立ヲモ  
チユルガ如シサレト弦走ノ革モナク草摺  
モ前後左右ニ七枚モ九枚モアリ吉野清水

院ニ義經ノ古キ暖卷アリ藍革ニ紅ト白ト  
紫<sup>ナカ</sup>ノ緋ヲモテ威セシナリ背板トイフモ  
ノハアラス思フニ背板ハ近代ノ制ニシテ  
暖卷ト代ヲ同シフセシ物トハ見エス古ニ  
衣ノ下ニ着セシ物ナル才今ハ上暖卷ナト  
云佐用ノ出来ニ程<sup>ニカ</sup>背板ナト云物モ見エ  
タリ

義經朝臣暖卷之圖





腹當之辨

其料前ニ人ミアタリテ左右ノ眼ハワツカ  
ニカ、リテ夫ヨリ綿嚙才出セリ其綿嚙ニ  
セメヒモアリテ後ニテカク草摺モ前ニ  
一枚アレトユルキノ糸ト云モナクテ一下リ  
アル也此物特ニ下部ノ着ツハキ者也

手蓋小手之辨

釘ヲ

古シ丑ニ小手ノ袋ト云ル物也今ハ篠小手  
筒小手或ハ椀或ハ瓢ナト云物ヲ鑠ニテツ

鑠字誤歟



ツレル也又小シキ袖ツケニナトモアルニ  
ヤ南都ニ義経ノ小手ト云物アリ其制腕ト  
臂トノアタラム所モタヲオヒモ黄ニ返シ  
タル板ヲ或ハ雲形或ハ花形ナトヲホリス  
カニタルニ其ニタニ黒ク塗レル革ヲ粘タ  
ル也手蓋ノ形ハ今云鯨形ナトイフ制ニテ  
ユヒニ近キトコロニドカニシテ綿ノ赤革  
ヲモテ指カケキクヒノ緒ナト作りタリ眩  
ニアタル所モトカナル金物ニ菊花ノ形

オキサミチリハメニヲ黄ニ返シテスヘテ  
鏢ニテツラ子シ也冠板ハ廣サ六分長サ三  
寸許ニテ中ニ當ル所ニ鴉目ウチニ穴アリ  
是ヨリ組緒引出セルナルベシ左右ノハツ  
レニ廣サ五分許ノ革緒アリ是等皆鎧ニツ  
クベキ料也浅黄ノ布ノミツ藤ノ紋深タル  
ヲ表トシ裏ノ方ヲ組ニテカ、レル事今制  
ニ異ナラス筋ノ織物ニテ小手ノ袋縫ハツ  
シタリ是ハ鑑直垂ノ袖ヲ入ベキ料ト見ユ

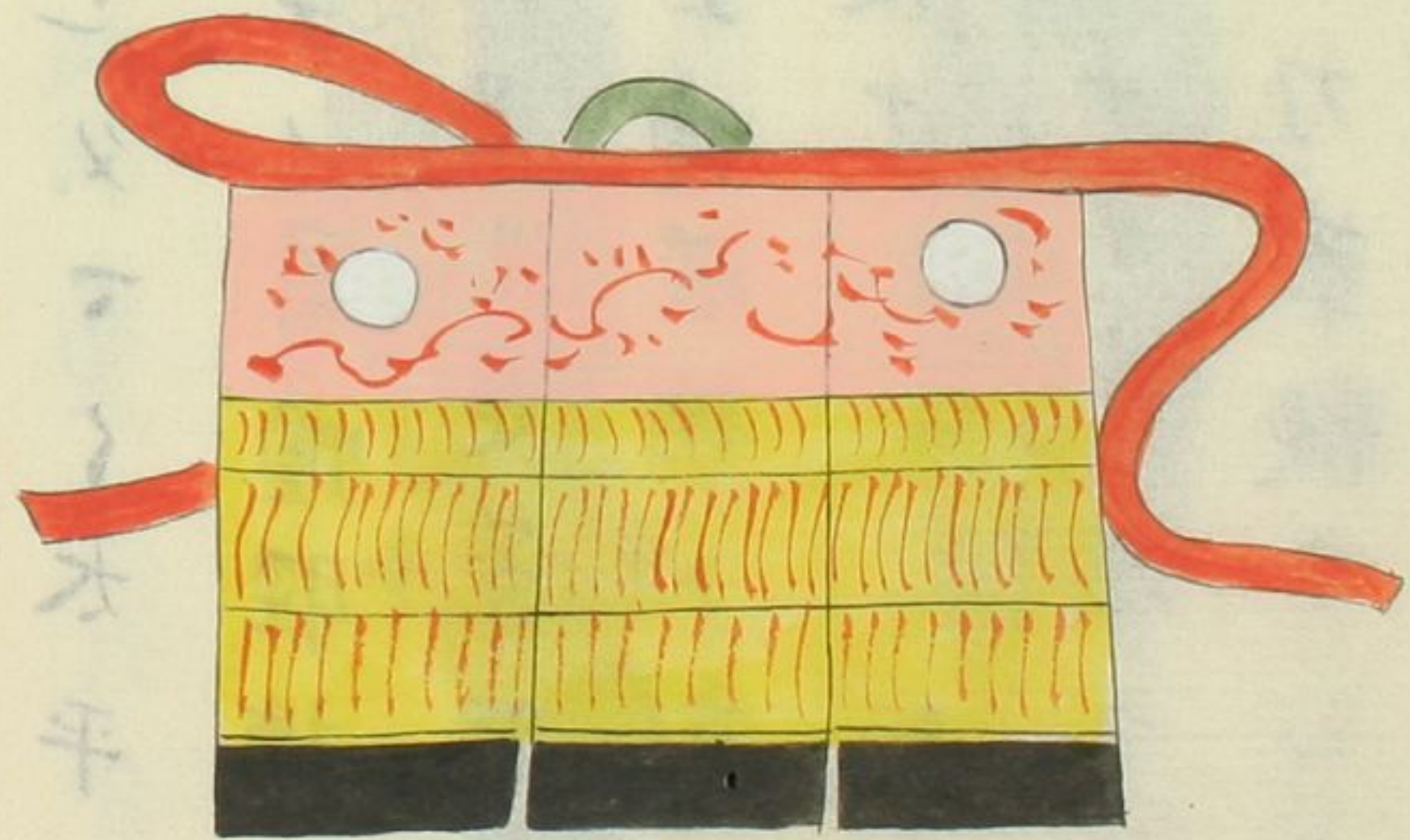
義経朝臣小手之圖



脛楯之辨

古シ丑ニ正シキ據ナシタニ太平記ニ膝  
 鎧ト云物見ユ古画ニ今ノ寶幢脛楯ト云物  
 ノ如クナル才着シモノアリ是等膝鎧ナト  
 ノ遺制ナルカ又今ノ宝幢脛楯ト云物小札  
 毛引ク串鎧ノ如ク三枚ナリニシテ下ノ板  
 ラハ左右各三ツニワカチテ菱縫スル事草  
 摺ニ同シ其板ノ上ニハカ革鞭サシナト云  
 物アリ近代佩楯ト書ハシカルベカラズ

脛楯之圖



踏籠之圖

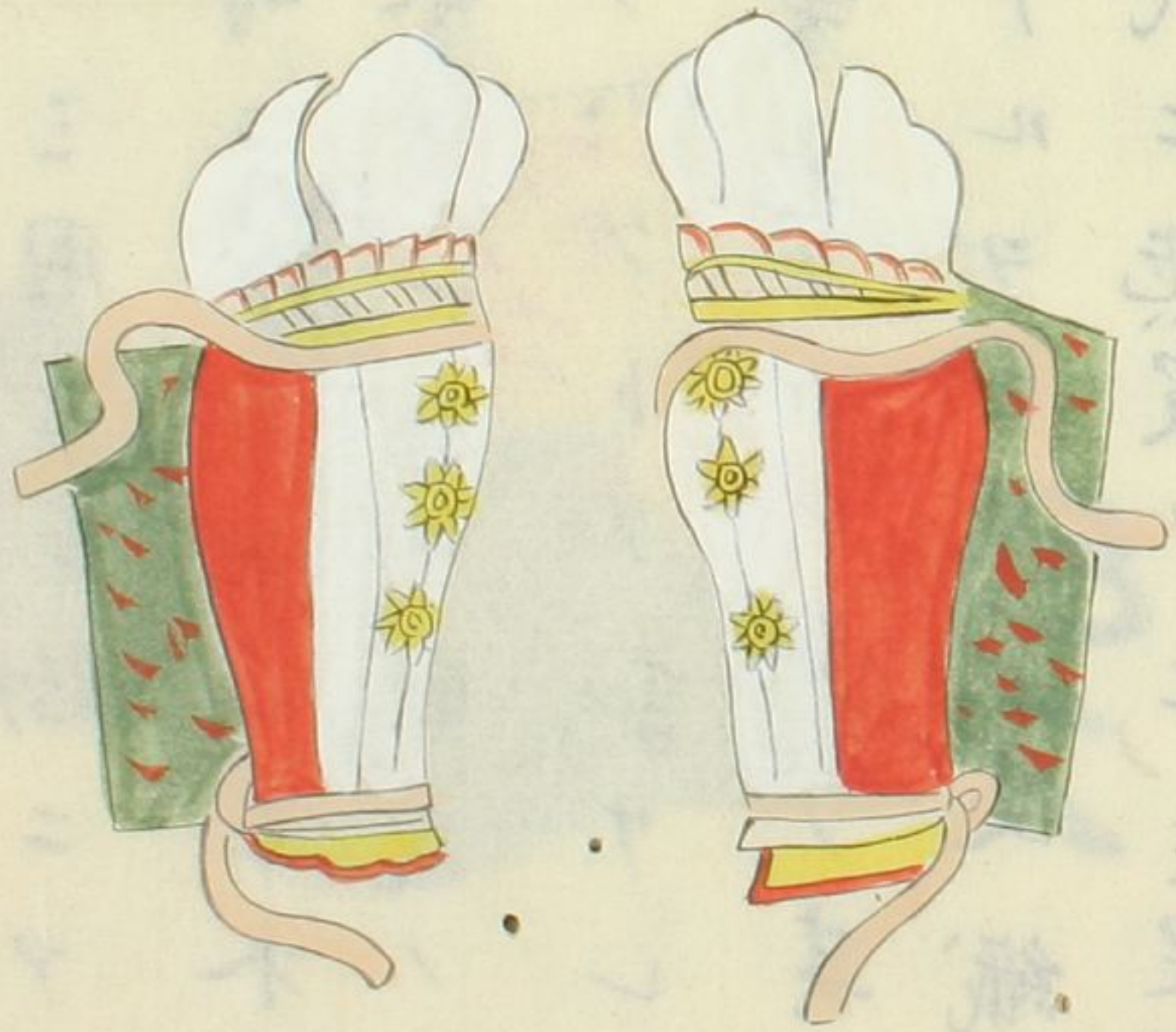
古ニ云鍍袴ナリノ遺制ナルカ



ス子アテ  
嚙當之辨

古シハニモ毘沙門嚙立又ハ篠立等ノ名ハ  
 ユクユク聞エキ又大立擧ス子アテト云モ  
 ノ其制銀ノ磨付ナトイヒシモ白臘ニテ飾  
 レルモノナリ其立擧ノトコロヲ十王頭ヲ  
 トモ名ツケシナリ

嚙當ノ圖



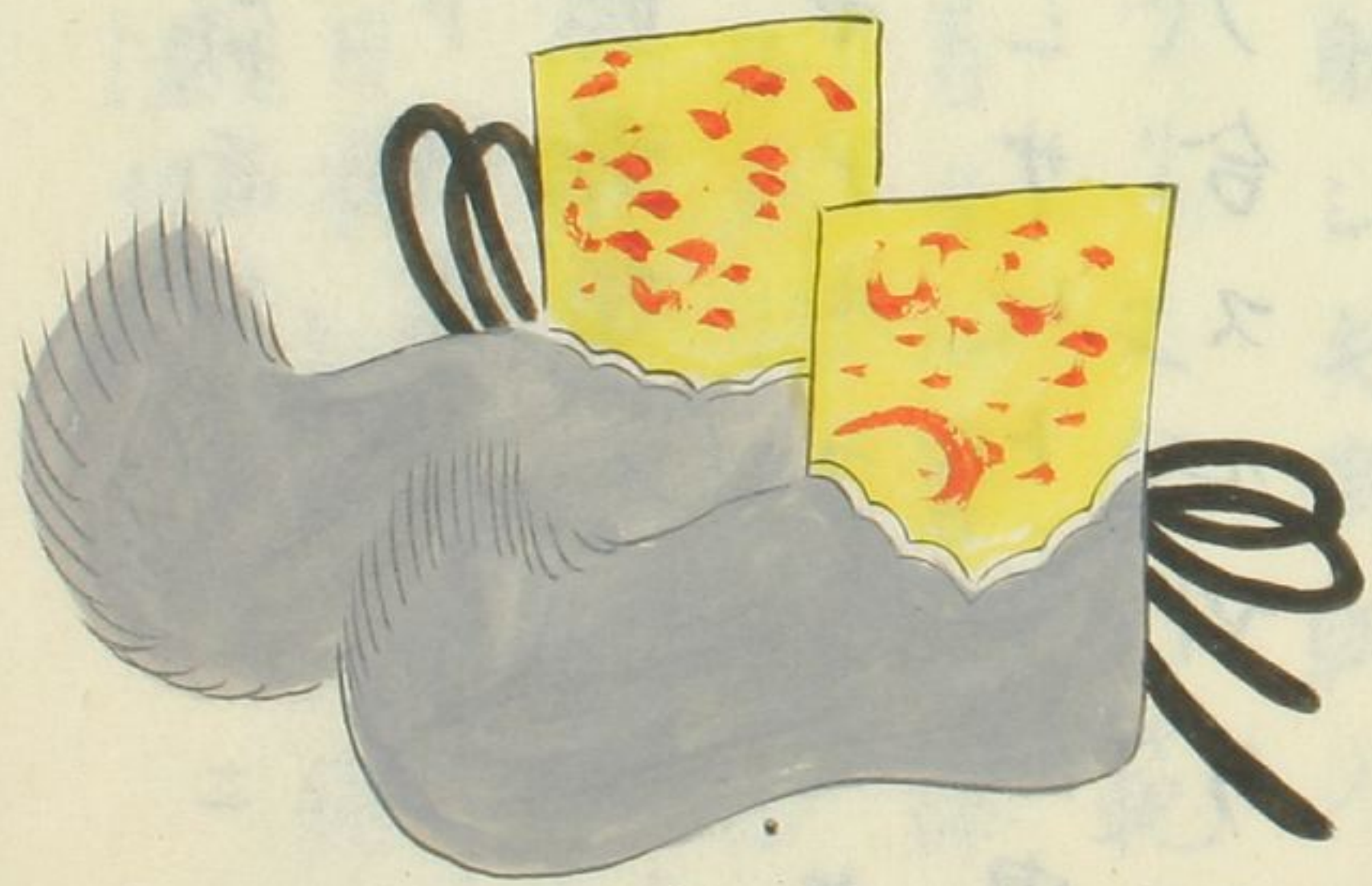
大立擧嚙當之圖

用ヒシヤタリ又山外ニ遊スルヤニモ  
 同シの草ナシニシテヤリ  
 嚙當ノ圖  
 大立擧ノ圖

毛沓之辨

此物ハ六具セシ時ノミ用ヒシ物ニアラヌ  
ヨノツ子ノ騎馬ノ時ニモ用テレシ木曾追  
討ノヲリ義経院へ参ラレシニ熊皮ノ頬貫  
ヲハキ自余ハ牛皮ヲハクトソ記サレシ古  
画ニ見シモ黄色栗色ナトノ革ノ其毛  
同ニ色革ナルニ紋アルヲモ用ヒ又織物ヲ  
用ユルモアリ又近代ニ熊皮ノ毛ミ足袋ト  
云フハ古ノ制イカニヤアラニイフカシ

毛沓之圖



半首之辨

其初ノ齊ノ蘭陵王ノ鉄面其ノ制ニソ出シ  
後代ニ至テ頰ホウ當アテ目ノ下頰當半頰ナト云モ  
ノハ聞ヒキ太平記ニ熊野頰當ト云ヒ物ニ  
ヒ又レト其制イカニヤアルラン又古ノ半  
首ノ制モ一定ノ説ナシサレト大概曹ノ鉢  
ノ如クニメ頭ノ半ニテ合スルヤウニ依リ  
タル物ニテ多クハ黒ク彩トリ緑ニ赤キ縫  
モアリ又ハ赤革ニテモツ、ミコ也是ハ内

曹射ラレサラン料ニ其面ヲ全ク掩フ物也  
保元記ニ鎌田正清カ射ニ矢為朝ノ左ノ頰  
サキ半頰ノ間ヲ射ケツリ又今川範國カハ  
八王ト云大刀ハ敵ノ着タル曹ノ鉢ト半首  
トヲ打破リシトモミユタリ又近世延懸ト  
云モノヲ頰當ニ綴レリサレト古ヘノ物ハ  
其制ニ異ナルニヤ叔日本記ニ頰鎧トイフ  
モノヲ与多利加氣ト注セシナリ

筒丸辨

古一ノ筒丸ノ制ヤ其胴ヲカコミシ形ノ一  
 ロク竹ノ筒ニ似タレハ角クナツケシナリ  
 春日社ニアル楠正成カ鎧ト云フモノ即古  
 丑ノ筒丸ノ制ニテアル也其威ハ黒革ニテ  
 縫ノ一ナト云物ノ如ク馬牛ノ方ニテアヒ  
 ヌレハ眼立ヲ用ユルニヲヨハヌ草摺ハ八  
 枚ニテ障子板弦走ノ革モナク梅檀ノ板ヲ  
 ハ杏葉ヲ以テシ袖ハ今ノ大袖ノ制ノコト  
 キ也又同シ毛ノ三枚胃アリ其筒丸ノ制ハ

コ、ニ返シ又胃ノ制ハ大ヤウ近制ニ似タ  
 リ其鍬形吹返シ等ニ菊ノ金物ヲウチヌ  
 楠正成筒丸之圖



古曹之辨

附今制名所之辨

夫曹ノ古制大ヤウハ今ニカハラ又鉢ト云  
事モ又ニキ名ナリ異朝ニモ盃ハ盃ノ属ス  
ナハチ鉢也ニ見ユタリサレト其名所ノ違  
又ル事多シ先ツ礼節ニ神宿トカキテ加年  
也登利ト記ニ頭上ヲ云ナリトソ今コ、ヲ  
ハ幡座ト云古ハ此ホトリヲ皆平反トイヒ  
ケリ今鉢付ノ板ノ上ニメケレル金物オ玉

垣ナト云所モ古ハハ聞ユス彼四天ノ星  
ノ下ニ小ニキ穴ヲウカツ世ニハ赤熊舟ノ  
緒引出スヘキ料也ト云ヒ又前立物立ヘキ  
為ニ前ニ角木板立ナト云物アルナト古ヘ  
ノ鍬形ナト打シトコロナラニサレト其名  
ハ聞ユ侍ラズ吹返ノ制モ古ハ特ニ大キ  
クシテ方五寸六寸七寸余アリ大様ニコロ  
一枚モ二枚モ同ニヤウニ皆吹返シタルモ  
アリウケ張モ今ノヤウニ布才重子縫ニ



ハアラテ洗革ヲモテ作り多クハウケ張ハ  
ナニ曹ノ緒モ織物ノ類才緊ヲ中ニシテク  
ケタル也笠幟ノ環鉢付ノ板ナトハムカニ  
ヨリ聞且ニ其板ヨリニコロヲ綴ル糸ヲ古  
ニハ鉢付ノ横縫トイヒシナリ

古丑ニ聞且ニ鷹角曹葛曹ナトハ其制イカ  
ニヤアリケニ帽子曹ハカザリモナキ曹ノ  
鉢ニ鏢ノニコロナルモノ多ク下部ノ着セ  
ルモノ也又四方白八方白ナトハ其鏢タル

銀亦ハ白鏢ヲ沃キシ板ヲ前後左右ニ四所  
ウツヲ四方白ハ所ニウツオ八方白ト云一  
方ニウツオ片白ト云應仁ノ頃小泉曹ト云  
アリ今其利詳カナラス

古曹名所之圖



三光鐸

イニ鐸ハ悲



鉢巻之辨

神代抄ニ日ノ神八尺瓊ノ五百箇御統ヲミナ  
 イナタキニミツヒ給ヒシヨリ起レリトコ  
 ソ見ユ今ハ白布白綾等ヲ用ヒ其長モマタ  
 ヒトシカラス今衛士ノ朝服會集ノ日ハ朱  
 ノ鉢額桂甲ヲ加フトミ丑ニ鉢額ハ則鉢巻  
 ニテアリケル凡曹ノ額上ニアタル所ヲ俗  
 ニ末都加宇トイヒヌレハ鉢額ト云コトバ  
 ノ曹ニモウツリテ額ノ字ヲ加宇トヨム事

鉢頭

古ノ習也也カノ宗高ガ薄紅梅ノ鉢巻セシ  
ハ頗ル古儀ヲ存シタルカ此物ニ朱色用ユ  
ルハ古ノ遺俗ナルカ

### 陣笠之辨

舊事記ニ瓊々杵尊此國ニ降マセシ時高皇  
産靈尊紀伊國忌部遠祖手置帆負神ヲ作笠  
トサタメ彦狭知ノ神ヲ作盾トナシ天日一  
箇神ヲ作金トナサレシナト云事御軍ノ備  
ノヤウニ見ユヌレハ是等ヲ其物ノ出来ニ

據トセニカ近代銅鉄ノ類ニテ作レル笠ヲ  
漆ニテヌリテ足輕ノ兵ハ曹ニカユテ着ス  
ルナリ

### 鑑直垂之辨

清三位ノ記ニ日神大夫ノ武備ヲ設給ヒシ  
時ミクニシヲアゲテミツラトナシ御裳ヲ引  
マワヒテ袴トナシ給ヒシハ今甲冑ノ下ニ  
四幅袴着ル事ノハシメナルニヤ人車記ニ  
平清盛紺水干小袴ニ紫革威ヲ着シ源義朝

赤地錦水干小袴着テ高松殿ニ参ラルヨシ  
見且其代ニ鎧直垂ト云モノハ水干ノ制ノ  
如リニシテ鎧ノ下ニ着シ左ノ夕モトヨリ  
手ヲ虫シ袖ヲハ射向ノ小手袋ニオシ入ル  
也南朝正平七年住吉遷幸アリニ供奉ノ  
人々色々ノ織物ノ鎧直垂ヲ着タリシトサ  
レハ此物錦金襴ノミニモ限ラス織物ヲモ  
用ヒ又ハ練貫生衣等ニテ制ス光源院殿ノ  
直垂ト云モノヲ見ニ其制ヨリツ子ノ如

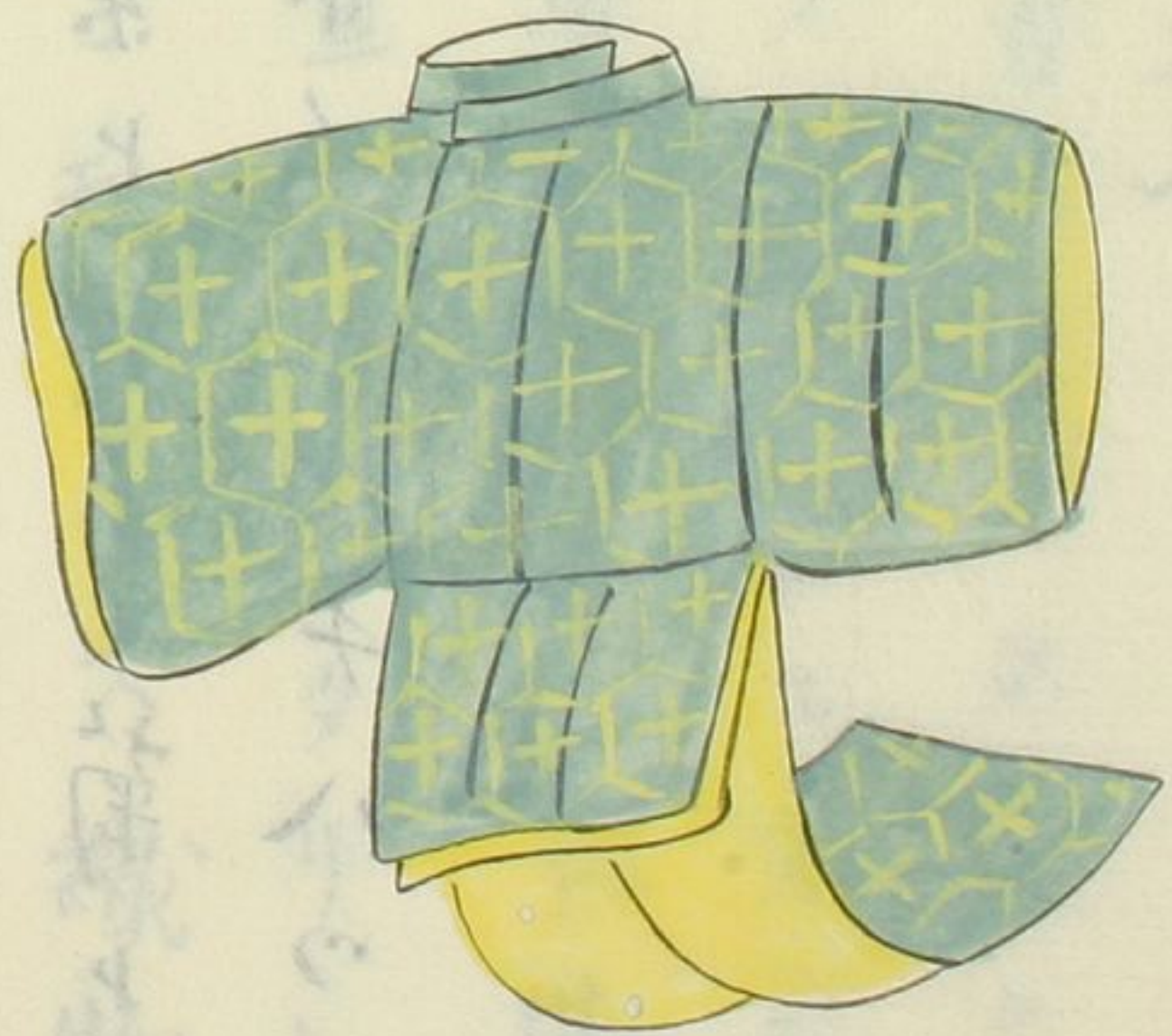
クナルニ錦ニ裏ヲホタル也袖ニモ袴ノス  
ソニモ結アリ其外ニ錦ニテ作レル脛巾ア  
リ露アラム所ニハ紫ト白トノ菊トチニ  
ツ宛アリテ左ノ襟ニ紫ノ菊トチハツ右ニ  
ニツト白キ一ツアリ

光源院殿直垂之式

保呂之辨

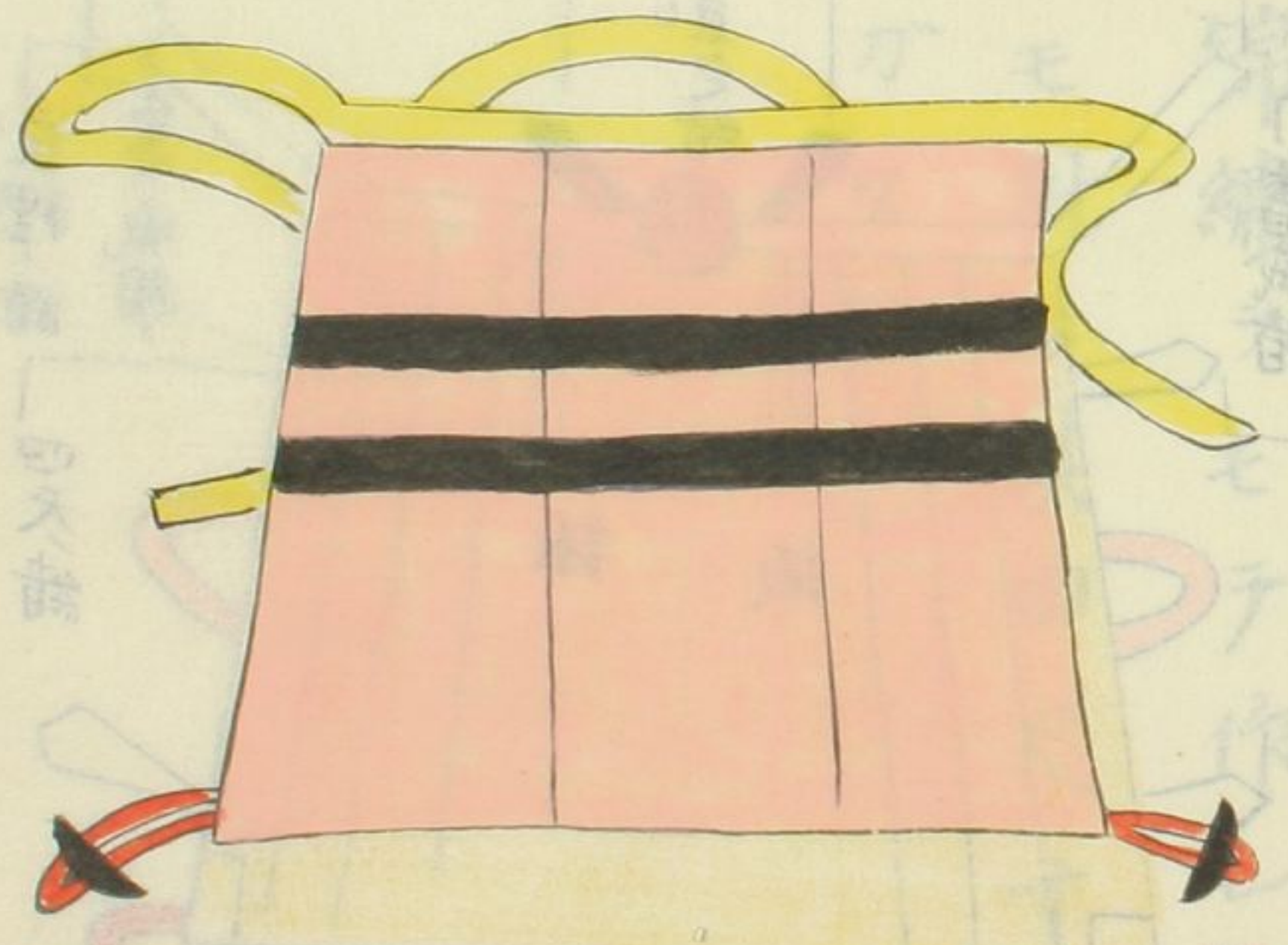
源衣ニ武羅 平衣ニ神衣 藤氏ニ綿衣 橘又  
母衣ト書トノ 下学集ナト可考

三代實錄ニ曰清和天皇御宇貞觀十二年三  
月小野春風奏セシニ所ニ軍旅之儲當在介  
冑介冑雖薄助以保侶調布ヲモテ保侶千領  
ヲ縫造テ不虞ニ備工ニト望申シキ又宇多  
帝ノ朝廷寛平年中守文屋善友新羅ノ賊虜  
ヲ追代セシ時彼國ノ甲冑太刀弓胡籙保呂  
等各一具脚刀ニ附テ進ラセシ由ニ工キ又  
神功皇后新羅ウタセ給フ時佳吉ノ神造リ

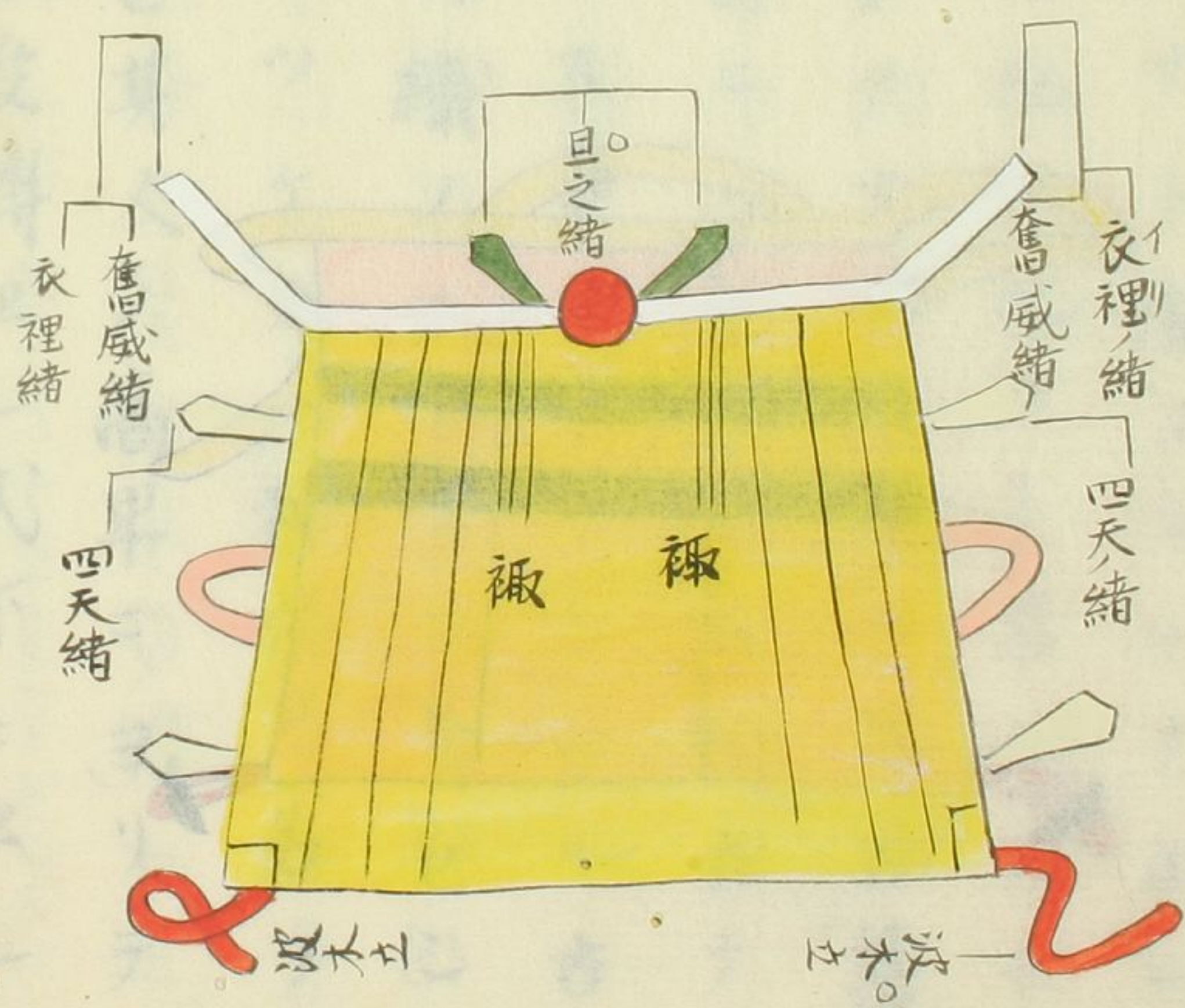


出シテ進ラセシナト聞エヌレト正ニキ史  
 ニハ見侍ラス元弘ノ比ヨリ帛ノタケモ長  
 ク其幅ノ数モ多クナリシ程ニ保呂籠ト云  
 物ニ引ヲホヒ前ニハ必シト云物立テ串ヲ  
 モテ鎧ノ後ニサス事ニソナリケル古丑ハ  
 帛幅モ少シク羽織ノコトクニ看セシト見  
 止シ今ハ家紋ヲツケ又ハ神佛ノ名ヲカ  
 名字カ、ム事モ其人ノ高卑ニヨリテ心得  
 アリト今予カ受傳エニ式下ニ出シ又

保呂古制式



旦之緒 日之緒  
可考



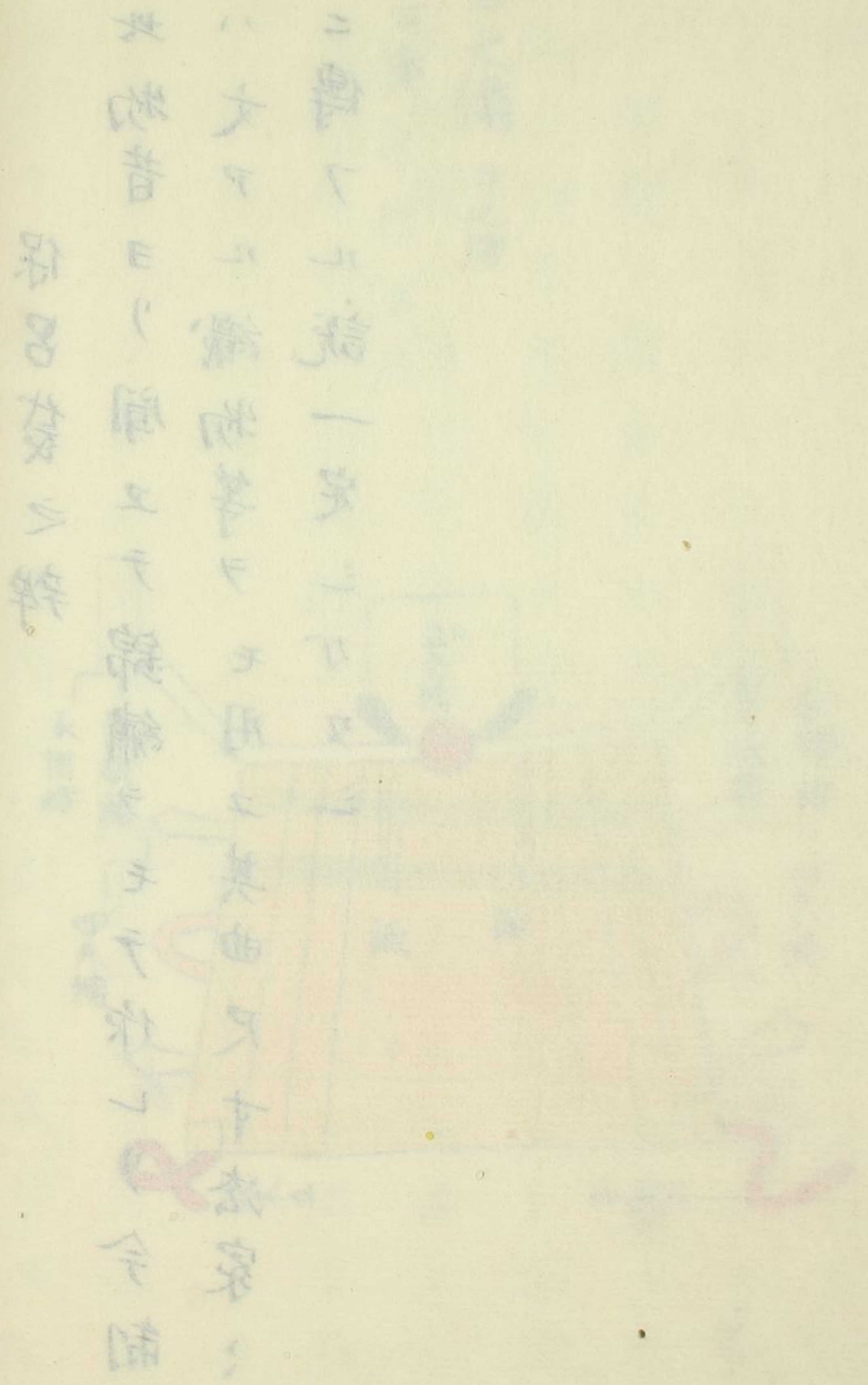
保呂袋之辨

此物昔ヨリ聞エテ錦繡ヲモテ作レリ今制  
ハ文アル織物等ヲモ用ユ其曲尺寸法家々  
ニ傳フル説一定シガタシ

本朝軍器考圖式卷之八

二 目錄

- 一 函楯之辨
- 一 步楯之辨
- 一 步楯之圖
- 一 車楯之圖
- 一 竹束之圖
- 一 帷幙之辨
- 一 幕之圖





一幕紋之辨

附大幕

舟幕

一内幕之辨

一内幕之圖

一幔之圖式

一幄之圖式

一暖簾幙之辨

一暖簾之圖

一床几之辨

一陳床几之圖二條

一敷皮之辨古法之圖

一敷皮之圖

一鞍之辨

一鞍之圖

一居木之圖

一四方出之辨

一古制四方出之圖

一今制四方出之圖

一手形之辨

- 一 韉之辨
- 一 三方切付之辨
- 一 鞞鞞之辨
- 一 表敷之圖
- 一 鞍把之辨
- 一 鞞之辨
- 一 鞞之圖
- 一 鞞頭之辨
- 一 胸懸杏葉古制之圖

- 一 面懸之圖
- 一 今制胸懸之圖
- 一 今制鞞之圖

本朝軍器考圖式卷之八目錄終



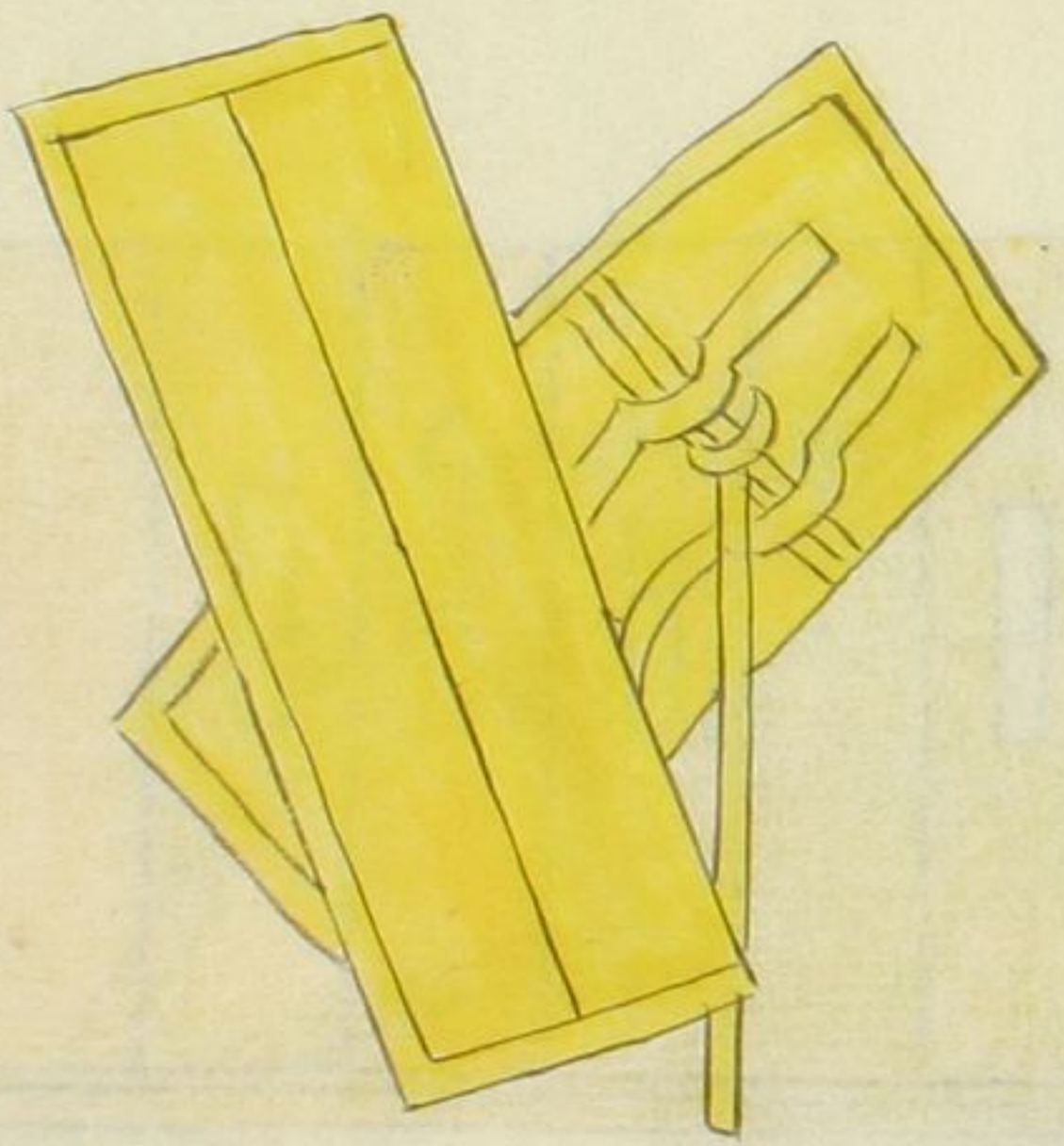
ノ河原ニ神會ニテ彦狹如<sup>知</sup>神ヲシテ作<sup>知</sup>盾ト  
ストミエシソ其ノハジメナルベキ又十七  
代仁徳帝ノ御時百濟王ヨリ錢楯ヲ獻リシ  
ツ盾人宿称ヲシテ射サシメラルトミエキ  
是專ラ戎ヲ防クノ備トソ見エタリ。

大自辨 步楯之辨

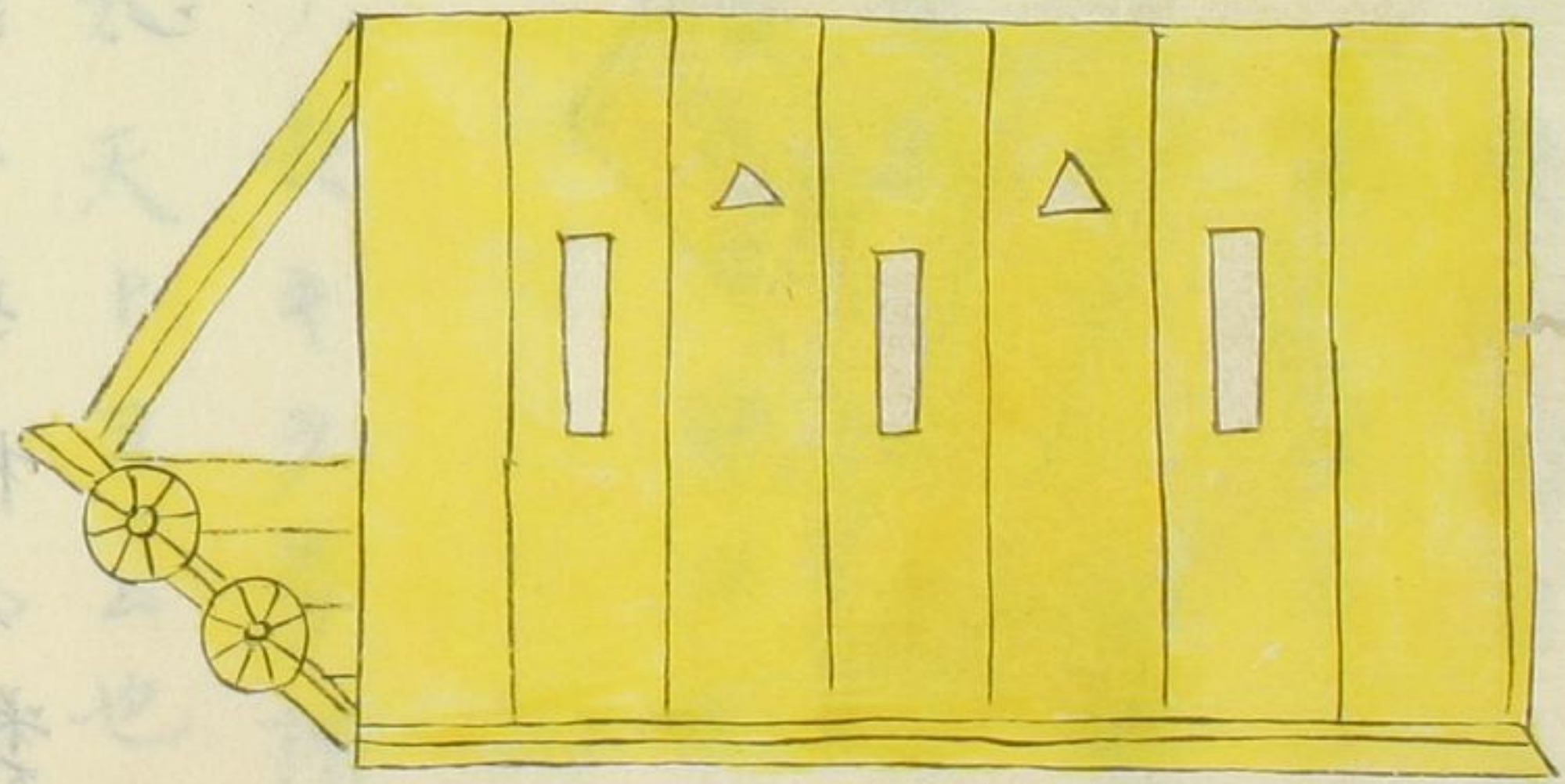
步楯ハ釋名ニ狹シテ長キラ步楯ト云步兵  
ノ持トコロナリ天太天トヨム也ト注シ又  
大伴昆羅大連カ弓箭皮楯ヲ執テ馬子ノ大

臣ヲ守リシトミエシハ步楯ノ類ニシテソ  
ノハシメトソミエシ

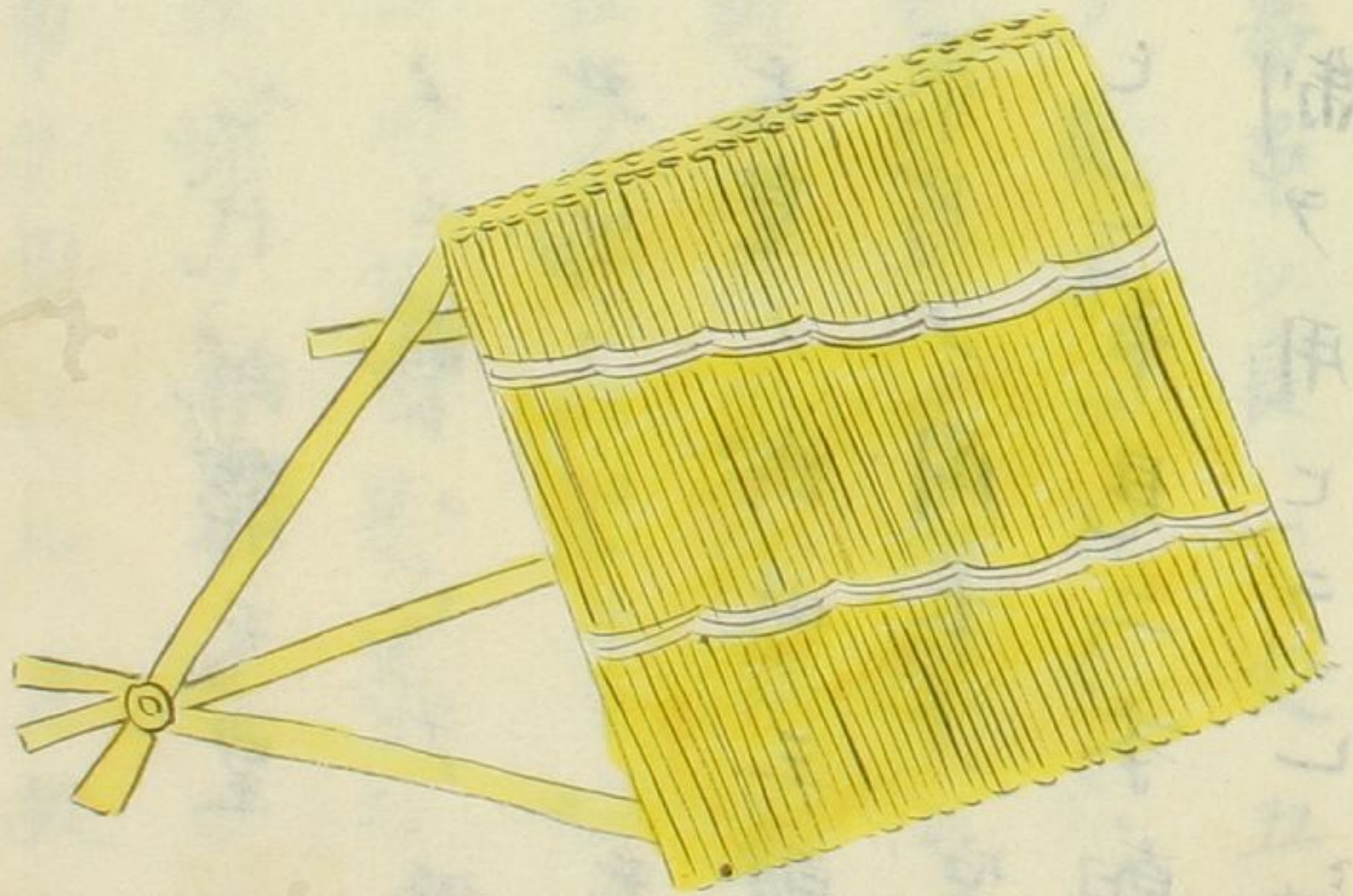
步楯之圖



車楯之圖



竹束之圖



帷幙之辨

大帷幙ハ本朝二十七代継體天皇ノ御時物  
部連伴跋ノ人ノタメニ襲ハレテ帷幙燒シ  
シトキコエヌレハ此物コレヨリモ猶前世  
ノ事ニソアレ奔明天皇ノ御時三韓ヲノラ  
ノ御調進ラセシヲ飛鳥ノ岡本ノ宮地ニ糾  
幕張リテミア一賜ヒニ事見ユ本朝ニモ古  
ニ丑ハ六幅八幅ノ制ヲ用ヒラレシニヤ體  
源抄ニハ幕ノ長サニ丈五尺乳ノ間一尺三

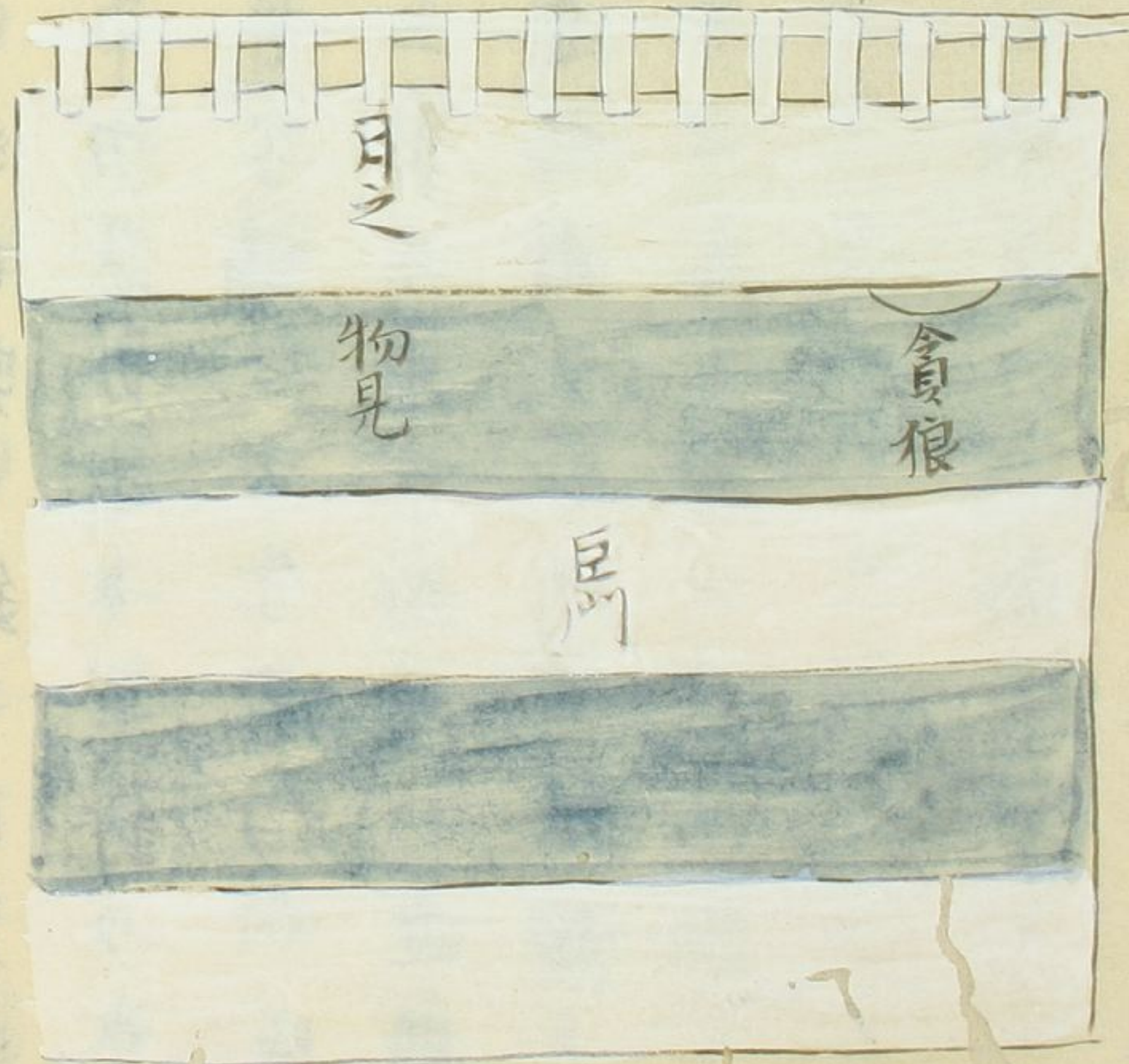
寸繩ニセコセナラハ乳モナイマセ一筋ナ  
ラハ乳モ一色ナリ幕串ノ長一丈五寸又大  
江真忠相傳ニハ幕ノ長本ハ三丈六尺也手  
ノ長サ七間半手三色ホセ高家ニハ白手  
ナリ乳モ同シ乳ノ數ハ二十八宿ヲカタド  
リ其數アリ幕紋ハ五ツ又ハ三ツセツモ幕  
串一帖ニ九本ナトシルセリ是等モ家、相  
傳フル所近世ノ制五幅ノ布ヲ用ヒテ長サ  
ニ丈八尺ナリ是一布ヲ用ユルカ故ナリ一

對ノ幕ハ通シテ十二幅ノ布ヲ用ベシ、其二  
幅ハ乳并ニ手繩ノ料トスニ幅ノ布ヲ一  
幅コトニ四ツニサキテ其一ツヲ乳トシ其ノ  
三ツヲ白キ黒キ青キ色トナシテ手繩トス  
乳ノ數二十八ナルハ天ノ宿ニ象リ、陽トシ  
三十六ナルハ地ノ禽ニ象リ陰トス又梵字  
カキ符字繡ニスルノ類ハ皆近世ノ俗ニヤ  
古ニハ削丑ズ幕串ハ大将十本軍士八本其  
長サハ尺稜ヲ八ツニモ六ツニモシテ止メ

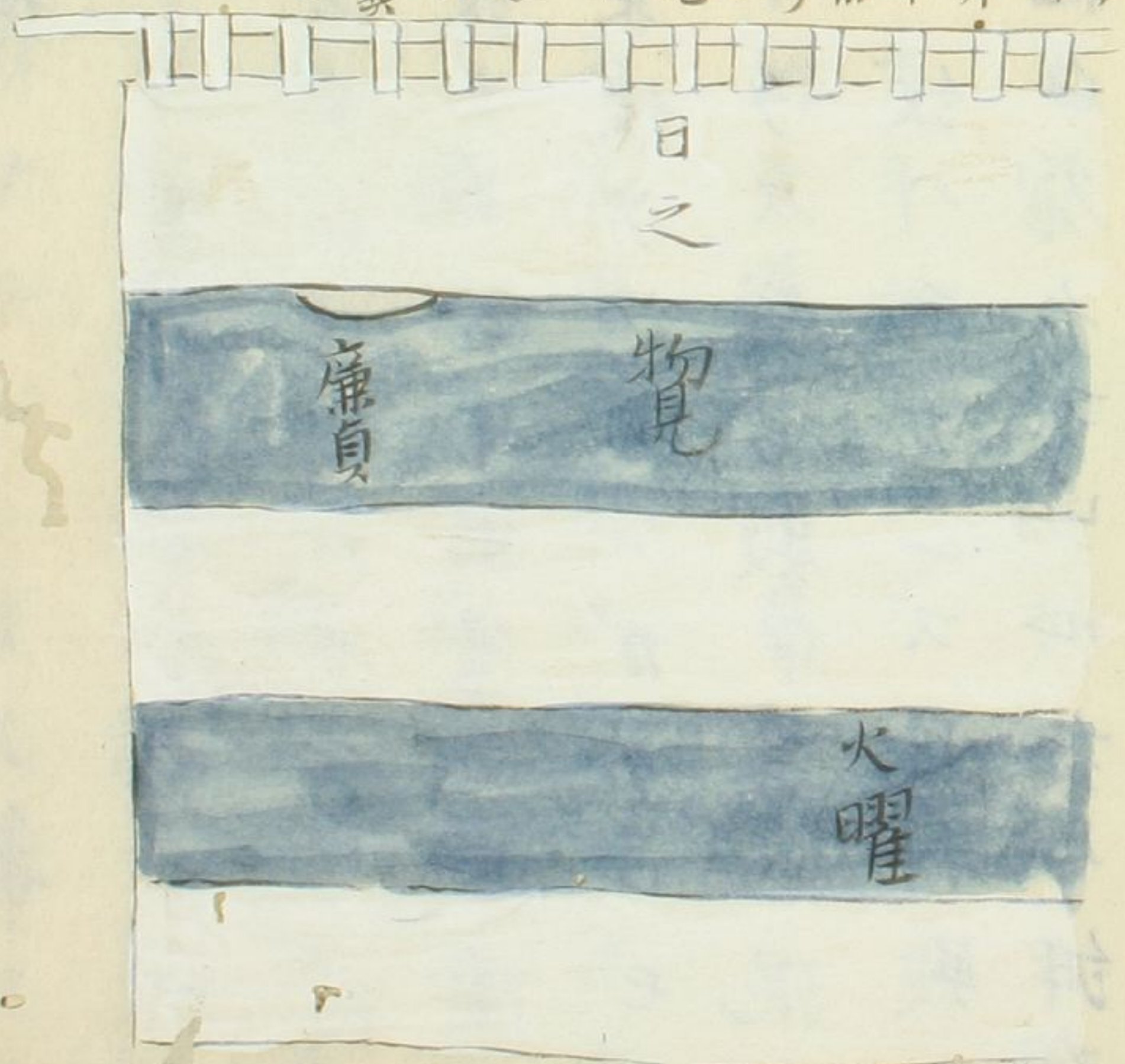
方ヲトニホウ頭ニシ石突ヲ鉄ニシテツ  
ム頭ヨリ下四才ハカリカホトニ釘ヲウツ  
ナリ將梵字カキ符字繡ニスルノ類ハ皆近  
世ノ俗ナリトイ丑トモ用フル所ハ近世ノ  
制ナリシカラハ近世用フル所ノ帷幙ノ名  
所ヲミラセニタメニ是ニ圖ヲモラス

幕之圖

奎壁室危虛女斗箕尾心房氏亢角



軫翼張星柳鬼井參觜昂胃壽





幕紋之辨

幕ニ紋ツクルハ其始詳ナラス古制ノ緝  
布ヲ用フトミ丑ヌレハ紋ハアラス後代ニ  
至テコソ旗ノ紋ナト云テ出来テ其陳シワ  
カタニカ為ニ家紋ヲツケシカソレモ昔ハ  
今ノヤウニハアラス鎌倉殿ノ幕ハ混白ノ  
ヨシミ丑タレハ紋ハ画カレス足利殿ハ幅  
ノ幕上中下ノ幅白クノコレル布ハ緝ノ布  
ナレハ二引輓ト云ミ外ノ紋モアリシマ

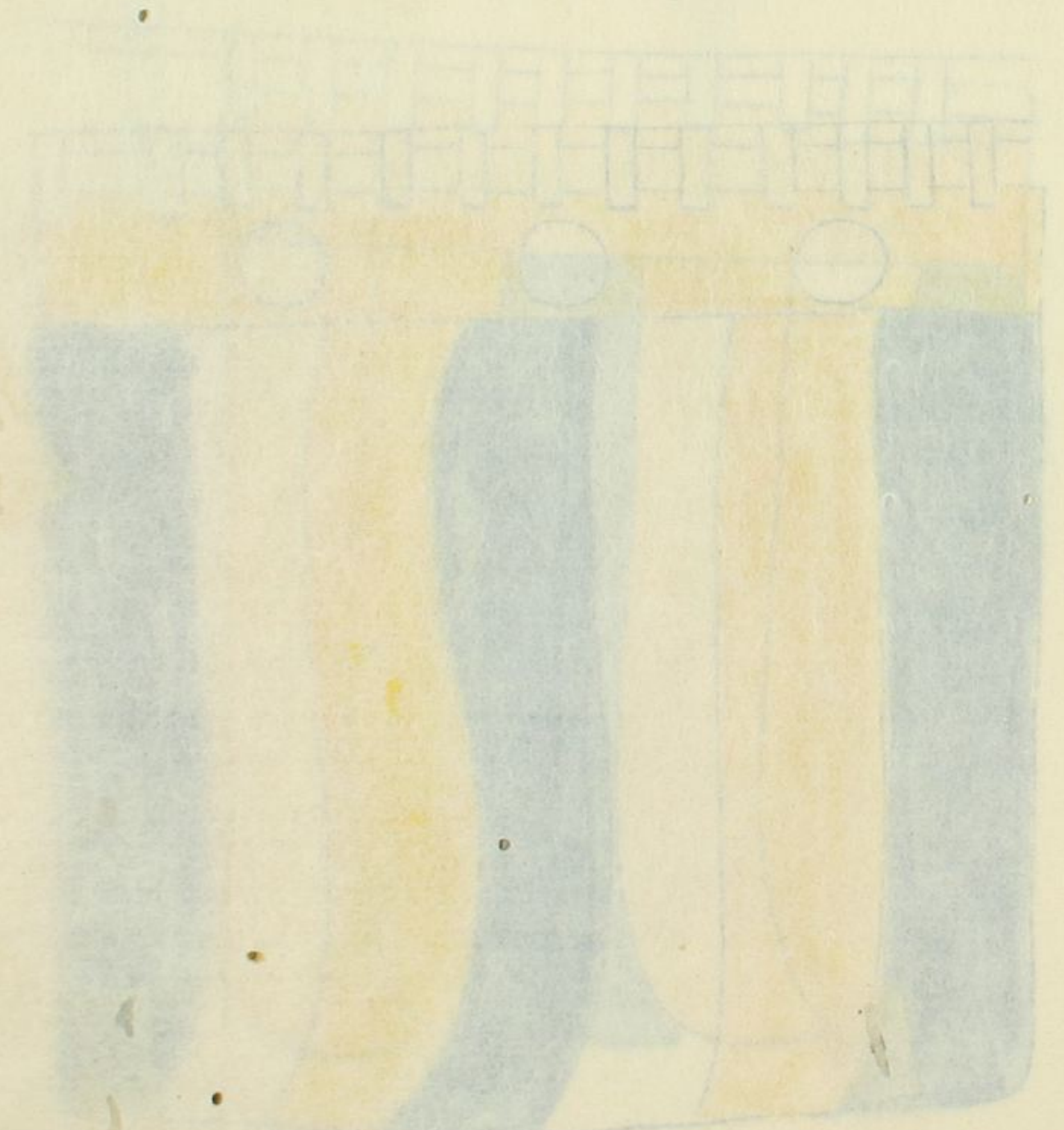
ニ幕ノ中程ニツケシ今ハ二引輓三引輓ニ  
輪ノ中ニツク古ノ家々ノ紋ヲミルニ輪ノ  
中ニツクル事ハナキナリトゾ

内幕之辨 附大幕 丹幕

内幕ト云ハ其制十三中ヲ用ユ乳付ノ巾ハ  
横ナリ豎ニ十三ノ幅ヲツケ其長横巾トモ  
ニ五尺ニモ六尺ニモス乳ノ數ハ十六十八  
又ハ十七十五ナト云テ一定ノ説ナシ紋ツ  
クル事横巾ニ五ツナルベシ又大幕ト云ハ

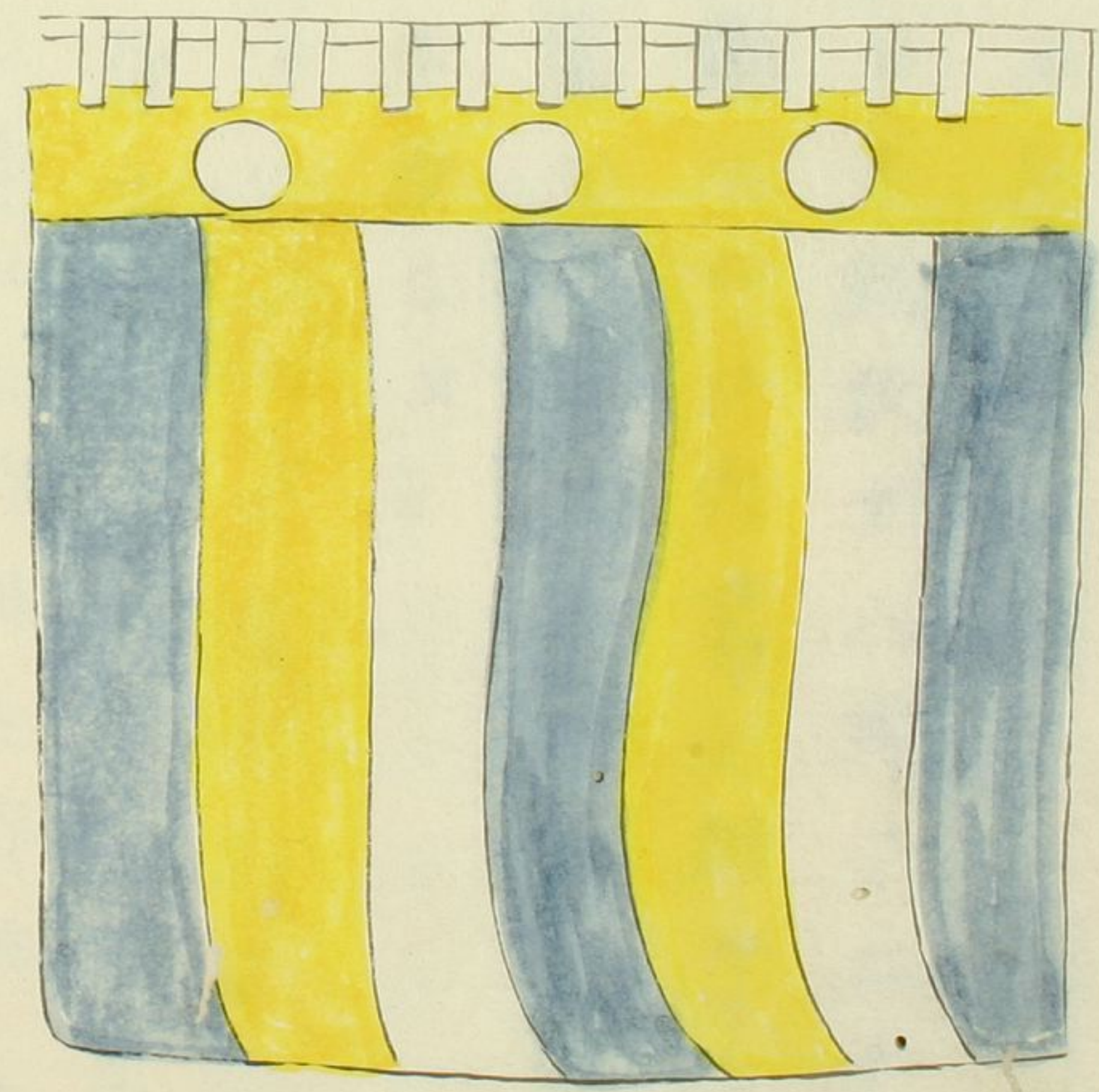
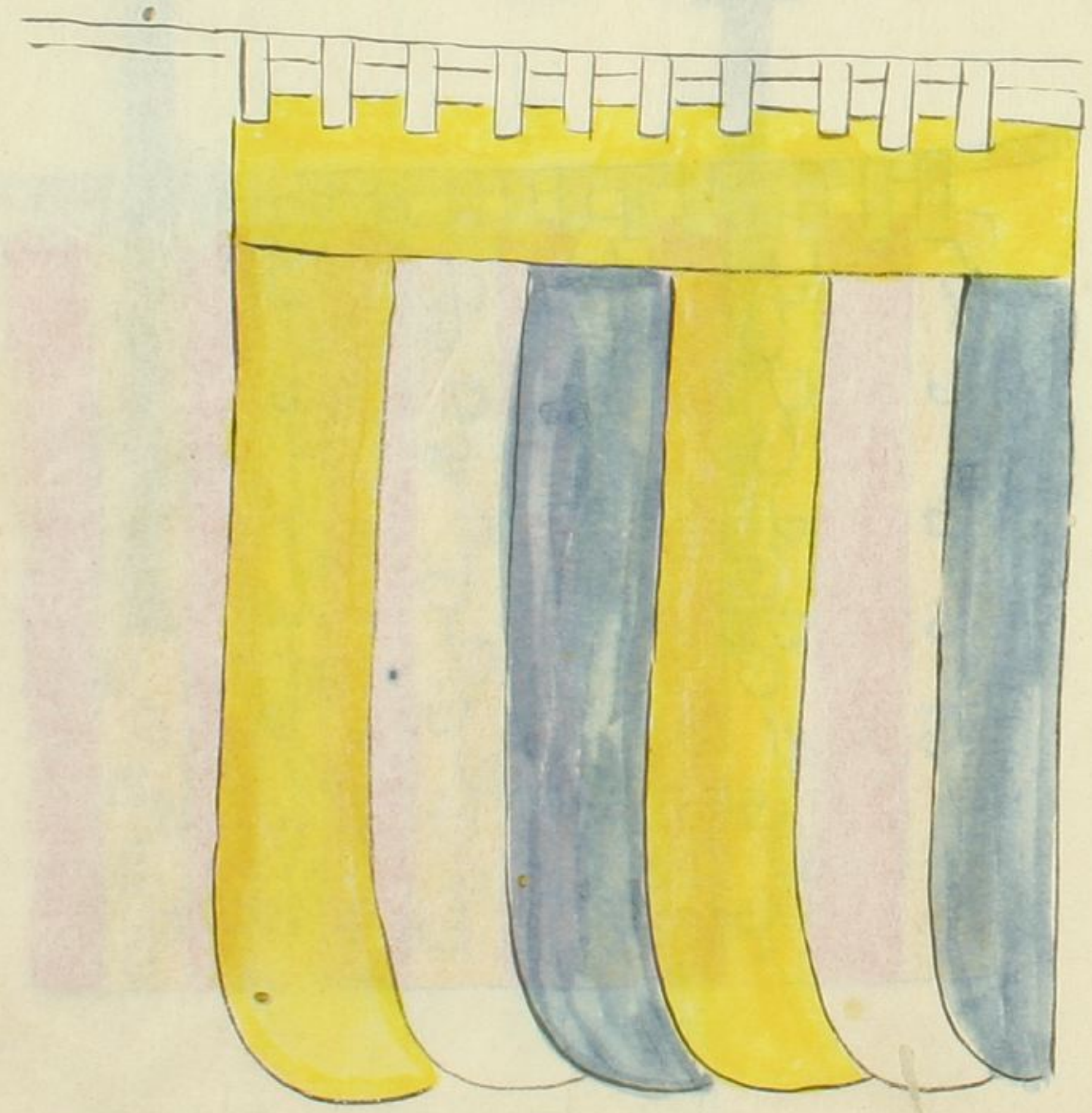
其帛六巾ニシテ長サ三丈二尺乳数三十二  
 串ノ長サ九尺五寸ニシテ十六本ヲモテ  
 又舟幕ハ五巾ノ布ニテ乳数十八或ハ二十  
 五ヲ式トセリ下ニ圖スルハ内幕ノ制ナリ  
 其大幕舟幕ノ作用家ニ傳フル所ヲナシ  
 カラザレハ其画ヲモラシヌ

中ニハ八巾ノ幕ハ式トシテ長サ三丈二尺乳数三十二  
 串ノ長サ九尺五寸ニシテ十六本ヲモテ又舟幕ハ五巾ノ布ニテ乳数十八或ハ二十  
 五ヲ式トセリ下ニ圖スルハ内幕ノ制ナリ其大幕舟幕ノ作用家ニ傳フル所ヲナシカラザレハ其画ヲモラシヌ

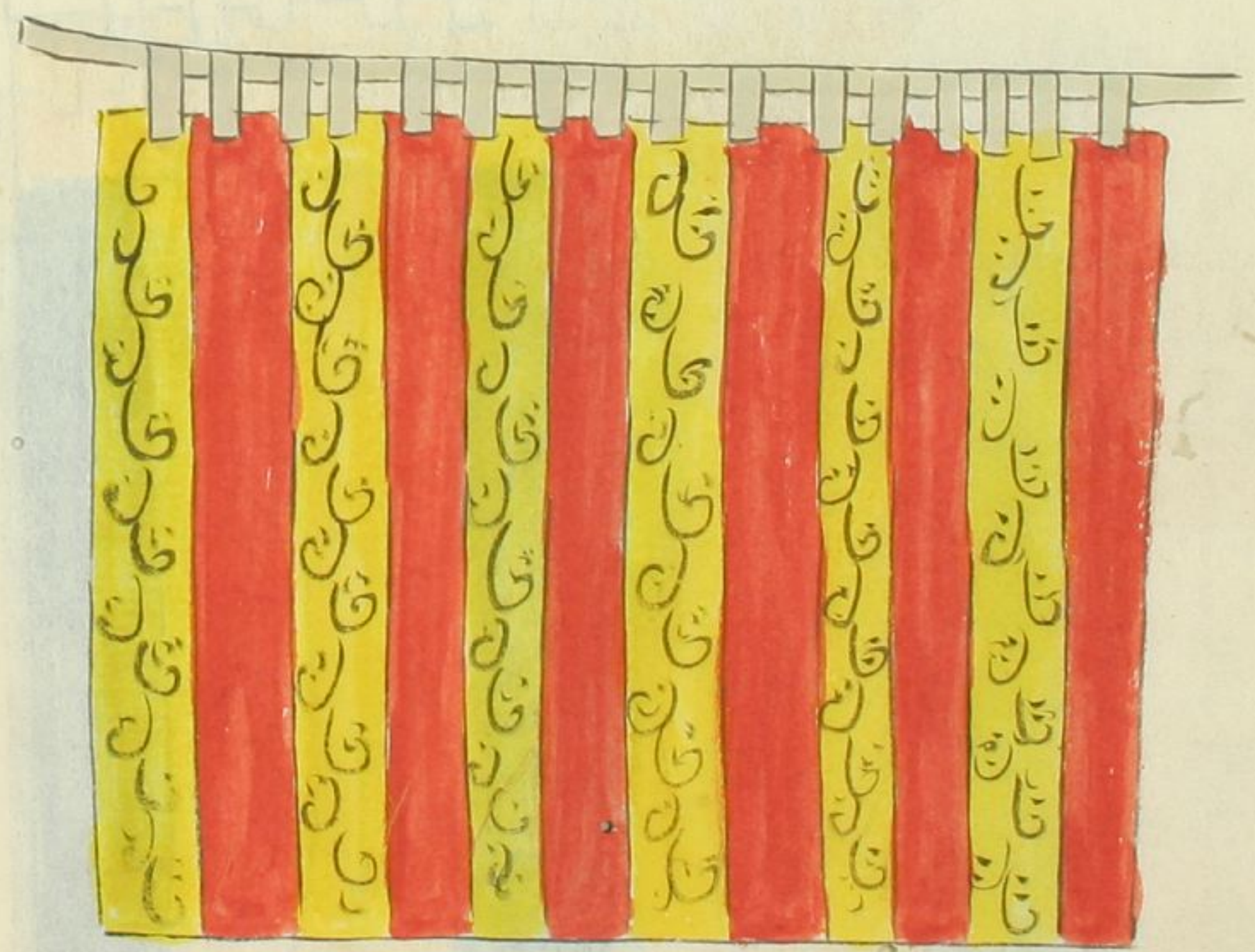
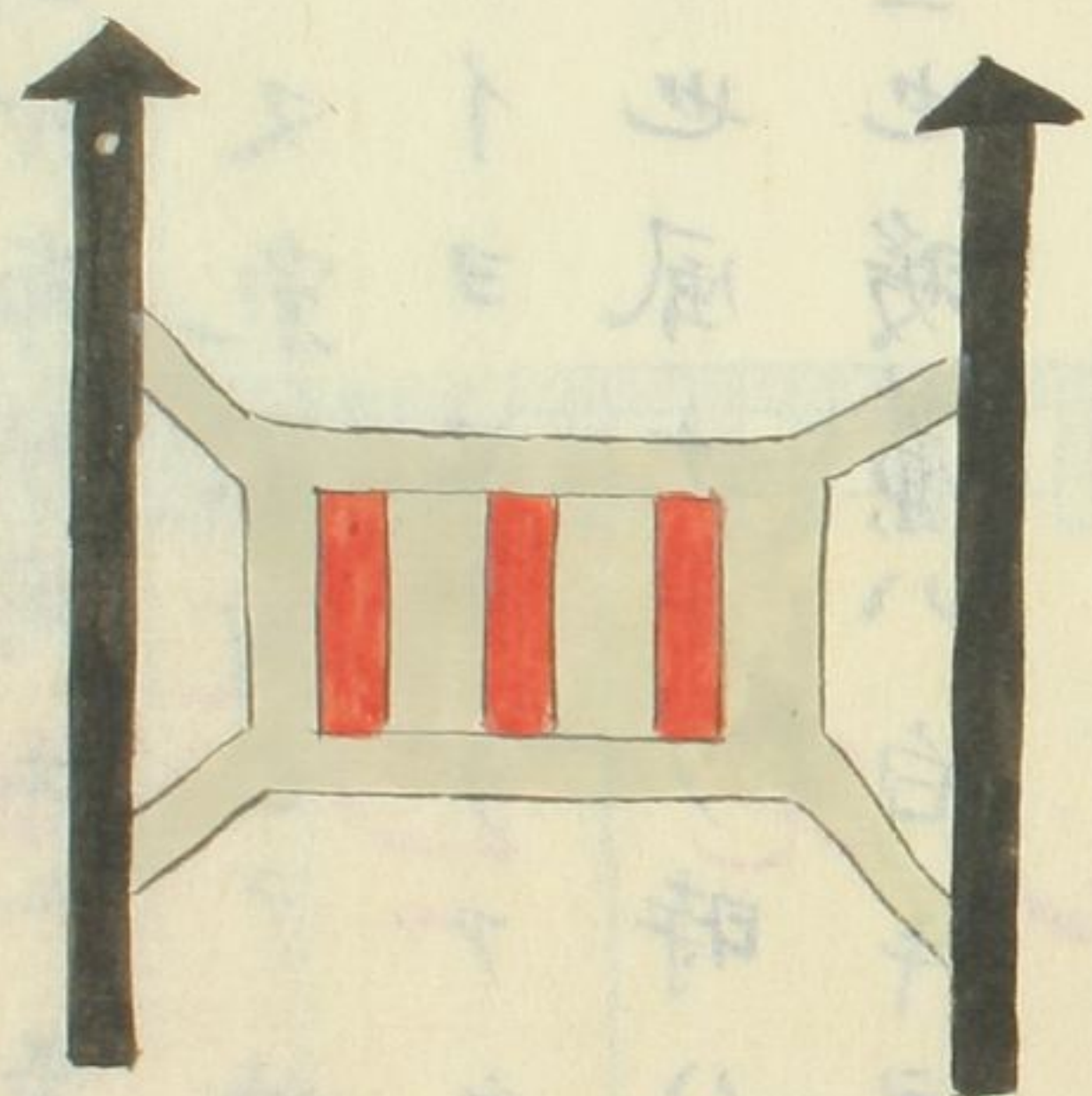


舟幕ノ制

內幕之圖



帷之圖



暖簾幕之辨

夫暖簾幕ノ制ヤ布ヲ用ユル事四幅ニシテ  
乳數十ハナリ又乳不付ニテ縫ク、ミニモ  
スル也中ヲアイヨセトテアケタキ時中ヲ  
タテ一引上ル也風ナトノ時ハ端ノ緒ニテ  
中ヲク、リ置也暖簾ハ白キヲ忘ニ織物ノ  
類ヲ用フルナリ

暖簾之圖

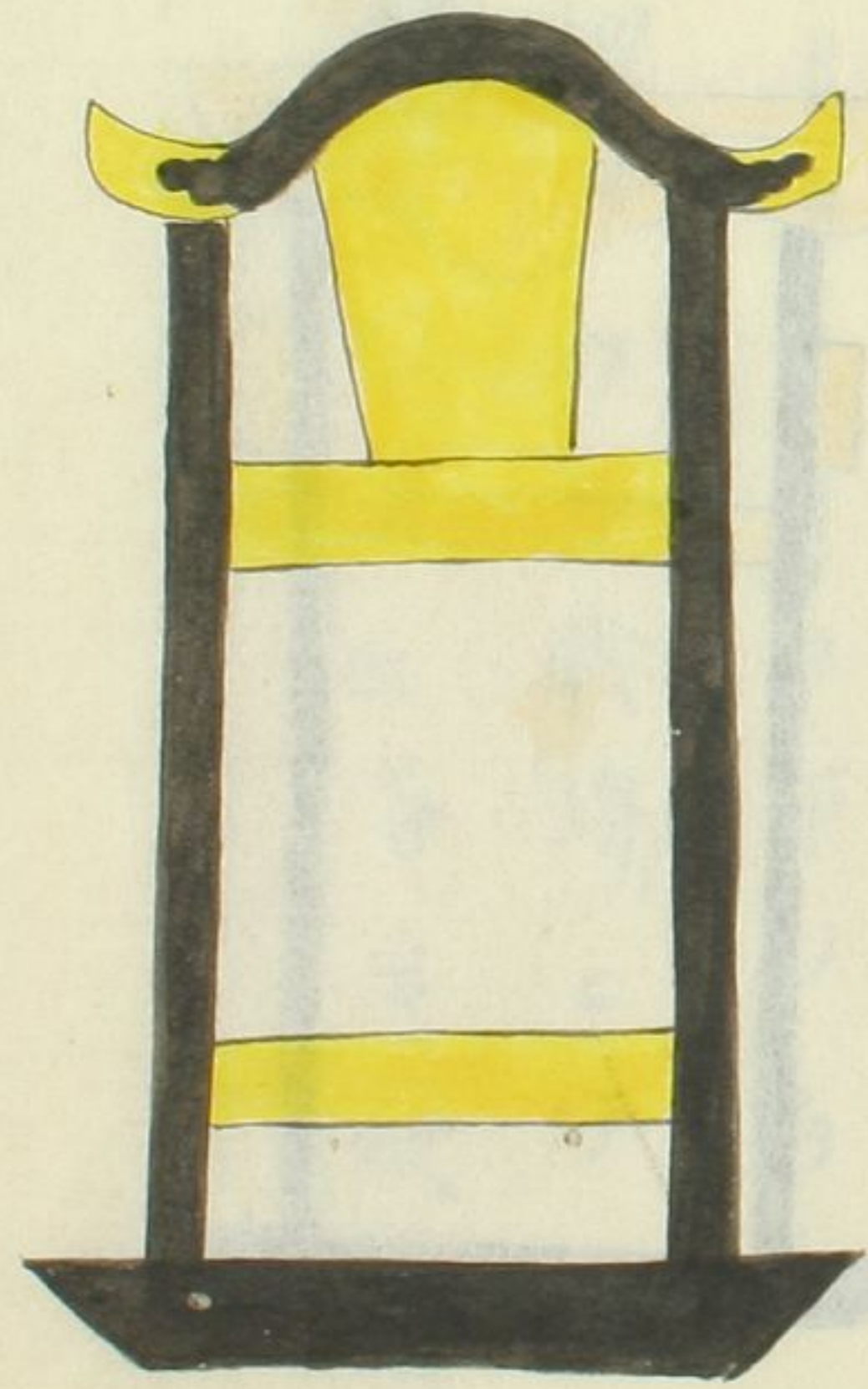


床几之辨

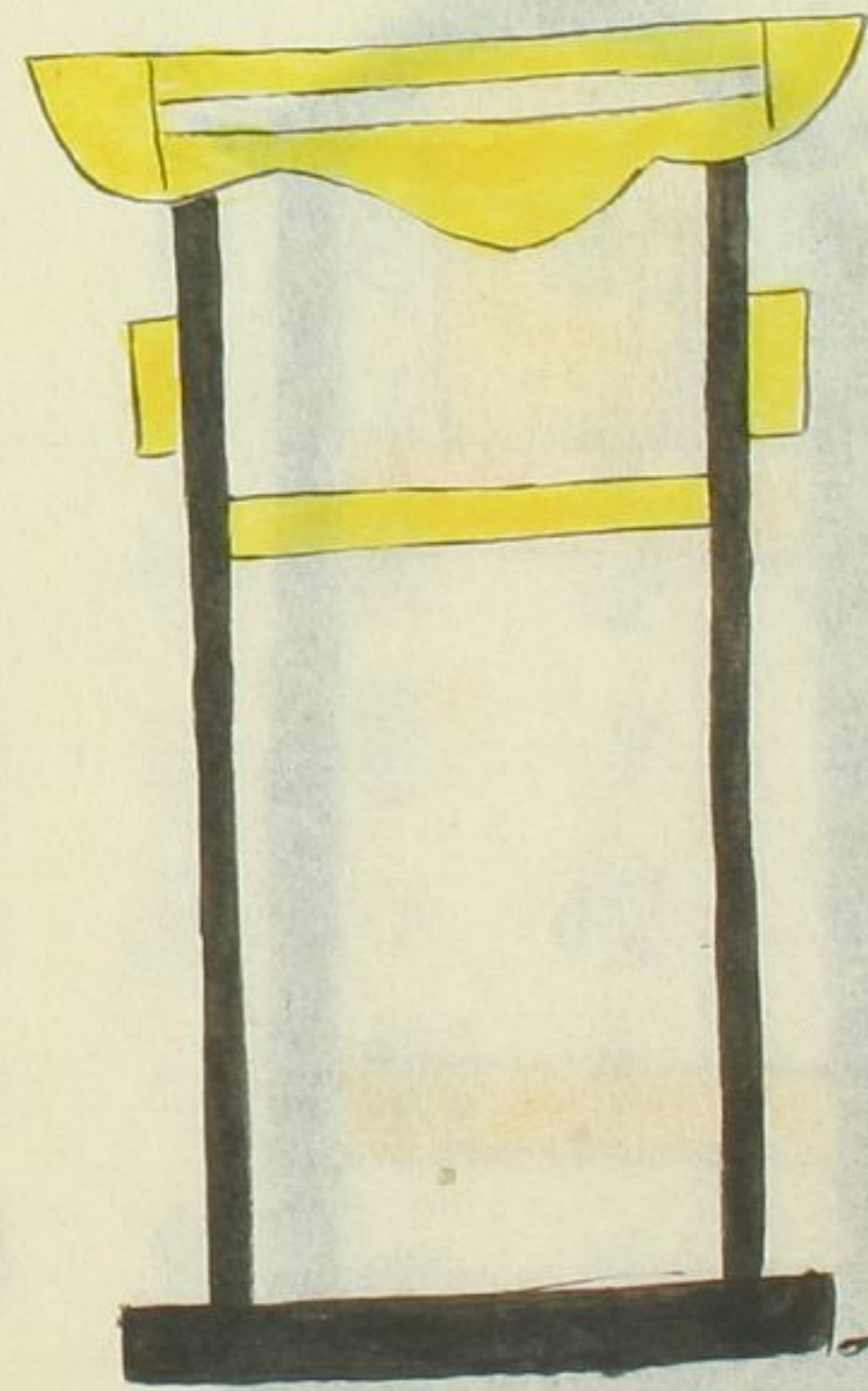
床几ト云物古ノ胡床ナリ阿父良トモ注セ  
リ古事記ニ高御産巢日神天照大神天若日  
子ヲ此國ニ下ニ給ヒシ大國主神ノ女下照  
比賣ヲ娶テ八年ニテニカヘリニウサガレ  
ハ雉ノ名鳴ヌトイフヲ下ニテ其趣ヲ問シ  
メラレシヲ天若日子射殺シツ其矢天ノ安  
河原ニマセシ天照太御神高木神ノミモト  
ニ及ヒシヲ高木神其矢ヲトリテツキ返シ

給フニ天若日子胡床ニ寢タリニ高胸板ニ  
 アタリテ死トイフアレハ此物神代ヨリア  
 リニニヤ又用明天皇崩ニ給ヒニトキ帝ハ  
 御弟穴穗部皇子ノ三輪<sup>君</sup>送ヲ殺サニトテ  
 物部守屋大連ト兵ヲ起テ其家ヲ圍ニル送  
 ノ君ノガレテ後宮ニカクレシカハ皇子ハ  
 大連ヲシテソレヲ討シメミツカラ胡床ニ  
 シリウチアケテ下チ給ヒト云フアリ是共  
 物ト摠トスズキニヤ

床几之圖



床几之圖

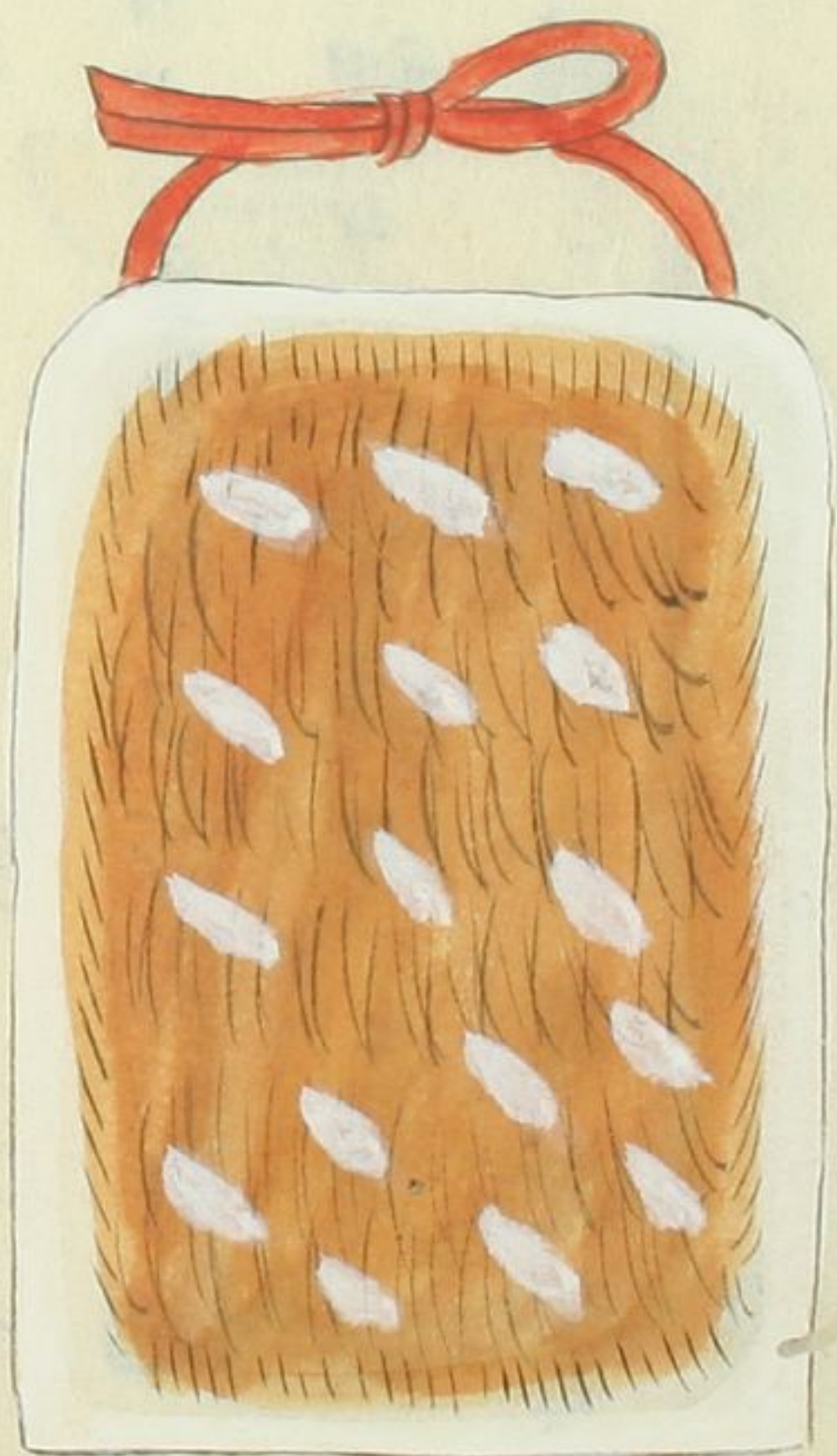


敷皮之辨

敷皮ハ鹿ノ夏毛ヲ用ユ皮ノ長サ三尺二寸  
廣サ二尺五寸白毛ヲスコシ残ミテ切ナリ  
上ノ櫛形又ハ櫛上ナトイフ下ノ白毛ト云  
ナリ何レニテモ裡ヲウツ戰場ニテ胡床ニ  
ヨノツ子弓射ル時ニシクモ各其故實アル  
トイエリ



敷皮之圖



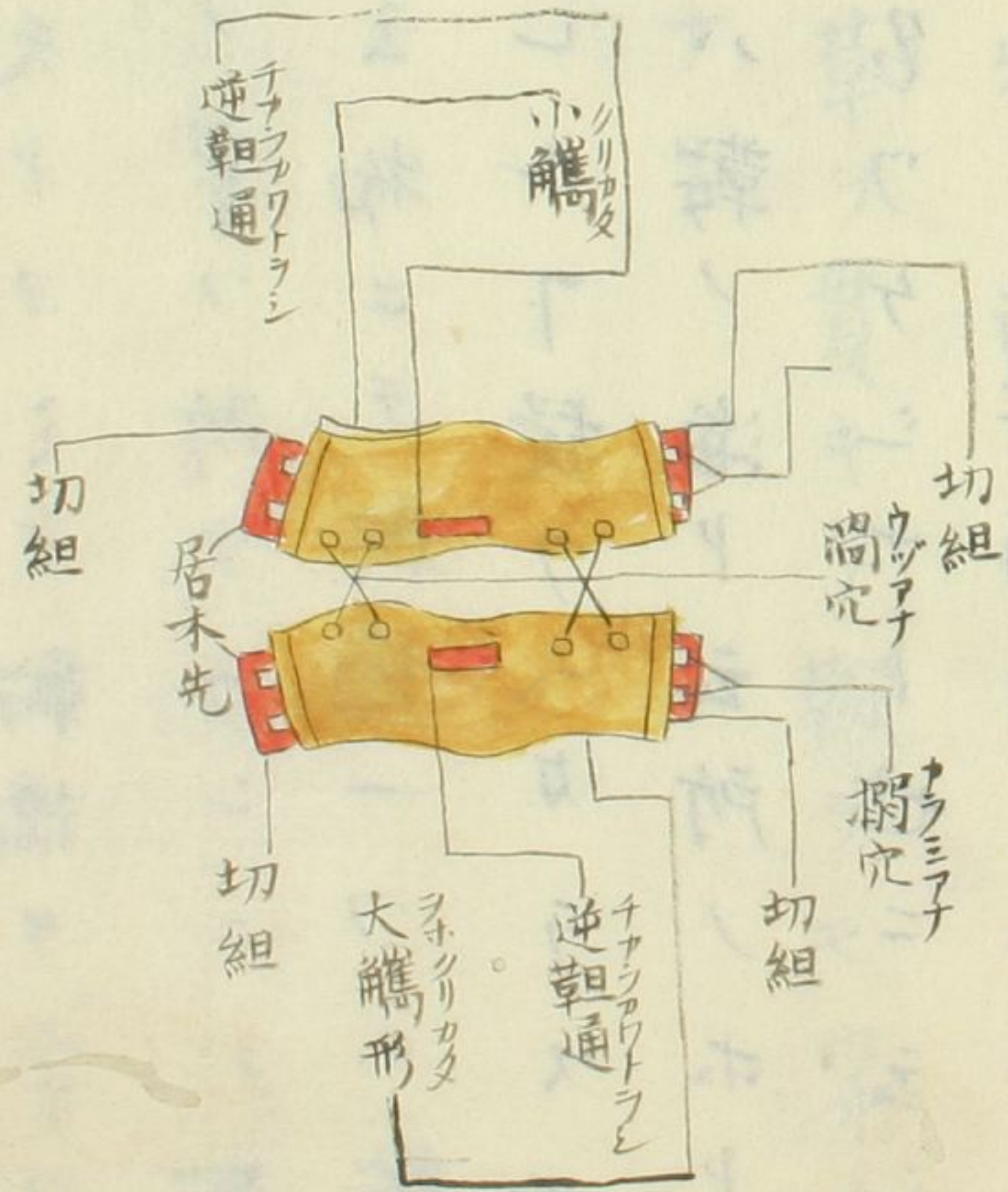
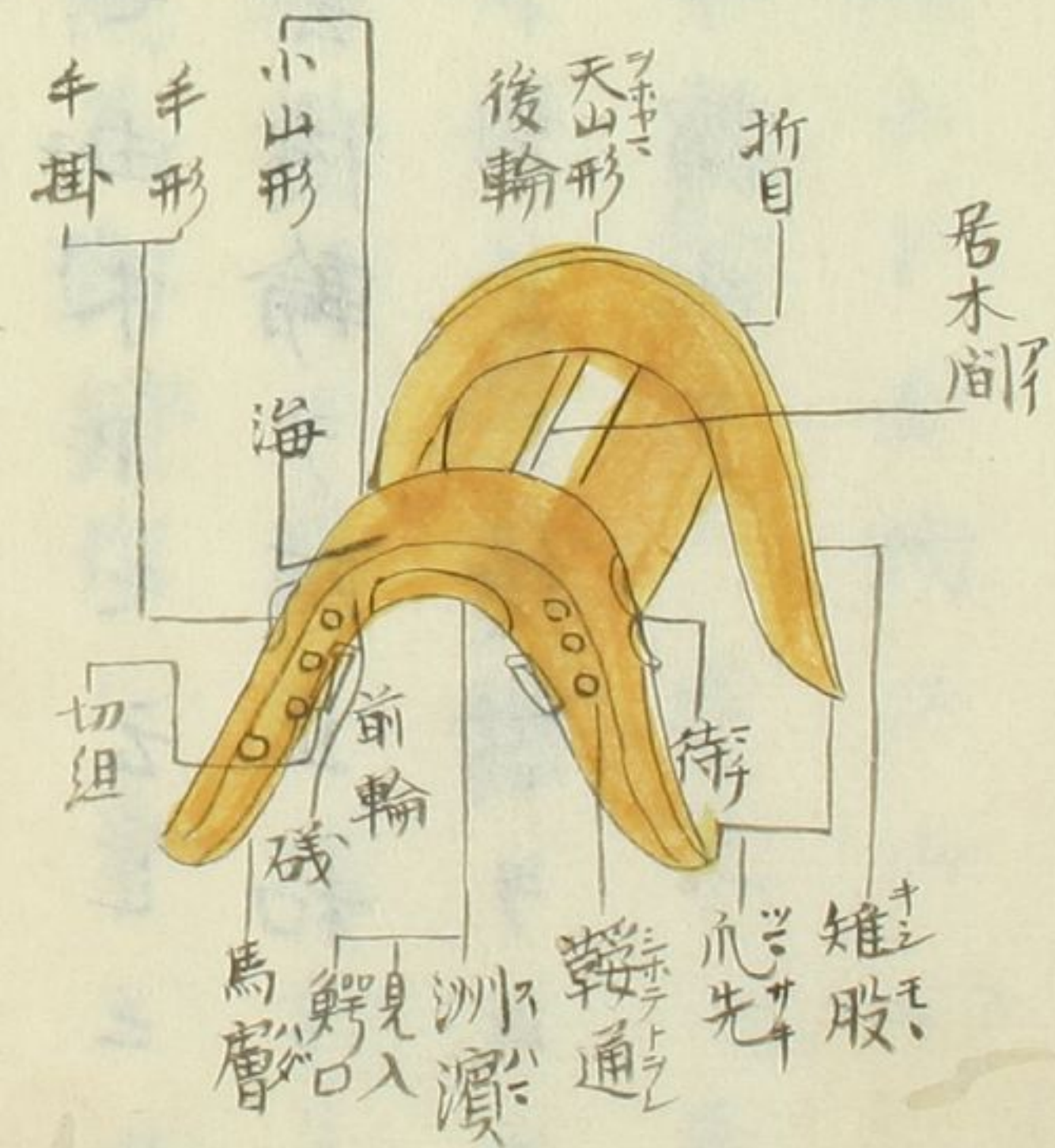
鞍之辨

鞍ハ古事記ニ日子尾神出雲國ヨリノホリ  
 傳國ニマサントテヨソヒタテル時片御手  
 ハ御馬ノ鞍ニカケサセ片御足ハ其御燈ニ  
 フミイラセ歌作ラレシコトミエヌレバ地  
 神ノ時鞍燈ト云物既ニアリケリ和名抄ニ  
 唐鞍移鞍結鞍等ノ名アリ傳鞍水干鞍ナリ  
 云モ見卫水精地銀地鏡地黄地亀甲地蒔繪  
 鉢鞍等アレハ今ハフトコトク詳ナラス古

時武士ノ用ヒニモ鏡鞍黒鞍ナト云物見  
エタリ其外黄伏輪白伏輪沃懸地梨子地貝  
鞍白犒張鞍又金貝鞍ナト云物フルキモハ  
トモニ記ニ又世ニ作ノ鞍ナト出来ニ事ハ  
足利殿ノ代ノ始メ大坪入道道禪ト云者ナヒ  
ナキ馬ノ上キニテ鞍鐙作ル事モ巧ナリケ  
リ伊勢伊勢守平貞繼其鞍鐙作ル事ヲ彼入  
道ニ受傳エタリ其貞繼ノ子孫其巧ヲ傳エ  
テ作レルヨシ見エ又鞍橋一ニ鞍尾ト云ヨ

ニ注シヌレト日本書記ニハ鞍前後橋トモ  
又ハ鞍尾後橋トモニエタレ鞍橋ハ今云前  
後ノ輪ニテ居木トモ由木トモ云ニソ今  
ハ前輪ヲ麻惠和ト云後輪ヲ阿止和ト云古  
ハ麻惠都加之都加ト云ニ後橋ヲハ久良  
保称乃之都久良称ト讀タリ

鞍之圖



鞞 鞞又鞞 鞞

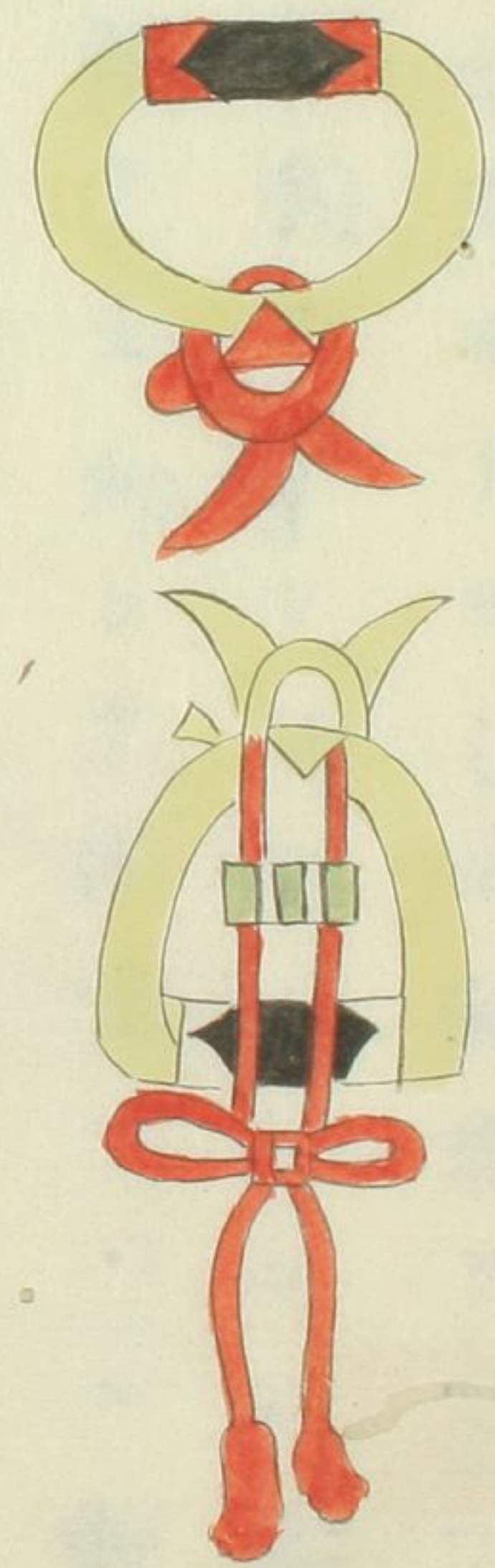
四方出之辨

鞞ト云字ヲ之保天トヨミテ鞞橋ヲ穿ツ皮  
ナリト注シ又鞞ノ穿ツ所ナラニハ鞞橋  
ト云ハ前後輪ト云物ニテ鞞橋一ツニ鞞尾  
ト云説ハアヤマレルト疑フヘカラス此物  
ヲ之保天ト云トハ鞞ノ海ト云所ノホトリ  
ヨリ出レハカリ名ツケシナト世ニ云シハ  
又アヤマレルニヤタ、鞞橋ノ四方ニ出シ  
帶ナル<sup>方</sup>ハカクイヒシニヤ昔ノ四方出形ハ

今ノ如ニハアラス譬ハ圓カニ少シキナル  
鏡ノ如クナル金物ヲ黄ニモ白クモ装リテ  
其裏ノ方鼻ヨリ草ヲ貫キテ鞞ヲモ穿チ其  
草ノ二條ヲ垂ルナリ



古制四方出之圖



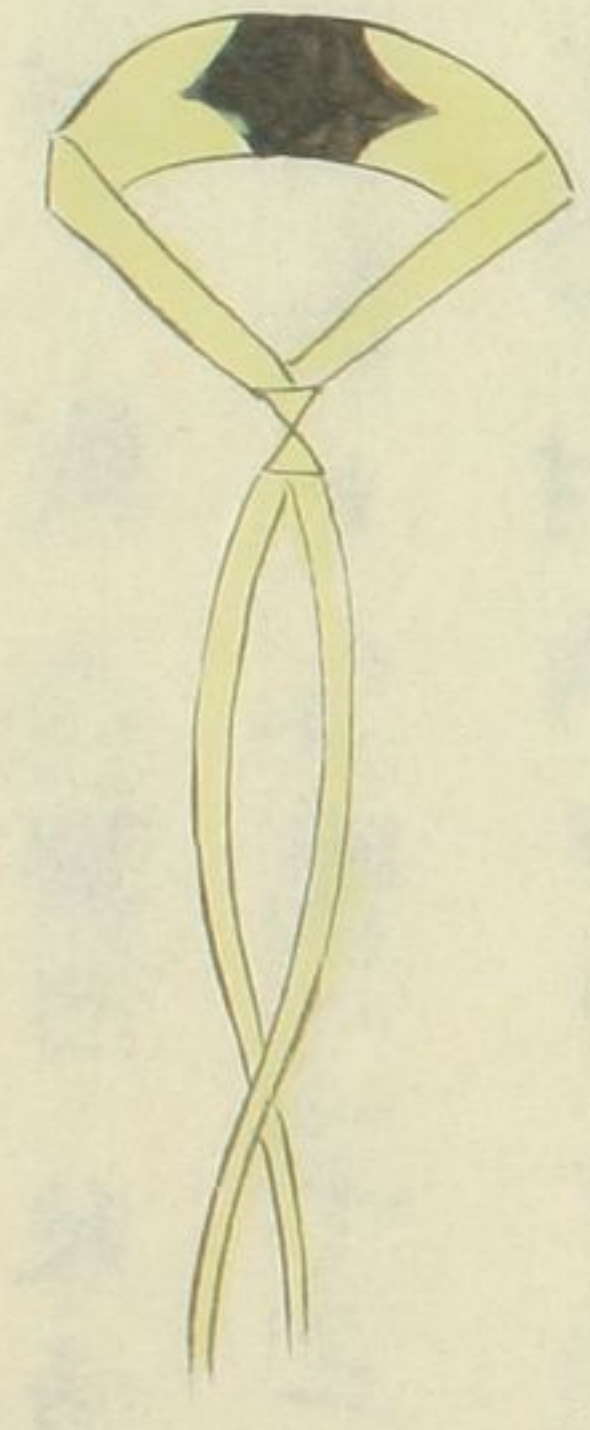
前輪

鞍

後輪



今制四方出之圖



手形之辨

手形ト云説ハ平治ノ戦ニ錦田政清與惣兵  
衛尉景安トクムテ首トル頃ハ十二月二十  
七日巳ノ時ハカリ一村雨フリテ凧烈ク吹  
ケレハ鎌田カ鞍ノ前輪ニツラ、イテ乗ワ  
ツラヒシヲ思源太義平見給ヒテ手形ヲツ  
ケヨトノ給ヒシカバ打物ヌイテツラツラ  
ト手形切テ乗タリシヨリ始レリト

韉之辨

韉音笑 韉音笑 韉音笑 韉音笑 韉音笑

韉ハ之太久良ナリ又韉ハ上切付ト云物ニ  
ヤ<sup>ハカ</sup>標脊<sup>ツク</sup>ハ下切付ト云物ナリトソ古ヘニハ  
定レル制アリ四位以上豹皮五位以下虎皮  
二位以上竹豹切付四位豹皮五位虎皮六位  
章

三峰切付之辨

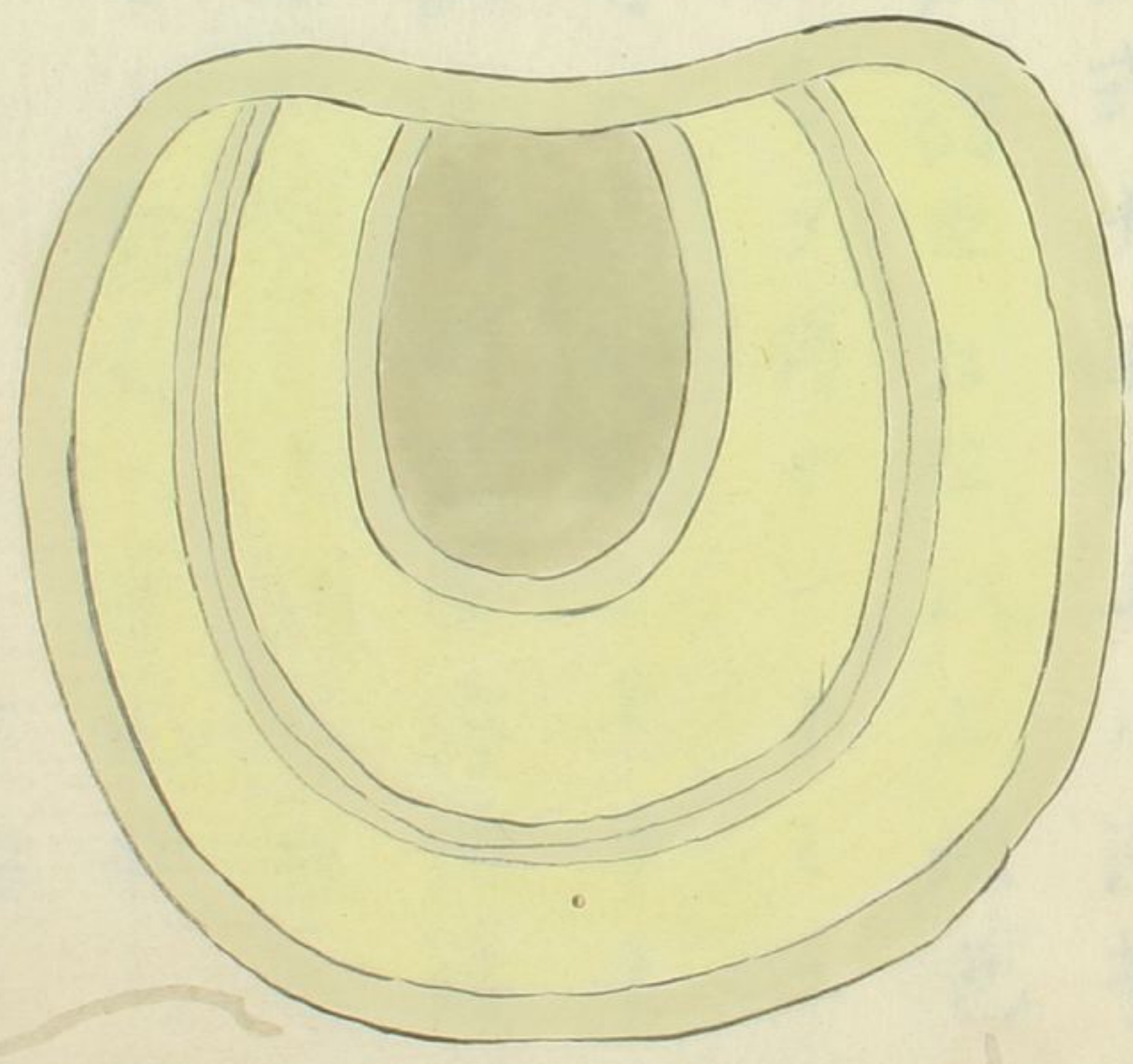
三峯切付ト云モノハ例ノ大滑各子細ノ分  
中園相因ノ御消息ニミユ鞍敷ノ下紅并錦  
トモ又平文移鞍ノ下ニ大滑畫雲竜ナトモ

見ユタリトゾ

鞞鞞之辨

鞞鞞ハ久良之岐俗ニ宇波之岐此物今ノ馬  
<sup>檀</sup>ナリト云人アレド馬<sup>檀</sup>ナド云物ハ遠カ  
<sup>ス</sup>ラガル物ニヤ式ニ将窠錦ヲ以テ鞞鞞トス  
ル車ハコレヲ禁ズ又三位以下紫鞞鞞等禁  
ズトモ見ユタリ飾抄ニ表敷飾又錦心上敷  
アリ縁ハ錦ヲ用ヒ金文堅食付カト注サ  
ル

表敷之圖



鞞 鞞之辨

鞞覆一幪一幪一被鞞 鞞又鞞鞞ニ作

鞞ハ又良於保比式大臣以上ハ浅紫ヲ用  
 比參儀以上ハ深緋諸臣五位以上綠色諸臣  
 黄色六位以下用ユルヲ得ザレトミユ又薄  
 物ノ繡アルヲモ用ヒラレニコトアリ天永  
 三年春日詣ニ中納言中将萌黄浮線綾ノ鞞  
 覆タルヨシミエ足利殿引馬豹ヲ用大名ハ  
 毛氈ヨノツ子ノ人ハ鹿皮ノ夏毛秋毛春毛  
 ヲ用フ又鎌倉殿ノ鞞覆ハ段子金襴ヲ用管





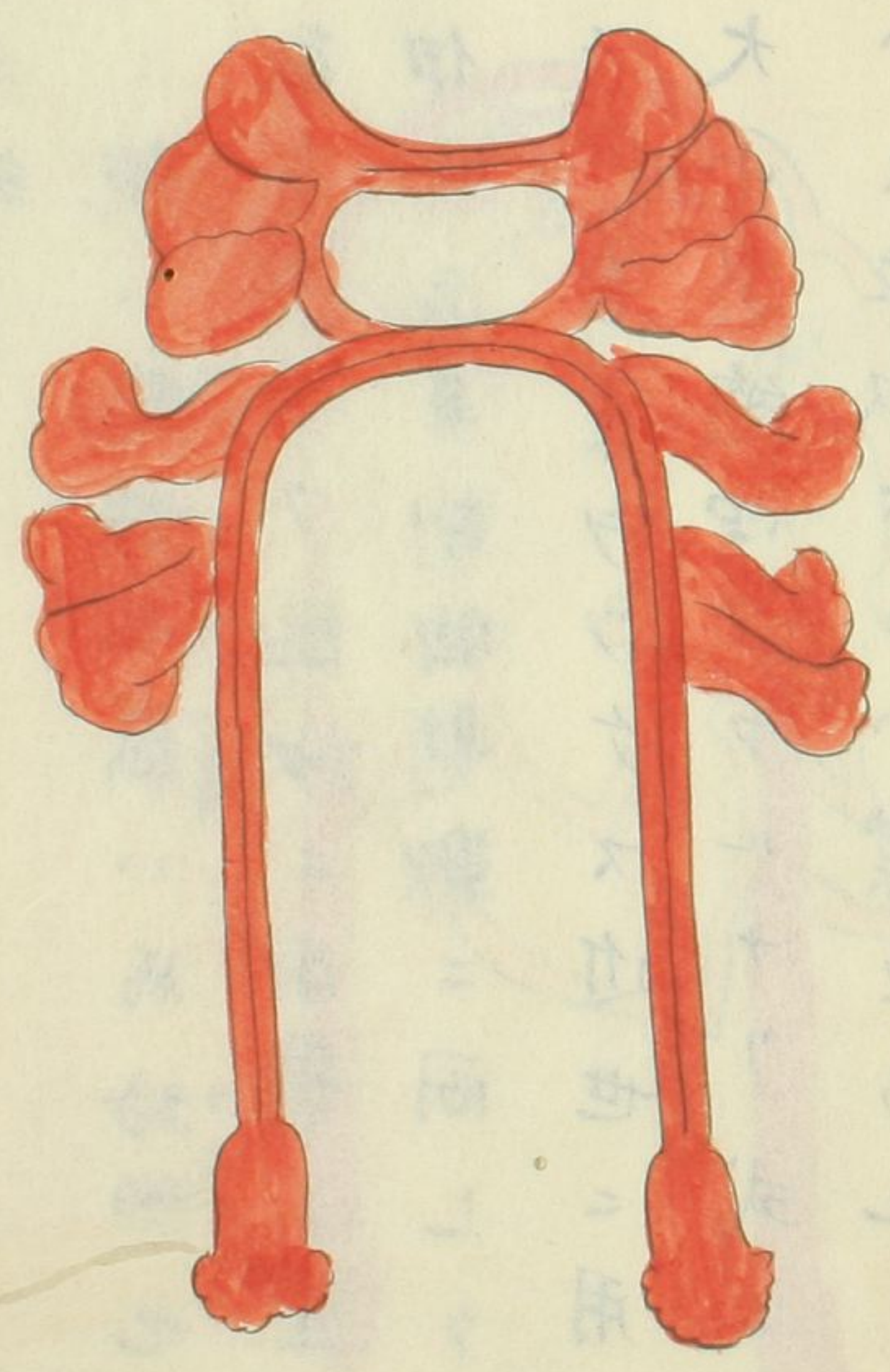
領刀  
 鎮兜羅綿毛氈ヨノツ子ノ人ハ播皮ヲ用  
 エト

鞞之辨  
 鞞 又鞞 鞞

之利加岐今ハ之利加岐ト名ツク古ノ鞞ハ  
 キヒサク總モナシ近世ニコソ甚大キクシ  
 テ總長シトミユトナリ

今世鞞鞞ノ三品ヲ馬ノ三カイニ共ニ具一懸伝ニ  
 和名鈔ニハラモツラ 4ナカキシリカキトアト世俗カイト唱通  
 音年

鞞之圖



鞆頭之辨

フモカイ 絛 フモカイ 絛

フモカイ 鞆頭ハ廣韻ニ鞆ハ鞆頭也 フモカイ 羈ハ馬絡頭也ト

注ニテ於毛都良トイフ飾抄ニ面懸ト注ニ

今ハ於毛加伊ト云其制昫懸鞆ニ同ニクミ

テタ、面懸ニハ杏葉ヲツケス近世ニ用ユ

ル制此物ニ大小ノ總四ツアルナリ式ニハ

紫ノ鞆頭ヲハ六位以下ニハ禁セララルト

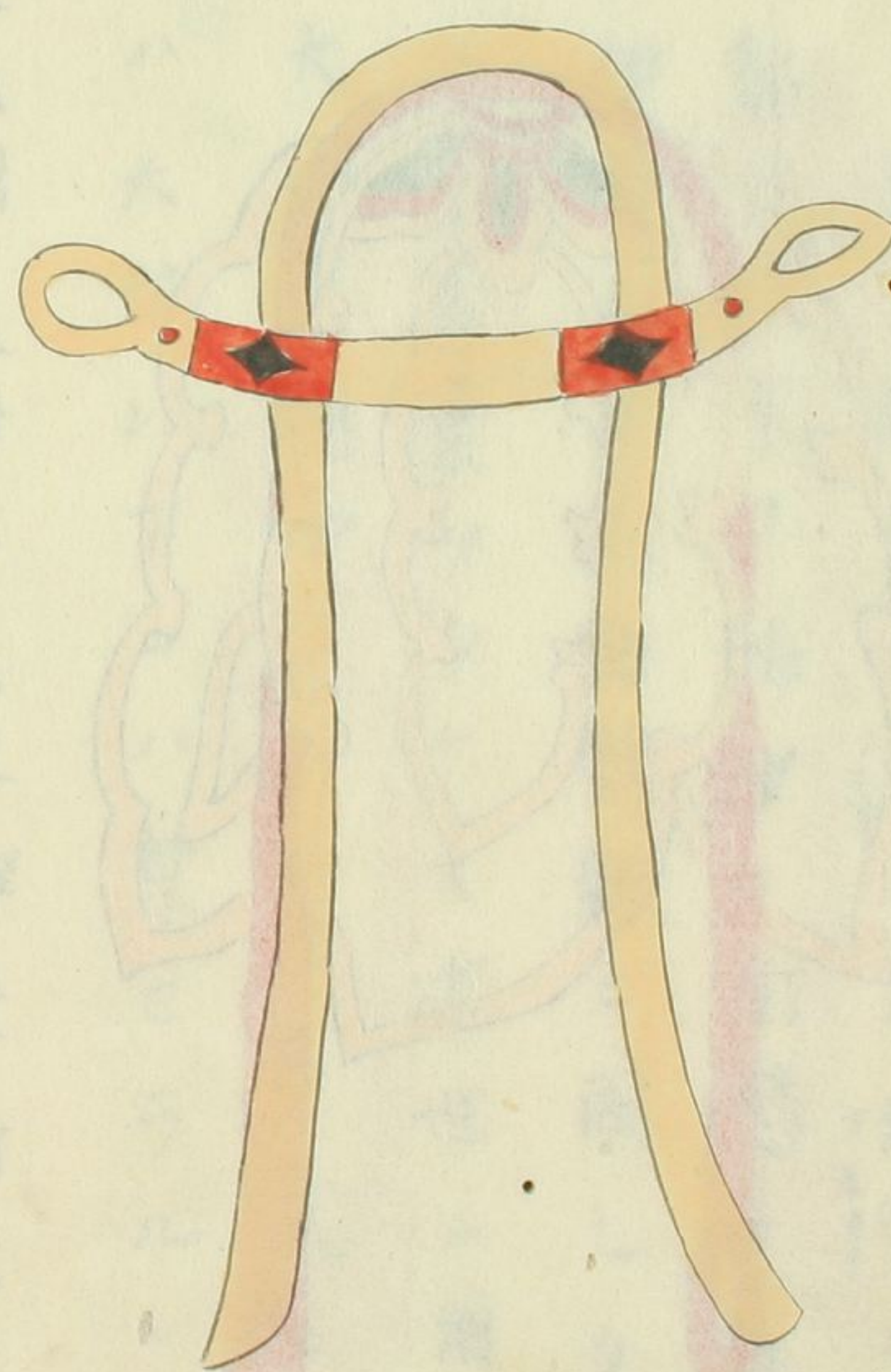
見ユ

左傳ニ敏系纓ノ以朝ス又存ノ太子光劔ヲ擣テ鞆ヲ断ト云ク  
說文預鞆ノ御有ラ鞆ト云無ラ羈ト云檀子ニ羈鞆ヲ執ト云ク  
羈ハ以馬ヲ絡鞆ハ以馬ヲ控セ

昫懸杏葉古制之圖



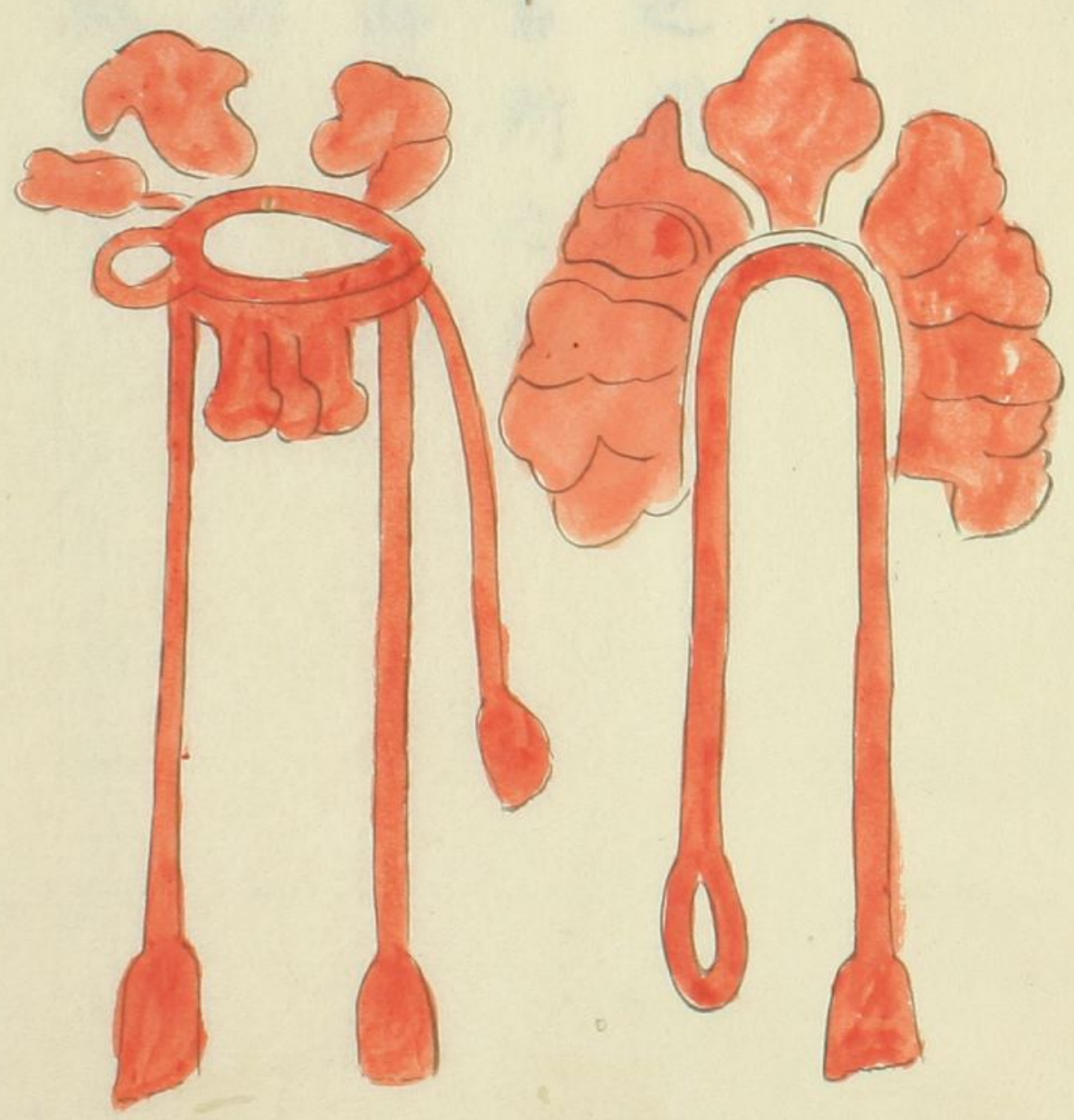
面懸之圖



今制胸懸之圖

卷之九

今制鞞之圖



本朝軍器考圖式卷之九

目錄

- 一 鑄之辨
- 一 鑿之辨
- 一 銜古制之圖
- 一 銜今制名所之圖
- 一 手鋼之辨
- 一 差繩之辨
- 一 腹帶之辨



- 一 鐙之辨
- 一 鐙古長之圖
- 一 鐙今制名所之圖
- 一 鞞韉之辨
- 一 障泥之辨
- 一 鐙磨之圖
- 一 障泥之圖
- 一 鞭之辨
- 一 鞭之圖六條

- 一 馬甲之辨
- 一 馬甲之圖
- 一 馬身甲之圖
- 一 盪胄之圖
- 一 搭後之圖
- 一 雲珠之圖
- 一 頸總之圖

木朝軍器考圖式卷之九目錄終

本朝軍器考圖式卷之九

鑄之辨

鞆 鞆 鐵

鑄ハ馬<sup>ハ</sup>銜<sup>カニ</sup>ナリ又<sup>ツ</sup>都<sup>ツ</sup>波<sup>ハ</sup>美<sup>ミ</sup>トヨム今<sup>ク</sup>久<sup>ク</sup>美<sup>ミ</sup>ト

云鑄ハ包ナリ旁ニアリテ其口ヲ包<sup>ム</sup>歛<sup>ム</sup>釋

名<sup>一</sup>鉄<sup>一</sup>扇<sup>中</sup>一<sup>一</sup>排<sup>沫</sup>トナヅク<sup>ト</sup>排<sup>末</sup>ニ<sup>一</sup>ユ<sup>一</sup>ル<sup>一</sup>雅

ニ鑄ハ久<sup>ノ</sup>都<sup>ノ</sup>和<sup>ノ</sup>加<sup>ノ</sup>美<sup>ノ</sup>銜<sup>ハ</sup>久<sup>ノ</sup>津<sup>ノ</sup>波<sup>ノ</sup>乃<sup>ハ</sup>波<sup>ノ</sup>美<sup>ノ</sup>

ニテスベテ是ヲ<sup>鞆</sup>ト云又兼鞆ヲ<sup>美</sup>豆<sup>ツ</sup>岐<sup>キ</sup>

俗ニ<sup>三</sup>都<sup>ツ</sup>都<sup>ツ</sup>岐<sup>キ</sup>一<sup>一</sup>云<sup>一</sup>七<sup>一</sup>寸<sup>一</sup>ト云<sup>一</sup>ト注<sup>セ</sup>リ是<sup>ハ</sup>

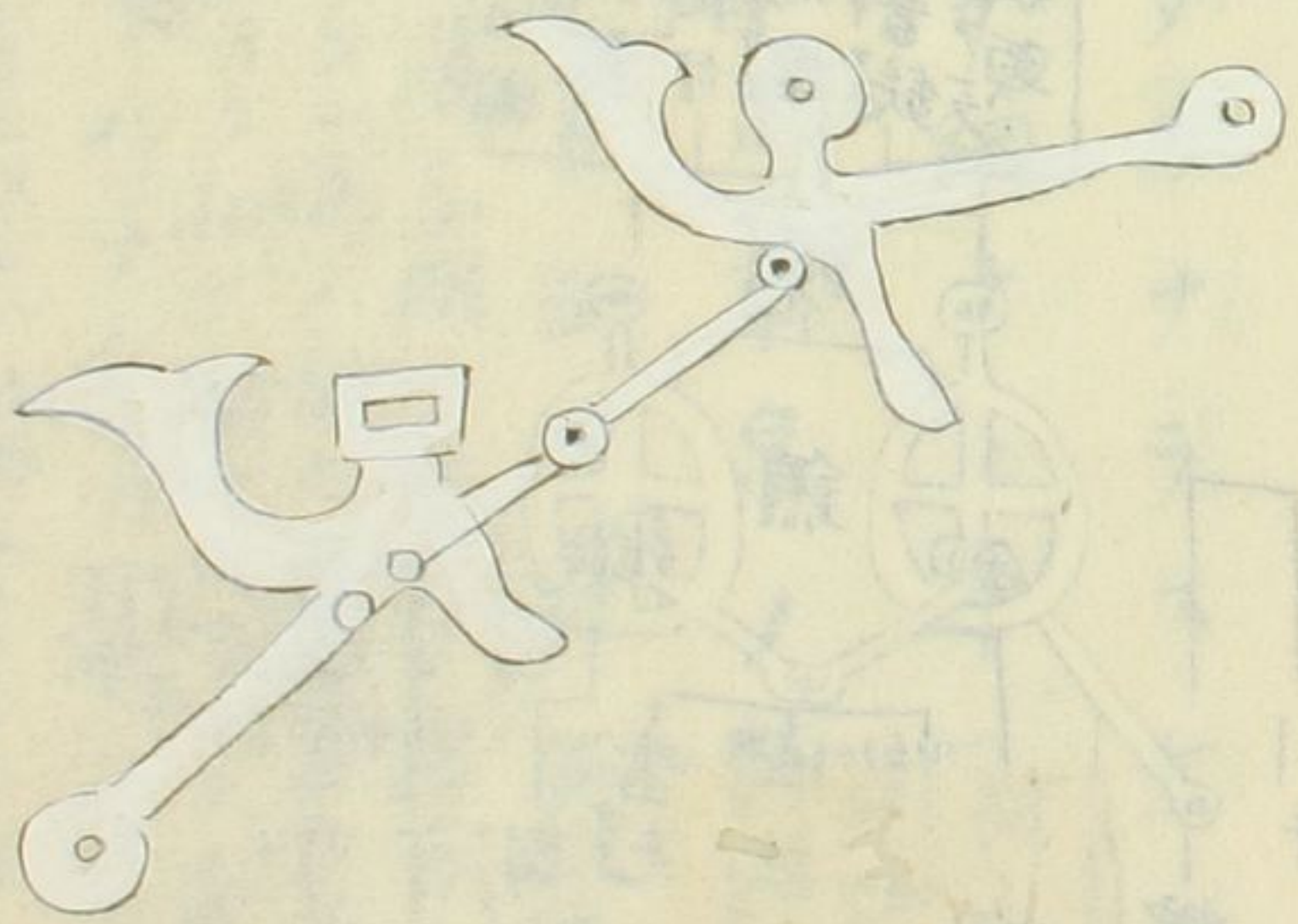
Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 一, 二, 三, 四, 五, 六, 七, 八, 九, 十, 十一, 十二, 十三, 十四, 十五, 十六, 十七, 十八, 十九, 二十, 二十一, 二十二, 二十三, 二十四, 二十五, 二十六, 二十七, 二十八, 二十九, 三十, 三十一, 三十二, 三十三, 三十四, 三十五, 三十六, 三十七, 三十八, 三十九, 四十, 四十一, 四十二, 四十三, 四十四, 四十五, 四十六, 四十七, 四十八, 四十九, 五十.

今ノ世ニ引手蛇口ナト云フ所ナリ世ニ手  
綱ノ両末ヲ三都都伎ト云ハイカ、アルベ  
キ或説ニ兼鞆トハ今ノ世ニ手助又ハ立聞  
ナド云物ナリ其組ノ長サ七寸許アレハ又  
七寸トモ云ヒシナド云サレト古画ニ見ユ  
シハ皆、才モツラヲ世ニ面懸付ト云輪ニ  
絡ヒテ其末ヲ垂タルナリ手スケ立聞ナド  
用ヒシ事ハ不見又世ニ面懸付ト云ヒ又ハ  
總ノ輪立聞ノ輪ナト云フ所ヲミルニ三都

都岐ノ蛇口ナト云所ヨリハ甚大キナルナ  
リ昔ハヲモツラヲ引結ヒシ事疑ベカラズ  
響之辨

響ハ鞆鞆揚氏漢語抄鋏兼名苑久豆都良鞆  
ハ於毛都良ナリ和名鈔ニ手綱ト云物ニ  
スシテ鑢ノ字ノ外、此響ノ字ヲワカチイタ  
シタルハ順ノ頃ニ父都和都良トイヒシハ  
今ノ手綱ナルベシ

街古制之圖

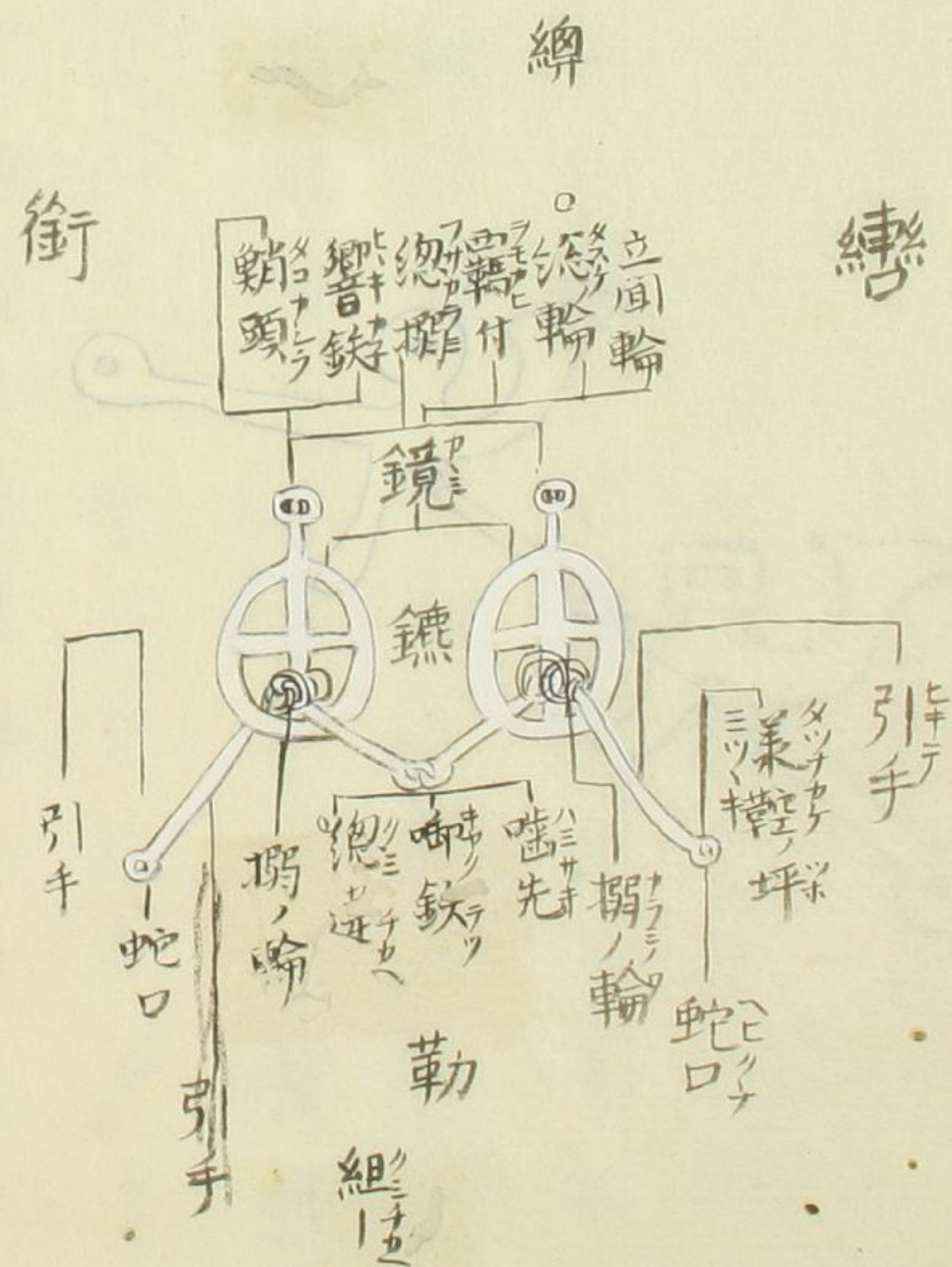


Vertical columns of Japanese text on the right page, likely describing the device or related concepts.

Vertical columns of Japanese text on the left page, likely describing the device or related concepts.



銜今制名所之圖



古制之圖

手綱之辨

韉

韉

韉

韉

韉

韉

韉

韉

韉

韉

韉

手綱ハ古ハ其制蘇芳綵紫綵棟綵ナト用ラ  
 ル武士ノ用ヒニ所サタカナラス大ヤウハ  
 布ヲ用ヒタラニハ筋手綱ナトイフ物ハ今  
 用ラル物ノゴトク深タル布帛ノ類ニヤ  
 出陣時カツ色ノ手綱ナト云ハ黒色ナリ  
 多ク讀ハツト訓ス最和訓タリト虽多明ナラズ今絹布ノ物ヲ手綱トシ  
 絲繩ヲ以張綱トスルハ和俗其品ヲ分ニ為ノ辭之取詮上ニ在テ御ト又下ヨ  
 リ御ス氏ニ馬ヲ駕スル綱ニ又曰上ヨリ扣ヲ綱ト云下ヨリ牽ヲ繩ト呼ト  
 是亦決シカタシ俎談ニ志綱トアリハツナタツナ一物ニ名ナルト云  
 凡手綱ハ長八尺又九尺二三寸倍言ルメシ一助ニスト云

追綱前ニ云走綱ヨリトス今テ大方三尋余ノ練線モ手綱ニ等ク馬ヲ御ス或  
之ヲ馬差繩ト云之辨小口繩コレ亦右ノラヒツヨルル也ノ小索ニ之ヲ小中

差繩ハ羈勒羈ハ以テ馬ヲ絡ヲ勒ハ以テ馬  
ヲ接クト礼記ニミエニサレハ勒ノ字ヲヤ  
用ユベキカトアリ又白差繩ハ御襖ノ時用  
ラル、事ニヤ又公卿ハ差繩四位以下片繩  
ト云事アリイカナルヲヤ片繩トハイヒケ  
ニ其深色モ萌木白打又檀綵藤芳綵紫村濃  
藤青打等アリ又差繩ト云ハ近キ頃ヨリノ  
名ナルベシ又ハ小口繩ヲ小ナリ中間手繩ナト

云モ近キ十ナリトゾシカラハスナハ千圖  
ナシト云トモ大抵前ノ文ニ因ニヨツテ古  
代ノ制モハカリシラシカカルカユヘニシ  
バラク圖ヲカク

腹帶之辨

勒通繩纏ニ便スル索ニ頭下ヨリ纏ニ通メ  
當脚下ヲ通リ腹帶ニ結付ルモノ馬頭ヲ  
シテ上サセテ中要具シ

腹帶ハ俗ニ波流比廣白ニ纏ハ馬ノ腹帶ナ  
リト註シテ波良於比トヨメリ又由木搦ナ  
ト云ニヤ大抵古代ノ制モ今テノ制トタカフ

事ハナハタアルベカラス今テノ制ヲ以テハ  
纏又纏○般周礼注馬大帶ト云又ウハラヒ樊亦同或鞞ニ作皮

○腹懸ハ繩ナリ平伏ヲ制スルタメニ馬坊ノ上方ヘツナキケルモノ

カリ見ツベシコノエ一ニ圖スルニ及ハズ

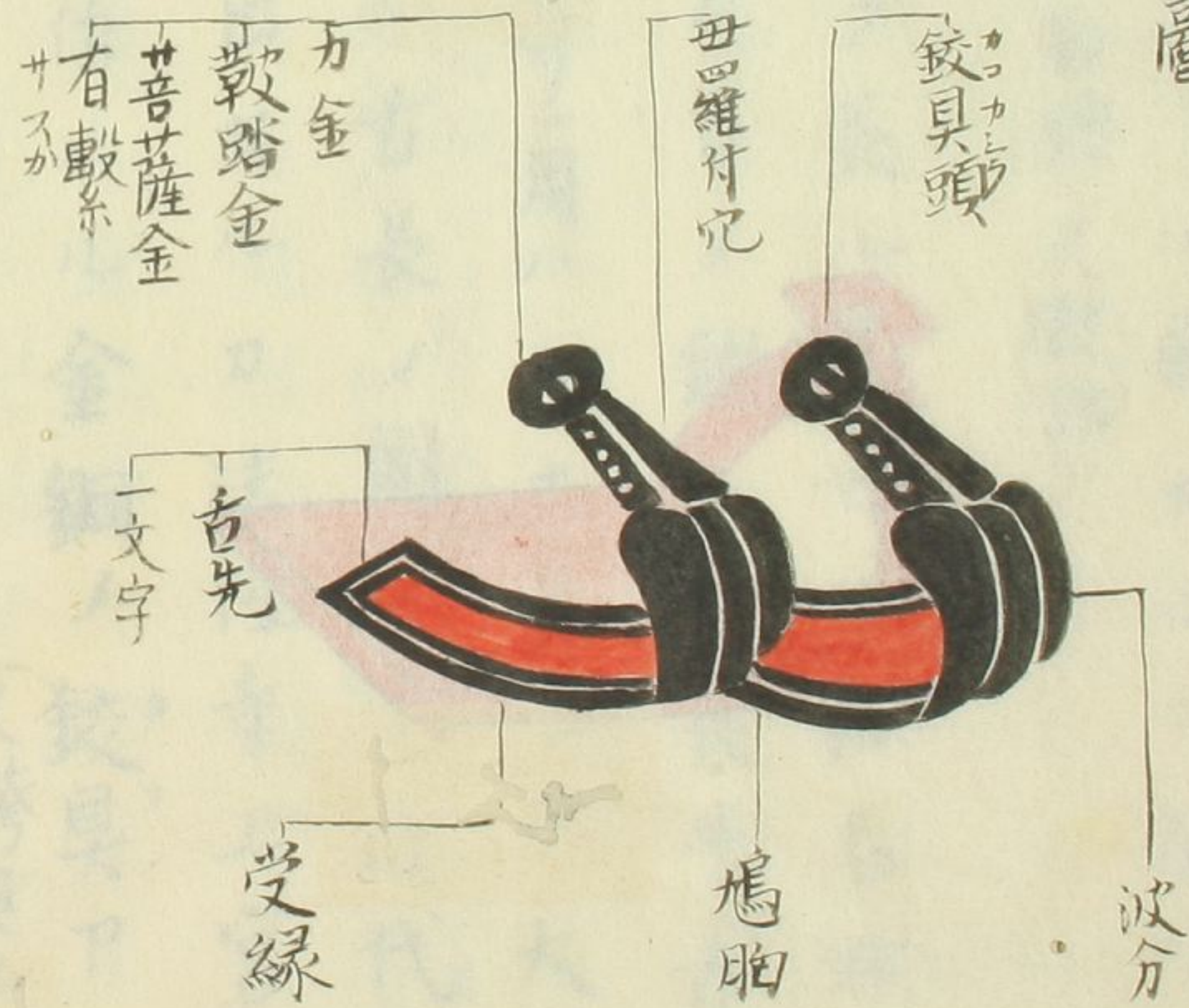
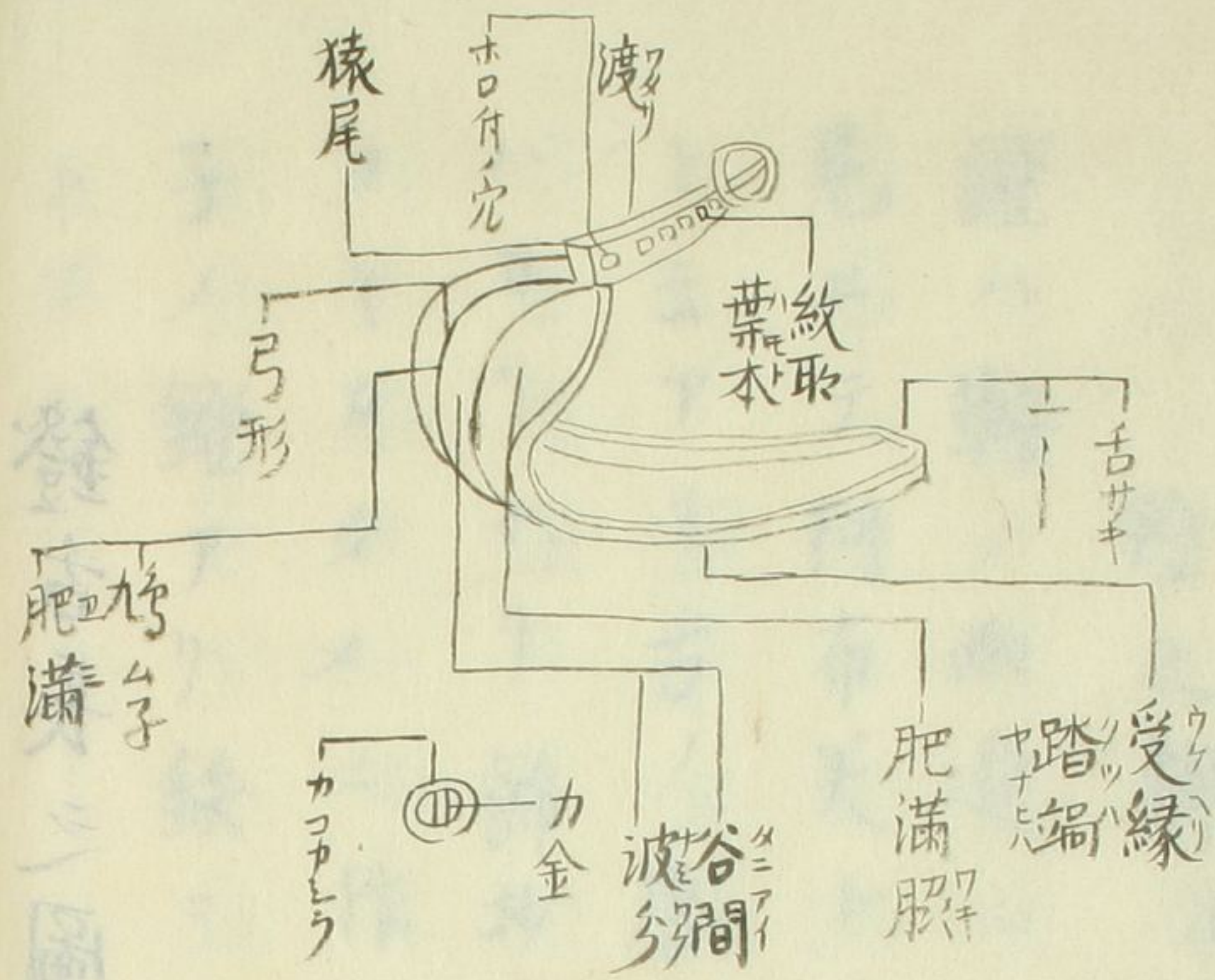
燈之辨 廣韻曰鞍燈ニ又鞞踏ニ

燈ハ鞍ノ兩邊ニ脚ヲ兼ル具也ト和名抄ニ見ユテ阿布美トヨム古ノ燈ニ舌長半舌ナト云アリ古ノ唐鞍等ニ用ハ古ナクニテ大輪ハカリナリ飾抄ニハ舌長ノ圖アリ近代踏ヨキカタメニ作り出セルカ法隆寺上宮太子ノ燈アリ鉄ニテ作レル金銅ノ鉸具アリトゾ

燈舌長之圖



鐙今制名所之圖



受縁可考

鞞鞞之辨

又名逆鞞 是ラ一登ト云又一掛共

逆鞞。鐙鞞。鐙鞞。トモカキテ知賀良加波トヨ  
ムナリ又足利殿ノ播磨草ノ白キ力革金具  
ヲハ黒皮ニテクケラル管領諸大名ハ金具  
ニ紫皮ニテクケラルナト云フ鎌倉年中行  
事ニ見ユモナリ

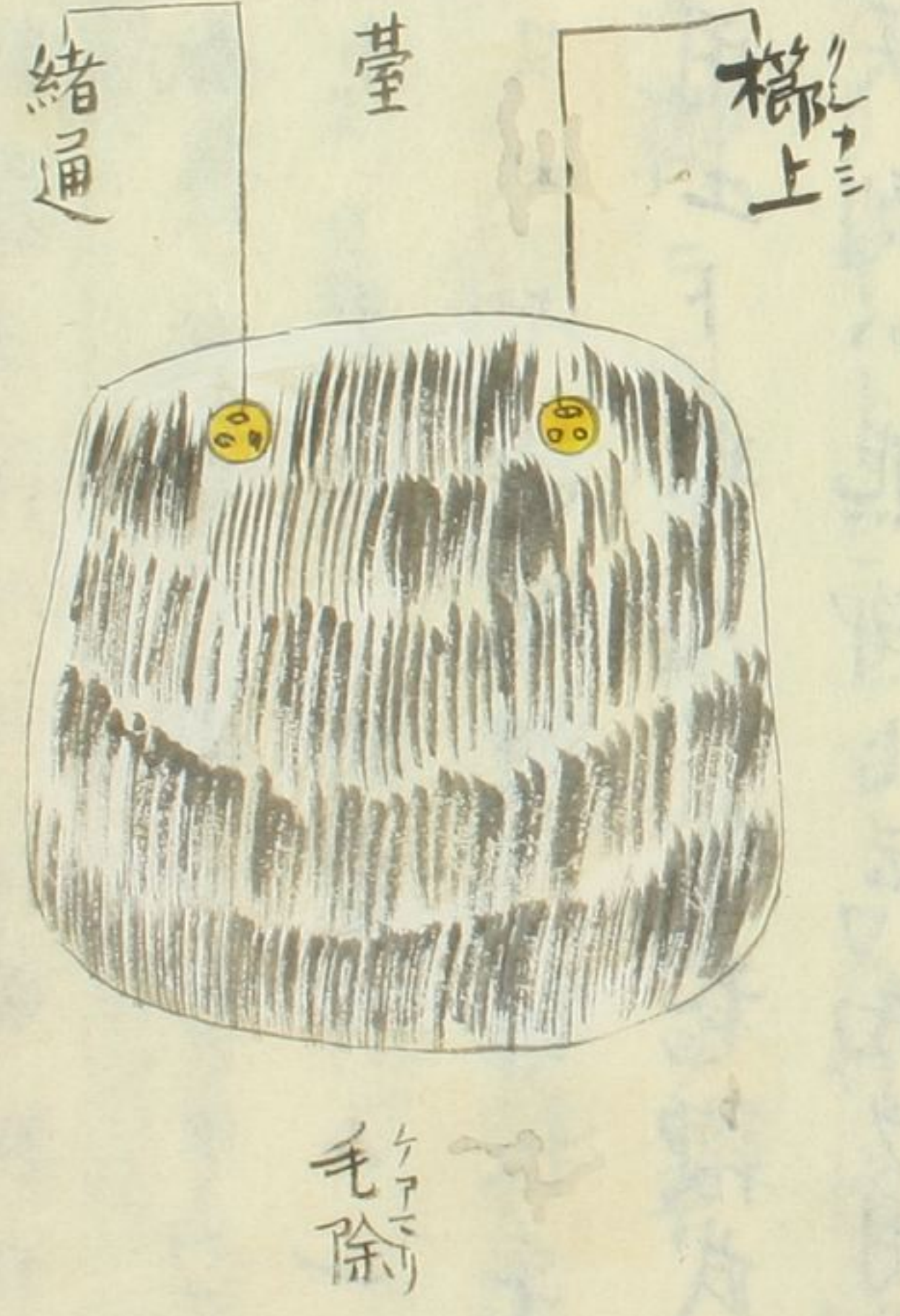
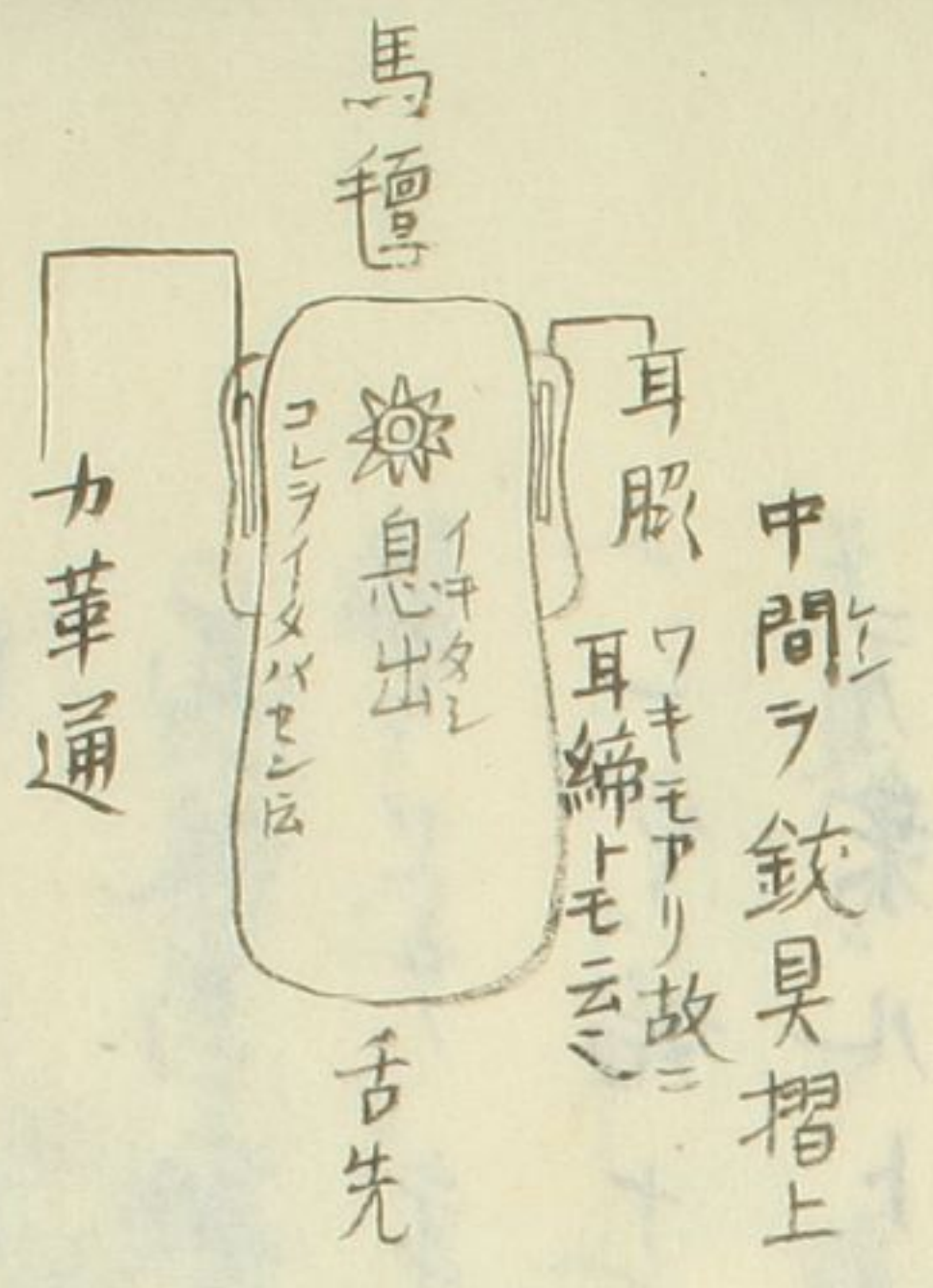
鐙鞞或書ニハ云云 鐙頭足ライトフメキ所丹形ノ負ナル云ト云  
漢語抄ニ曰ハミソラ一曰鐙鞞古老云鐙ヲサス取ト云ハ  
故ニ鐙鉤ニ作

障泥之辨

障泥ハ阿<sup>ア</sup>布<sup>ブ</sup>利<sup>リ</sup>ナリト和名抄ニ見エタリ式  
ニ凡熊皮障泥ハ五位以上コシヲ着ルヲ  
ユルスナリト記エ又金伏輪ノ障泥或ハ黄  
糸組ヲ以テコレヲ押フ御幸及春日詣等ノ  
時ニ華族ノ人コシヲカケラル行幸ノ日地  
下前駈ハ障泥ヲサ、ズ撰政衆用ノ馬ニモ  
サ、レズトモアリ武士ノ騎馬出立トイフ  
ニモ障泥サス、カラス但アフミズリハク

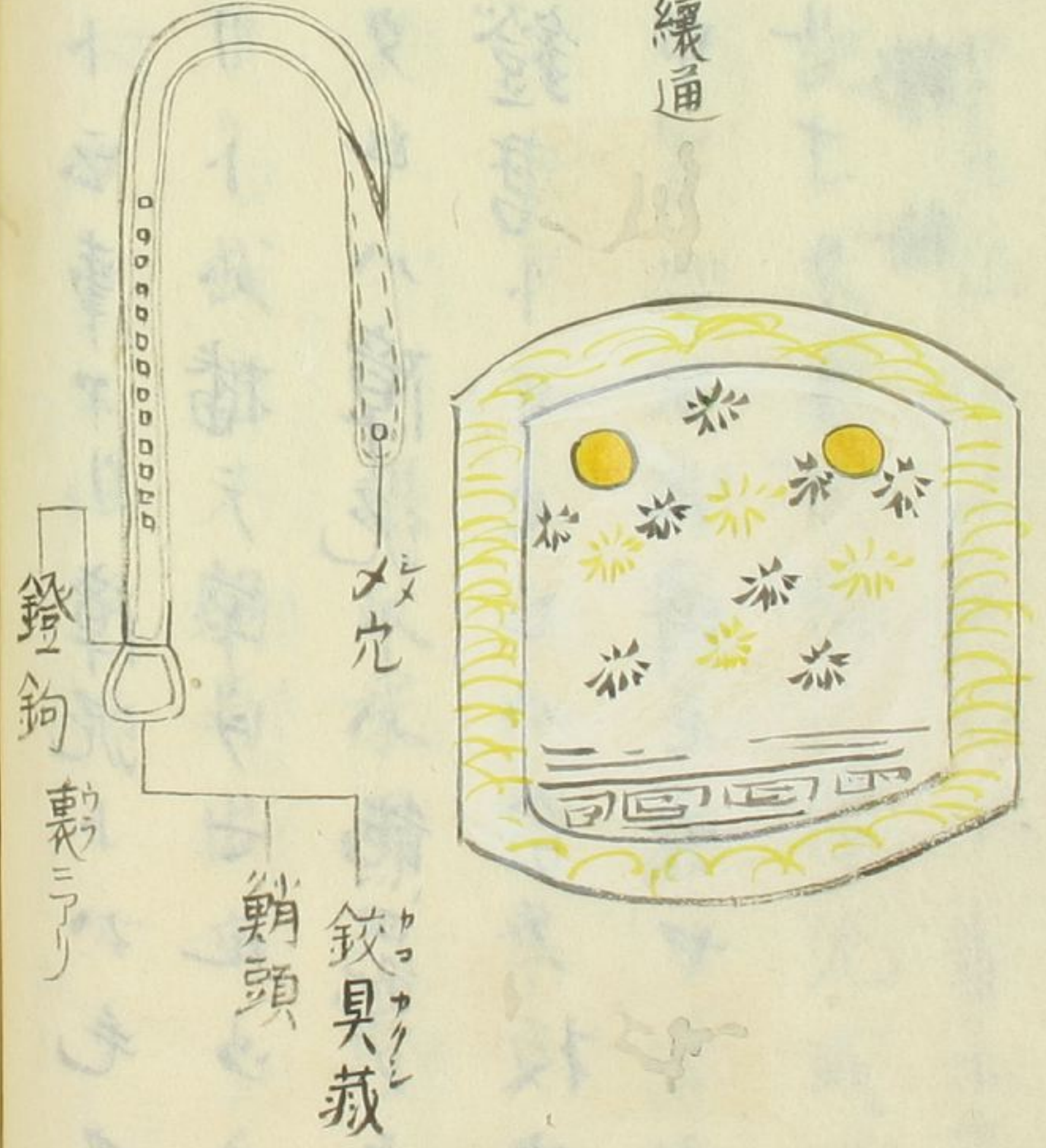
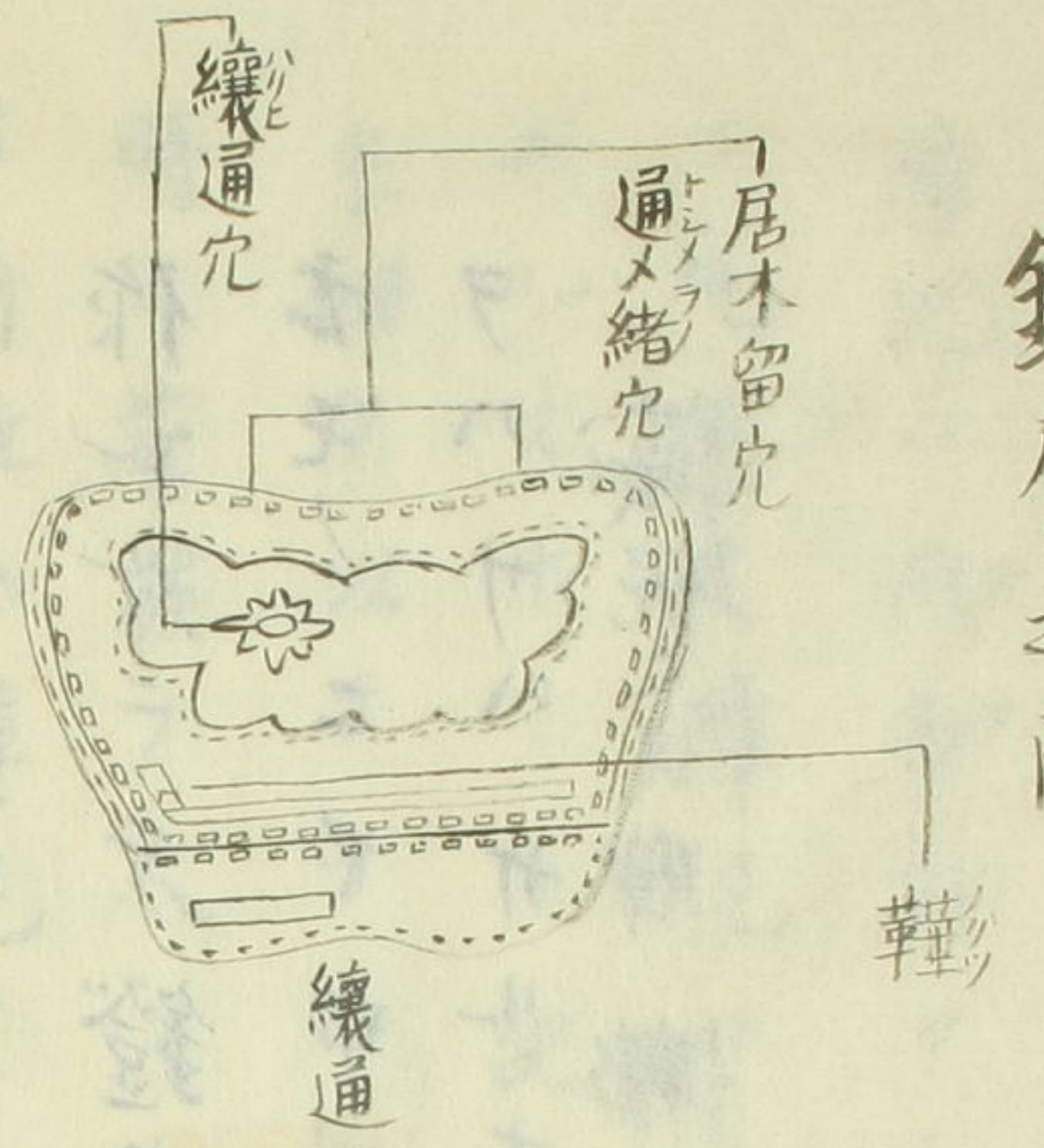
ルシカラスト云事アリ障泥トハ毛皮ヲイ  
ヒアフミスリトハ播テ草ヲニルツクリト  
云ヨミ注シタレハ障泥トハ熊羆ノ皮ニテ  
作レルニテ鎧磨トイヒミハ今ノ板障泥ト  
云モノニヤ甲冑ヲスル時モ大ヤクハ障泥  
ヲハサ、サルナリトゾ

蔽<sup>ア</sup>泥<sup>ラ</sup>ニ又鞞<sup>シ</sup>鞞<sup>シ</sup>鞞<sup>シ</sup>



障泥之圖

燈磨之圖



鞭之辨 又策 筴 筴

鞭ノ濫觴ヤ新羅王降スルノ時神功皇后ハ  
馬執馬鞭ヲ獻リ又海ノ遠ヲイタツカワミ  
トセテ年コトニ男女ノ調貢ヲムニト申セ  
シヤ始ナリ又一キ蒔繪鞭ハ和鞭平文鞭ニ  
テ乗ルトキ用エト舞人ハ藤卷鞭武士ナラ  
コレヲ用ユ其制ハ熊柳ト云フ物ヲ用ヒテ長  
サハ二尺七寸五分ナルヲ本トス曲尺竹尺  
ノ定メニモアラス吾キノ寸ヲ用フ各其

故實アリ古ハ鞭ノ緒取柄ノ革ト同革ヲ用  
ヒタリキ足利殿ノ頃紫竹鞭ト云アリテ夕  
夕人ハ用ヒサリキトミ丑キ又竹作鞭ト云  
キ其タケ藤卷鞭ニ同ニ節ノ数ヲ平ニキル  
一ニトイヘリ又鞭ニ故實アル事大抵左ニ  
圖ヲ以テシルス是ニテ見ツヘシ

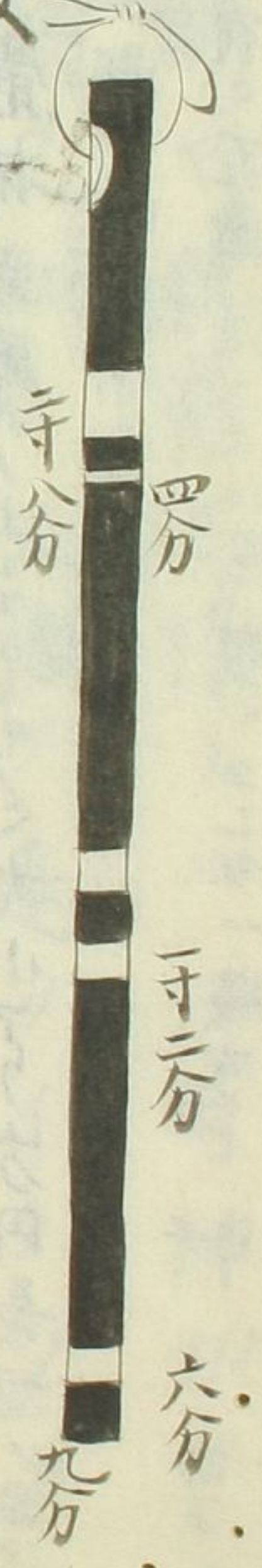
○太覆マフ又體掩カサ馬臀ノ上ニカクルモノ大小アリ方円長短ノ品アリ  
細懸ホソカサ畦縫ウヂヌイホシ

○馬褌ウマフクロ馬衣ウマヒ左傳注一ハ馬被ニコレヲ一服云

○尾鞆ウシロフクロ俗尾袋故今テ尾紛ウシロマシ云

○鞆ウシロ分カ

軍陳之鞭 長二尺七寸八分



社參之鞭

長二尺二寸六分



大追物之鞭

長三尺二寸九分



庭乘之鞭

長一尺八寸六分



馬御之鞭

長五尺二寸二分



空穗之鞭

長二尺六寸一分





馬甲之辨

附馬身甲

盪冒

搭後

馬甲ハ盛衰記生田懸ノ戦ニ源氏方ノ馬ニ  
 習着セタリシヨシニユ其後金鏢ノ馬鎧ナ  
 ト云モノアリ異朝ニモ盪冒馬身甲搭後ノ  
 ト云ヒヲウツセルニヤ其制下ニツヒラ  
 カナリ又馬飾ニ雲珠頭總ト云アリ此ニ物  
 ハ馬甲ノ類ニハアラサレト其圖飾鈔ニ見  
 出ヌルハ下ニ画ス

○鏤錫介

ハ首蓋今云馬面之飾大雅鈎膺鏤錫又看背ノ飾  
金ヲ以之ヲ為

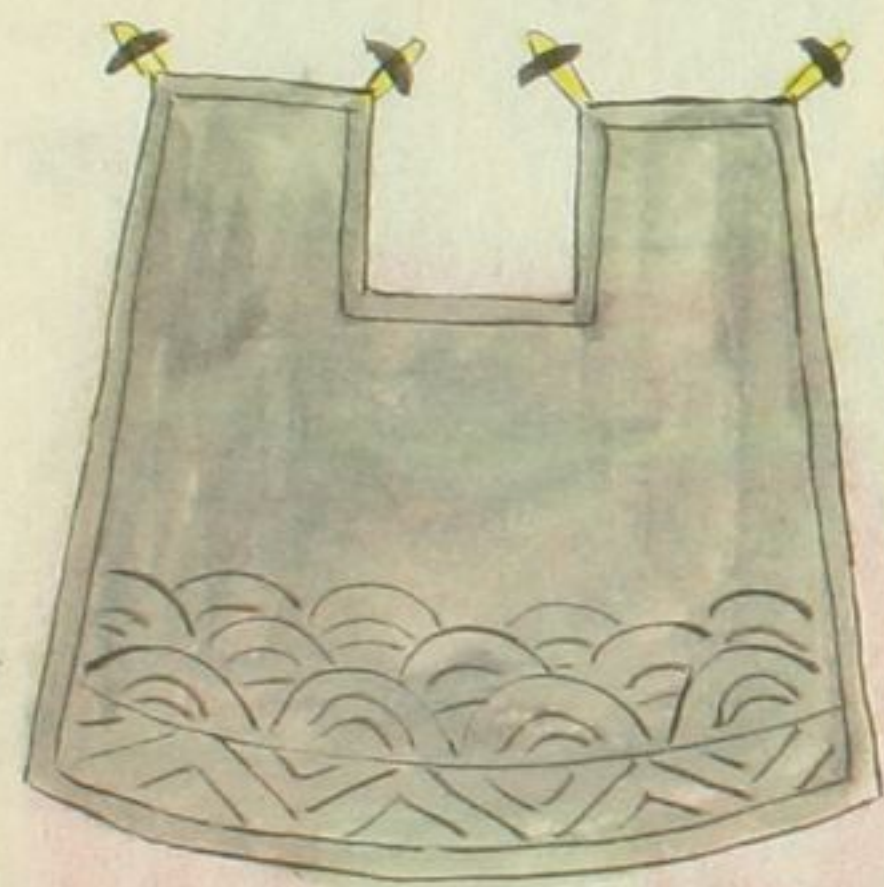
馬甲之圖



馬身甲之圖



湯冑之圖

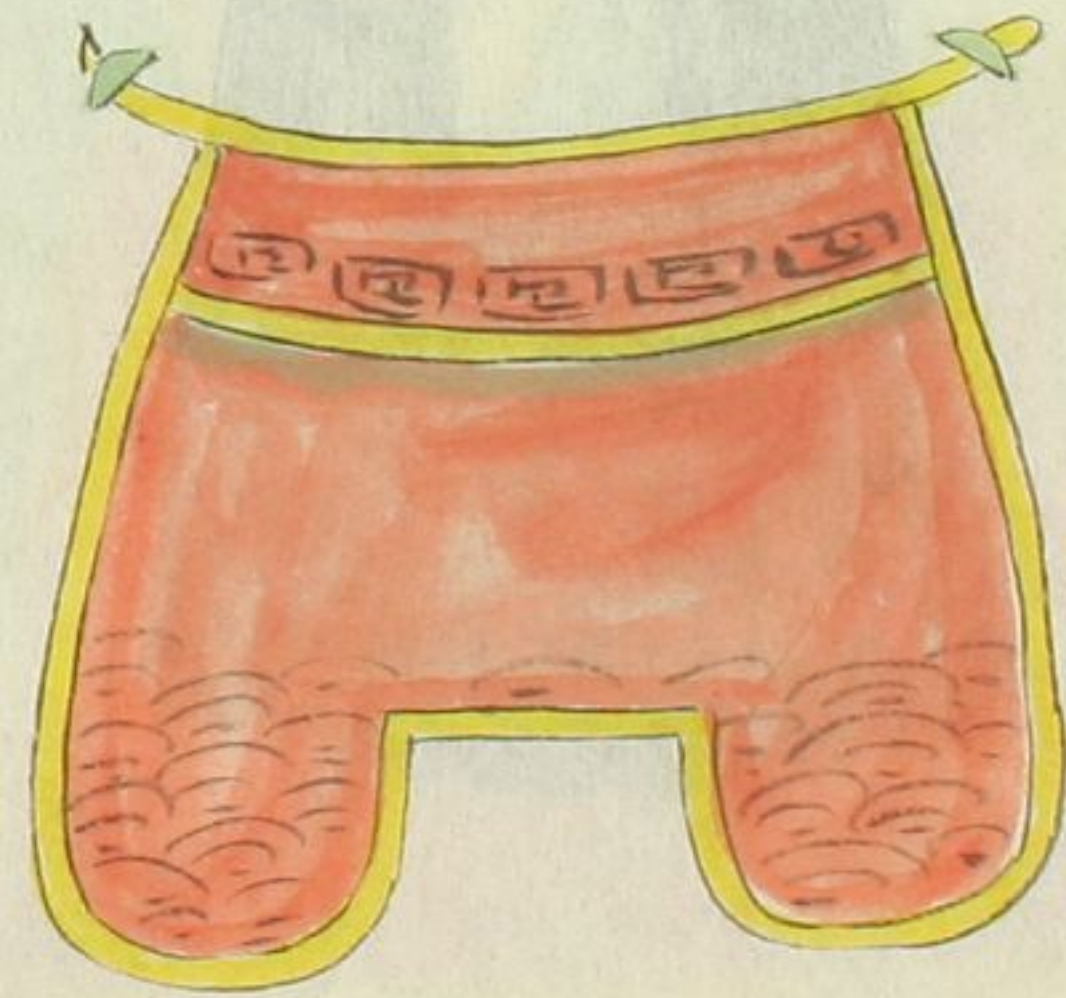


馬身甲之圖  
湯冑之圖  
此二物  
見於  
武備  
考  
卷之  
一  
下  
二  
圖  
也  
今  
以  
此  
圖  
自  
蓋  
至  
馬  
面  
之  
大  
雅  
鈎  
背  
鏃  
錫  
又  
看  
符  
節  
也

雲球之圖



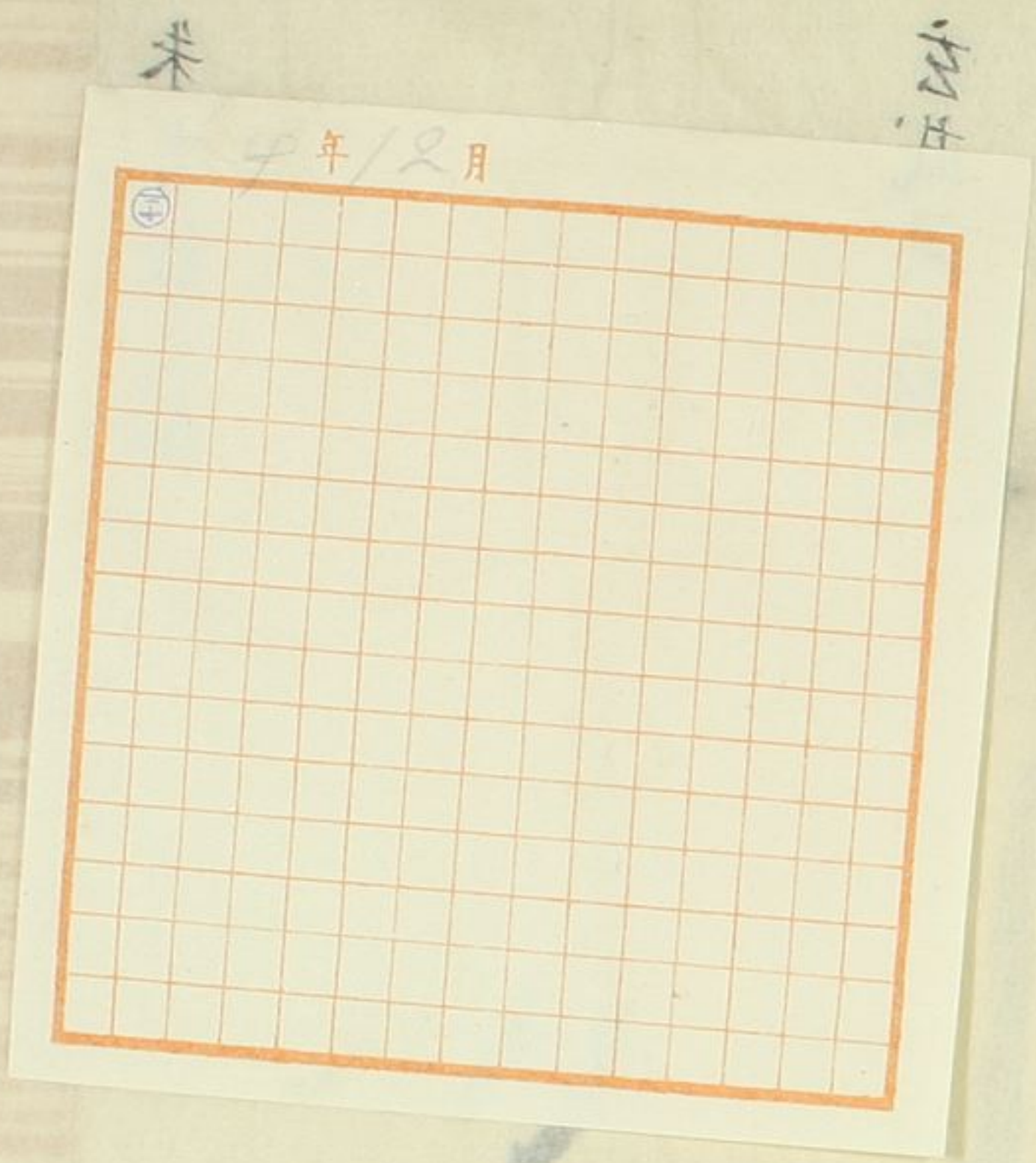
搭後之圖



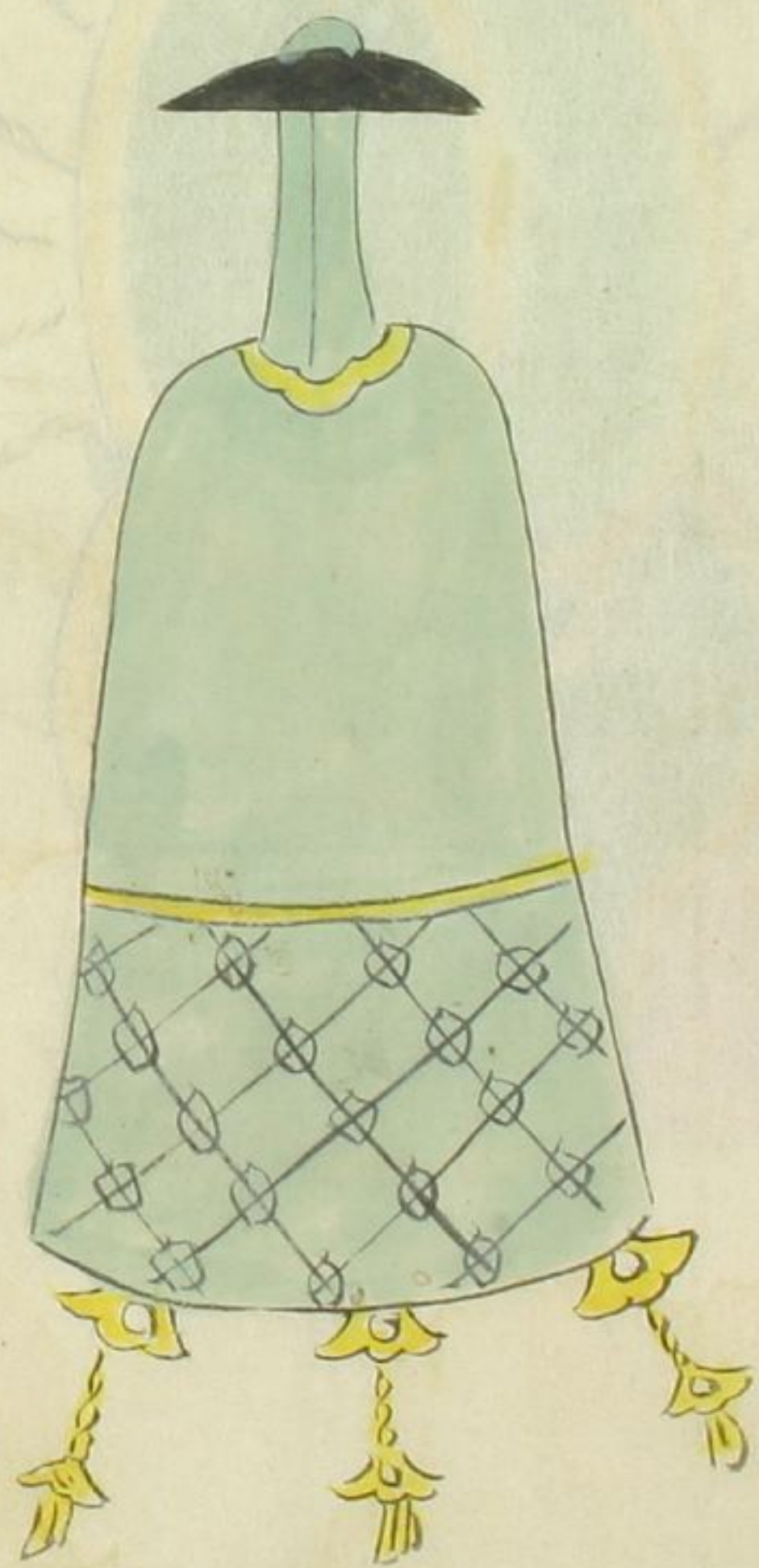
頸總之圖



本朝軍器考圖式卷之九 大尾



頸總之圖



本朝軍器考圖式卷之九 大尾

大尾圖

大尾圖

